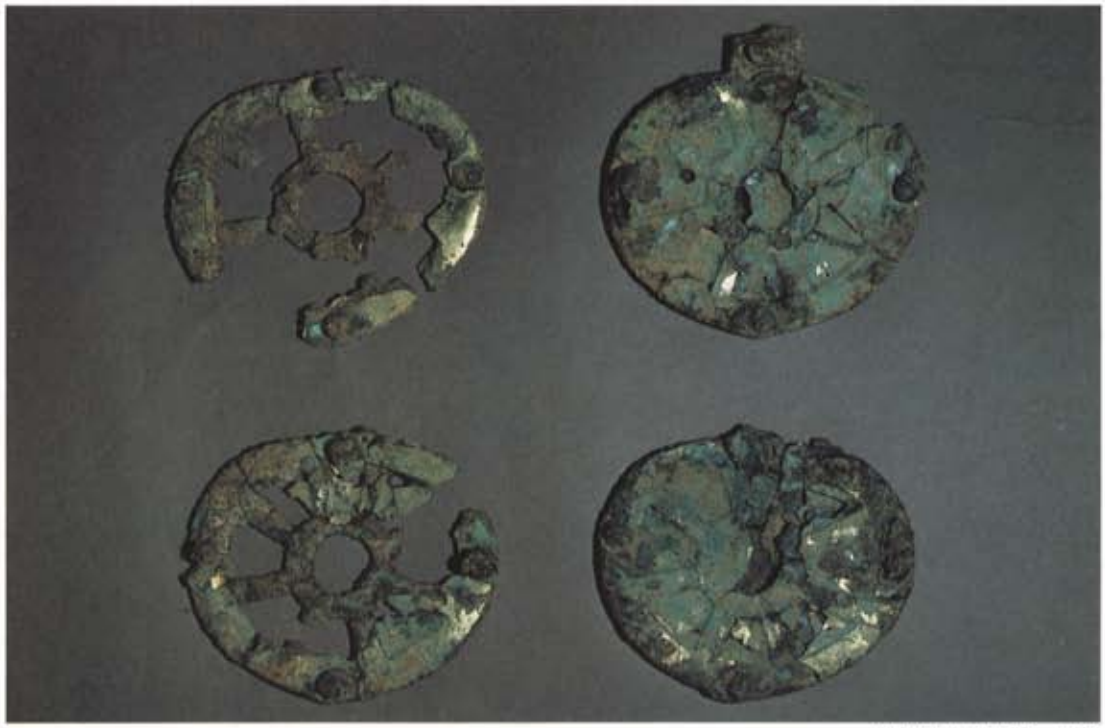
佐賀県文化財調査報告書第76集

東多久バイパス関係
埋蔵文化財調査報告書

1984年3月

佐賀県教育委員会



小城炭坑跡跡古墳・杏葉

佐賀県文化財調査報告書第76集

東多久バイパス関係
埋蔵文化財調査報告書

山の上古墳群・小城炭坑跡古墳
出口A遺跡・鴻ノ巣遺跡

1984年3月

佐賀県教育委員会

序

この報告書は，佐賀県教育委員会が建設省の委託を受けて実施した，東多久バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査記録であります。

本調査は昭和55年度に開始，以来4ヶ年にわたって進められ，本年度をもって全体を完了いたしました。多久市は，旧石器時代遺跡をはじめとし，県下でも特色ある遺跡を多く抱えた地域であります。調査の結果は本書に述べるとおり，弥生時代から古墳時代を中心として重要な多くの遺跡の存在が明らかになりました。調査後，これらの遺跡は消滅してしまいましたが，本報告書がその記録として広く活用されることを願う次第であります。

なお，調査にあたり，多久市教育委員会・地元並びに関係各位に多大な御協力をいただきましたことを，心から感謝申し上げます。

昭和59年3月31日

佐賀県教育委員会

教育長　古　藤　　浩

例　　言

1．本書は一般国道203号の東多久バイパス建設に伴う事前調査として，昭和55年度から昭和58年度にかけて発掘調査した多久市東多久町所在の山の上古墳群・小城炭坑跡古墳・出口A遺跡・鴻ノ巣遺跡（北多久町にまたがる）ほかの調査報告書である。

2．発掘調査は，建設省佐賀国道工事事務所の委託事業として佐賀県教育委員会が実施した。

3．発掘調査にあたっては，多久市・多久市教育委員会，および地元の方々の御助力を得た。

4．本書の執筆分担は，Ⅰを田平徳栄，Ⅱを西村隆司が担当した。

5．遺構の実測は，調査員並びに調査補助員と多久発掘調査事務所の花田悦子・村上はる子・首藤章子他が行い，遺物の実測は松尾吉高・松尾直子と文化財資料室の島　孝子・石井のり子・藤原倫子・馬場美奈子・武藤直子・山口成子・野口百合子・青木瑞江が行った。製図は調査員並びに調査補助員と多久発掘調査事務所の山田由子が行った。拓本は島　孝子による。

復元作業は多久発掘調査事務所の谷崎美代子・江藤敦子・広瀬伸子他が行った。

遺構写真撮影は各調査員が，遺物写真撮影は原口　定が行い，写真の現像・焼付は古賀栄子が行った。

鉄器の保存処理は友貞菜穂子が行い佐賀県立博物館の協力を得た。

6．本書の作成，編集は西村隆司が行い，松尾吉高・蒲原宏行の助言を得た。

凡　　例

1．遺構については各遺跡ごとに一連番号を付し，その前にＳＢ：建物・住居跡，ＳＪ：甕棺墓，ＳＫ：土壙・貯蔵穴・穴，ＳＴ：古墳，ＳＸ：その他の遺構の分類記号を標記する。

2．遺構の寸法数字はｍ単位，遺物の寸法数字はcm単位を原則とした。

3．実測図基準は国土座標による。

目　　次

Ⅰ．調査の概要 …… 1
1．調査に至るまで …… 3
2．調査の経過 …… 3
3．調査組織 …… 4

Ⅱ．遺　跡 …… 5
山の上古墳 …… 7
1．遺跡の概要 …… 9
2．遺　構 …… 12
3．遺　物 …… 21
4．線刻文様 …… 31
5．小　結 …… 33
小城炭坑跡古墳 …… 35
1．遺跡の概要 …… 36
2．遺　構 …… 37
3．遺　物 …… 39
4．小　結 …… 46
出口Ａ遺跡 …… 47
1．遺跡の概要 …… 48
2．遺　構 …… 49
3．遺　物 …… 50
4．小　結 …… 51
鴻ノ巣遺跡 …… 53
1．遺跡の概要 …… 54
2．遺　構 …… 56
3．遺　物 …… 63
4．小　結 …… 66

挿　図　目　次

Fig. 1　東多久バイパス周辺遺跡分布図 …… 8
Fig. 2　山の上古墳群周辺地形図 …… 9
Fig. 3　山の上古墳群古墳配置図 …… 11
Fig. 4　山の上古墳群ＳＴ008 古墳石室実測図 …… 13
Fig. 5　山の上古墳群ＳＴ009 古墳石室実測図 …… 14
Fig. 6　山の上古墳群ＳＴ010 古墳石室実測図 …… 15
Fig. 7　山の上古墳群ＳＴ011 古墳石室実測図 …… 16
Fig. 8　山の上古墳群ＳＴ012 古墳石室実測図 …… 17
Fig. 9　山の上古墳群ＳＴ013 古墳石室実測図 …… 19
Fig. 10　山の上古墳群ＳＴ014 古墳石室実測図 …… 20
Fig. 11　山の上古墳群出土土師器・須恵器実測図 …… 21
Fig. 12　山の上古墳群ＳＴ014 古墳出土鉄器実測図 …… 22
Fig. 13　山の上古墳群ＳＴ014 古墳遺物出土状況図 …… 23
Fig. 14　山の上古墳群ＳＴ013 古墳出土玉類実測図 …… 23
Fig. 15　山の上古墳群ＳＴ014 古墳出土玉類実測図 …… 24
Fig. 16　山の上古墳群ＳＴ014 古墳線刻文様拓影 …… 31
Fig. 17　小城炭坑跡古墳地形図 …… 36
Fig. 18　小城炭坑跡古墳石室実測図 …… 38
Fig. 19　小城炭坑跡古墳出土土師器・須恵器実測図 …… 39
Fig. 20　小城炭坑跡古墳遺物出土状況図 …… 40
Fig. 21　小城炭坑跡古墳出土鉄器（武器）実測図 …… 41
Fig. 22　小城炭坑跡古墳出土杏葉実測図 …… 42
Fig. 23　小城炭坑跡古墳出土鉄器（馬具）実測図 …… 43
Fig. 24　小城炭坑跡古墳出土装身具実測図 …… 44
Fig. 25　出口Ａ遺跡周辺地形図 …… 48
Fig. 26　出口Ａ遺跡遺構配置図 …… 49
Fig. 27　出口Ａ遺跡ＳＪ004 甕棺墓実測図 …… 49
Fig. 28　出口Ａ遺跡ＳＸ003 土器溜実測図 …… 50
Fig. 29　出口Ａ遺跡出土須恵器実測図 …… 50

Fig. 30　鴻ノ巣遺跡周辺地形図 ……54
Fig. 31　鴻ノ巣遺跡遺構配置図 ……55
Fig. 32　鴻ノ巣遺跡ＳＢ001住居跡実測図 ……56
Fig. 33　鴻ノ巣遺跡ＳＢ002住居跡実測図 ……57
Fig. 34　鴻ノ巣遺跡ＳＢ003住居跡実測図 ……58
Fig. 35　鴻ノ巣遺跡ＳＢ004・005住居跡実測図 ……60
Fig. 36　鴻ノ巣遺跡ＳＢ006住居跡実測図 ……61
Fig. 37　鴻ノ巣遺跡ＳＢ007住居跡実測図 ……62
Fig. 38　鴻ノ巣遺跡土壙実測図
（1. ＳＸ008土器溜，2. ＳＫ009土壙，3. ＳＫ010土壙，4. ＳＫ011土壙） ……62
Fig. 39　鴻ノ巣遺跡出土石器，鉄器実測図 ……64
Fig. 40　鴻ノ巣遺跡出土弥生土器実測図 ……65

表　目　次

Tab. 1　山の上古墳群ＳＴ013古墳出土玉類計測表 ……25
Tab. 2　山の上古墳群ＳＴ014古墳出土玉類計測表 ……27
Tab. 3　山の上古墳群古墳一覧表 ……32
Tab. 4　小城炭坑跡古墳出土装身具計測表 ……45

図 版 目 次

PL. 1　山の上古墳群遠景，同ＳＴ 008 古墳

PL. 2　山の上ＳＴ 009 古墳，同遺物出土状況

PL. 3　山の上ＳＴ 010 古墳，同ＳＴ 011 古墳

PL. 4　山の上ＳＴ 012 古墳，同ＳＴ 013 古墳

PL. 5　山の上ＳＴ 014 古墳，同奥壁

PL. 6　山の上ＳＴ 014 古墳奥壁線刻文様，同鉄器出土状況，同玉類出土状況

PL. 7　山の上ＳＴ 009 古墳出土土師器，同出土須恵器，同ＳＴ 014 古墳出土鉄器

PL. 8　山の上ＳＴ 013 古墳出土玉類，同ＳＴ 014 古墳出土玉類

PL. 9　小城炭坑跡古墳遠景，同古墳発掘前

PL. 10　小城炭坑跡古墳

PL. 11　小城炭坑跡古墳馬具出土状況，同耳環出土状況

PL. 12　小城炭坑跡古墳出土土師器，同出土須恵器，同出土鉄器（武器）

PL. 13　小城炭坑跡古墳出土鉄器（馬具杏葉）

PL. 14　小城炭坑跡古墳出土鉄器（馬具），同出土装身具

PL. 15　出口Ａ遺跡（航空写真），同ＳＸ 003 土器溜

PL. 16　出口Ａ遺跡ＳＪ 004 甕棺墓，同遺跡出土須恵器

PL. 17　鴻ノ巣遺跡遠景

PL. 18　鴻ノ巣遺跡ＳＢ 001 住居跡，同ＳＢ 002 住居跡

PL. 19　鴻ノ巣遺跡ＳＢ 003 住居跡，同ＳＢ 004～007 住居跡全景

PL. 20　鴻ノ巣遺跡ＳＢ 004・ＳＢ 005 住居跡，同ＳＢ006住居跡

PL. 21　鴻ノ巣遺跡ＳＢ 007 住居跡，同ＳＸ 008 土器溜

PL. 22　鴻ノ巣遺跡出土弥生土器

PL. 23　鴻ノ巣遺跡出土弥生土器，石器，鉄器

Ⅰ　調査の概要

調　査　の　概　要

1．調査に至るまで

東多久バイパス建設についての路線発表は昭和48年9月に行われた。この路線決定に際しては，当初から破壊される恐れのある埋蔵文化財の取扱いが問題となっていたが，県文化課では建設省佐賀国道工事事務所の依頼を受け，昭和54年6月に事前の路線内遺跡分布調査を行い，その結課，10ヶ所，28,260m² に及ぶ遺跡の存在を回答した。これに基づき，県文化課は建設省と数次の協議を行い，発掘調査の方法等について，具体的な実施計画の検討に入った。そして，路線内の埋蔵文化財については基本的に発掘調査で対処することとし，調査は佐賀県文化課が建設省佐賀国道工事事務所の委託を受けて実施することになった。また，実際の調査の進め方としては，工事工程に従い緊急性の高い地区から実施し，かつ，本路線に並行して建設される九州横断自動車道との関係で，同一遺跡がバイパスと横断道の両方にまたがる場合は，調査の効率化という点から，なるべく双方の調査を並行して行うこととした。横断道関係の調査は，県教育委員会が多久市教育委員会の協力を受けて既に調査を開始していたが，並行調査ということで，多久市教育委員会には横断道関係調査同様，全面的な協力をお願いすることになった。

2．調査の経過

発掘調査は昭和55年11月1日，池ノ平地区から開始した。これは，同地区が地すべり危険地域指定地であるため，バイパスの本体工事以前に集水ボーリング，鋼管杭等の関連工事が先行することによる。この年度では，池ノ平地区でバイパスと横断道の両方にかかる池ノ平遺跡と山の上古墳群のうち，8号墳～14号墳の7基，2ヶ所計13,000m²の調査を行った（山の上1号墳～7号墳は横断道路線内）。

昭和56年度は小城炭坑跡古墳1基と石亀谷（ごうずがたに）遺跡，射場谷（いばんたに）遺跡および中村谷遺跡の計4ヶ所，11,000 m²について横断道関係との並行調査を行った。このうち小城炭坑跡古墳は再踏査の段階で新たにその存在が知られ，追加調査に及んだものである。

昭和57年度は仁位所遺跡A・Bと出口A遺跡の計3ヶ所，3,800m²について，横断道関係と並行する調査を行った。両遺跡とも上面が相当荒らされていることもあって，出口A遺跡で弥生時代の甕棺墓1基が検出されたが，仁位所遺跡では明確な遺構は検出されなかった。

昭和58年度も横断道関係調査と並行して，鴻ノ巣遺跡と右近城・左近城跡の2ヶ所，11,600 m²の調査を行った。鴻ノ巣遺跡では比較的まとまった弥生時代住居跡群を検出，しかし，後者の

中世山城伝承地は急傾斜部で，堀や土塁などの遺構は認められなかった。

以上，東多久バイパスにかかる文化財発掘調査は，昭和55年度から4年次にわたって実施し，本年度をもって完了した。この間，実調査面積は当初の予想を大幅にこえ，結果的に39,400㎡，調査箇所も11ヶ所にふえた。

なお，調査対象となった11ヶ所のうち，今回報告するのは山の上古墳群，小城炭坑跡古墳，出口A遺跡，鴻ノ巣遺跡の4ヶ所である。他はいずれも，遺物は若干採集されたが，遺構がはっきりせず，遺跡としての性格が今一つ明確でないので敢えて詳報しないこととする。多くは遺物の流れ込みと考えられる。

3．調査組織

●昭和55年度

調査総括　髙島忠平（文化課専門員）

調査担当　樋渡敏暲（文化課指導主事）

西村隆司（多久市教育委員会社会教育係）

後中筋正徳（文化課嘱託）

調査補助　松尾直子，山口弘，釘本堅太，藤木弁昇

●昭和56年度

調査総括　髙島忠平（文化課課長補佐）

調査担当　樋渡敏暲（文化課調査第一係長）

西村隆司（多久市教育委員会社会教育係）

堤　安信（文化課嘱託）

調査補助　山口弘，釘本堅太，豊田一義

●昭和57年度

調査総括　髙島忠平（文化課課長補佐）

調査担当　樋渡敏暲（文化課調査第一係長）

西村隆司（多久市教育委員会社会教育係）

堤　安信（文化課嘱託）

調査補助　松尾直子，朝原良寛，熊手達夫

●昭和58年度

調査総括　髙島忠平（文化課課長補佐）

調査担当　中牟田賢治（文化課調査第一係長）

西村隆司（多久市教育委員会社会教育係）

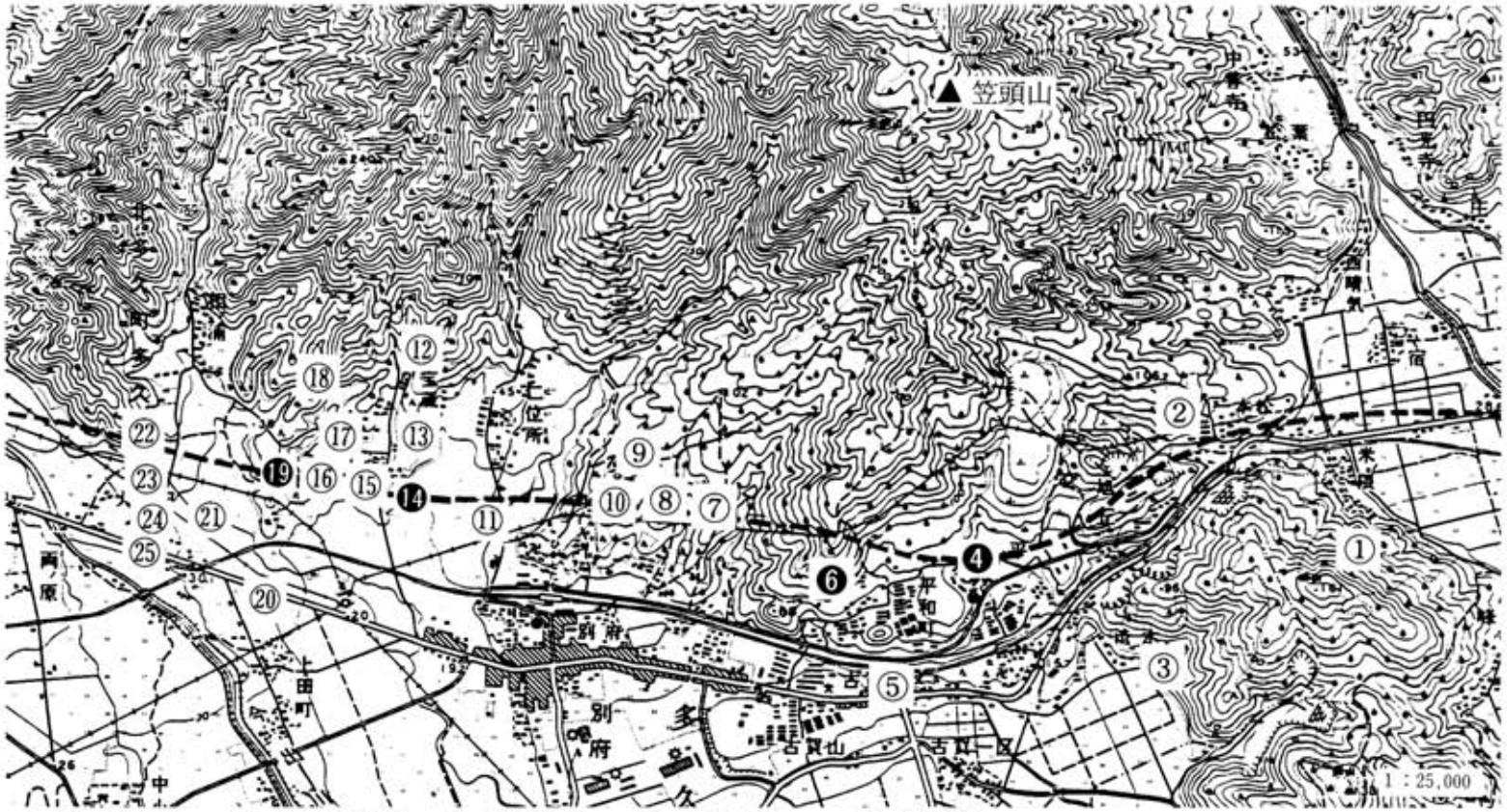
調査補助　松尾直子，山口弘，宮副雅彦，倉富正俊

II　遺　　跡

山の上古墳群

やま　うえ

遺　跡　名：山の上古墳群（略号ＹＭＵ）
遺跡所在地：多久市東多久町大字別府字池の平、字大平、字堤口



1	米ノ隈古墳群	⑥	山の上古墳群	11	仁位所遺跡	16	西出口遺跡	21	原田遺跡
2	一本松古墳群	7	石亀谷遺跡	12	宝蔵寺古墳群	17	宝蔵寺溜池遺跡	22	左近城跡
3	渋木古墳群	8	射場谷遺跡	13	宝蔵寺遺跡	18	相ノ浦古墳群	23	大工田古墳群
④	小城炭坑跡古墳	9	向野古墳群	⑭	出口A遺跡	⑲	鴻ノ巣遺跡	24	今出川B遺跡
5	古賀山1号古墳	10	中村谷遺跡	15	出口B遺跡	20	大工田遺跡	25	今出川A遺跡

- - - - 東多久バイパス計画路線

Fig. 1　東多久バイパス周辺遺跡分布図

山の上古墳群

1．遺跡の概要 (Fig.2, PL.1-1)

多久盆地の東北の壁となる天山山系の笠頭山（337 m）南麓の丘陵地一帯は，縄文時代晩期の遺跡や古墳群など数多くの遺跡が集中する地域として早くから知られ，これまで数次の文化財発掘調査が実施されている。渋木1号古墳(昭和33年)，古賀山1号古墳，赤子谷古墳群(昭和40年)，向野古墳群（昭和42年）がその主なもので，狭い平野部と牛津川を挟んで対峙する両子山（372 m）山麓の丘陵に集中する古墳群とともに市内でもっとも古墳の分布密度が高い地域の一つである。

山の上古墳群が所在する多久市東多久町大字別府字池ノ平，字大平，字堤口の南側一帯は小城炭坑の社宅や貯炭場，工場建物に利用され，北側の山手は笠頭山まで一部を雑木林で残し，大部分は橘柑園に開墾されている。住宅地などに利用された山の上区，池ノ平区では宅地造成

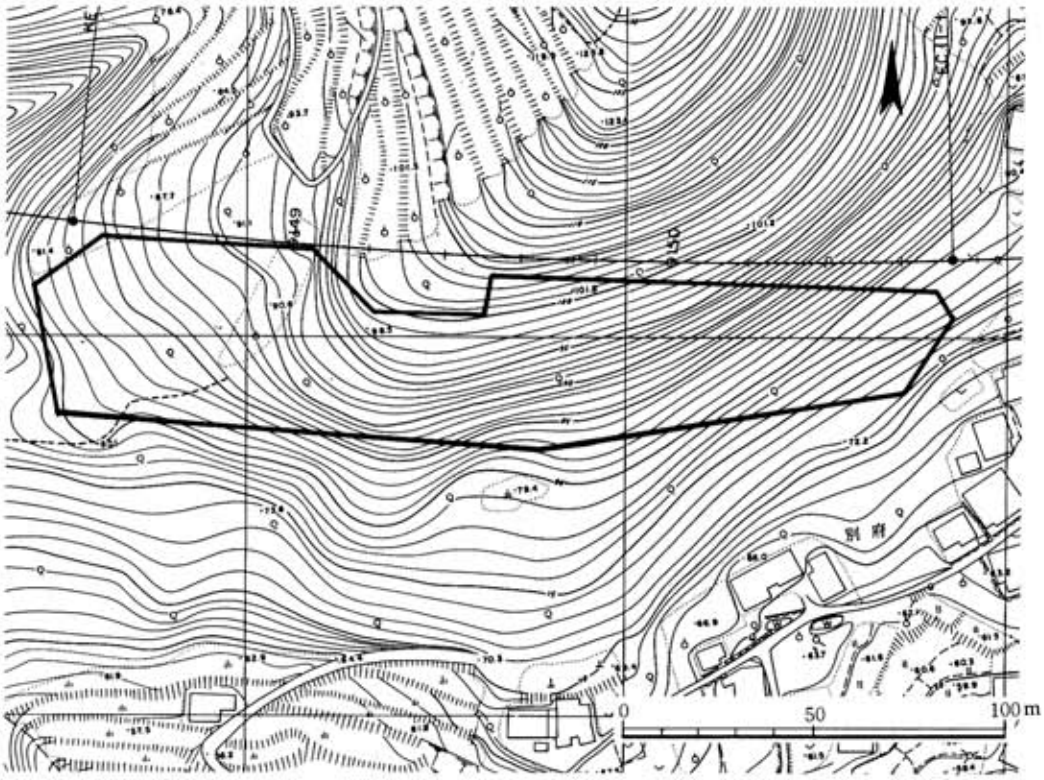


Fig. 2　山の上古墳群周辺地形図

のため，相当数の古墳を破壊し社宅を建設したといわれている。またボタ山になる以前に約10基の古墳があったといわれ，開発前は大規模な古墳群だったようだ。

山の上古墳群は笠頭山から南に派生する通称「上り山（あがりやま）」の南に面する標高60～100 mの急傾斜面に部分的に形成された緩斜面の狭い台地上に築造された16基から成る古墳群であるが，これまで地元住民の一部の人が数基の古墳について知る程度で，市，県教育委員会も古墳の存在を知らず，遺跡台帳や遺跡分布地図には未登録であった。古墳群周辺は明治時代中頃まで採石が行われ，古墳の石室や天井石などの石材も採石の対象となったようで，原形をとどめる古墳は少なかった。また付近一帯には石室の石材として使用可能な巨石が集められ，何か所もの石塚が築かれていることから16基以外にも古墳が存在していたことが予想できる。16基の古墳のうち，14基が九州横断自動車道および東多久バイパス建設用地にかかり，残る2基は東多久バイパス南側の雑木林の中にあり，今回の開発からは免れた。

古墳の名称は東側に築造されたものから順に西側へ，九州横断自動車道建設用地内の古墳を優先させ，ＳＴ001古墳～ＳＴ007古墳とし，東多久バイパス建設用地内の7基をＳＴ008古墳～ＳＴ014古墳とした。雑木林内に残る2基にも東からＳＴ015古墳，ＳＴ016古墳の名称を用いた。

九州横断自動車道に係る7基の古墳については別に報告を予定しているので，ここでは詳細については省略するが，山の上古墳群を形成する16基の古墳群の性質を知る上で7基の古墳を無視することはできず，7基の古墳について簡単にその概要を紹介する。

ＳＴ001古墳は山の上古墳群の最東部に位置し，標高70 mの緩傾斜面に築造された最大規模の円墳で，直径15 mの墳丘を持ち，内部主体は南に開口する横穴式石室で，玄室の法量は長さ3.0 m，幅2.3 m，羨道部は長さ2.0 m，幅1.4～2.0 mで外側に広がる。注目されるのは羨道部入口の両側に葺石が石垣状に積まれていたことである。出土遺物は石室前面で須恵器杯・杯蓋・甕・土師器の高杯が出土，玄室や羨道部で須恵器の杯・杯蓋など100個以上の土器と鉄鏃などの鉄器が出土した。

ＳＴ002古墳～ＳＴ006古墳の5基はＳＴ001古墳の北西に約40 m，標高75～83 mの急傾斜面および緩傾斜面に築造され，各古墳とも10 m内外の距離を保ち集中する。ＳＴ002古墳は果樹園開墾後の石捨場となった石塚の中に腰石だけを残す破壊古墳である。内部主体は南に開口する横穴式石室で，玄室の法量は長さ1.5 m，幅1.9 m，羨道部は長さ2.8 m，幅1.5～1.9 mと外側に扇状に広がる。玄室から須恵器の高台付杯・杯蓋・土師器の杯・杯蓋と鉄鏃が出土している。

ＳＴ003古墳も南に開口する横穴式石室を有し，残存する墳丘の直径は5.0 mを測る。天井石は玄室内に落込み，玄室入口は閉塞石で閉鎖されていたが，石室前面は切り取られ段があり，羨道の有無は確認できなかった。玄室から須恵器杯・杯蓋・土師器皿が出土した。

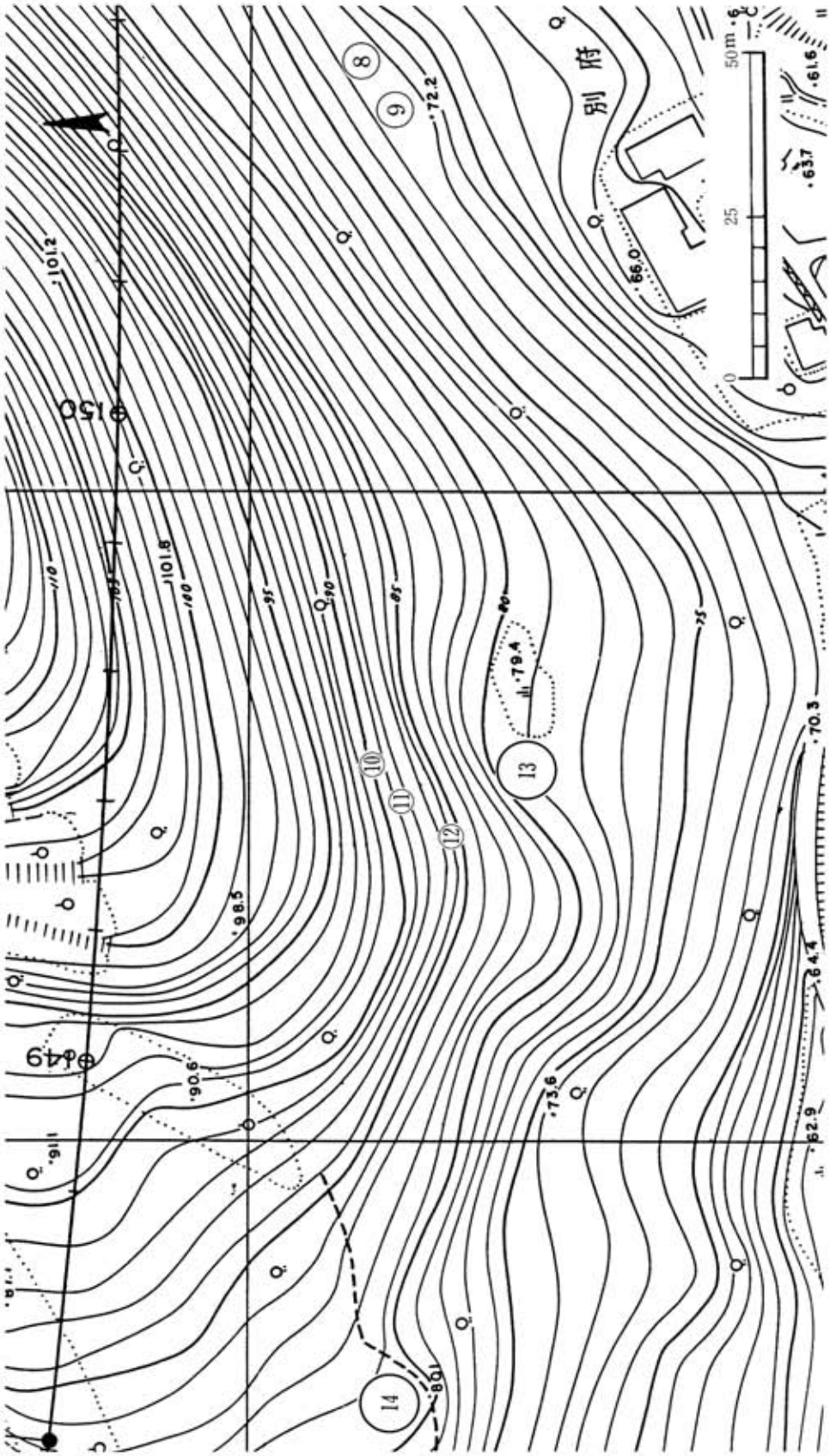


Fig. 3　山の上古墳群古墳配置図

ＳＴ 004 古墳はＳＴ 003 古墳の北に 10 m，標高 80 mの傾斜面に造られた円墳で，残存する墳丘の直径 5.1 mを測る。内部主体は南に開口する横穴式石室を有し，玄室の法量は長さ 1.9 m，幅 1.4 m，羨道部は長さ 1.0 m，幅 0.3 mと狭い。遺物は出土しなかった。

ＳＴ 005 古墳はＳＴ 004 古墳の東 4 mに並ぶ古墳で，石室は凹地にあり，玄室の 3 分の 1 は破壊され，墳丘の形や規模は判断できない。内部主体は南に開口する横穴式石室を有し，玄室の法量は長さ1.0m，幅1.0mと推定される。玄室から須恵器蓋が 1 個出土した。

ＳＴ 006 古墳はＳＴ 005 古墳の北に約 5 m，標高 83 mの傾斜面に築造された古墳で，玄室の奥壁と左側壁の腰石を残すだけの破壊古墳である。内部主体は南に開口する横穴式石室であろう。残存する腰石から長さ 1.2 m，幅 1.0 m前後の玄室と推定される。遺物は出土しなかった。

ＳＴ 00 7 古墳は山の上古墳群の中でもっとも標高が高い 102 mの上り山から南西に張り出した小台地に築造された直径 8.2 mの墳丘を残す円墳で，内部主体は南に開口する横穴式石室を有し，玄室の法量は長さ 2.2 m，幅 2.0 m，羨道部は長さ 1.5 m，幅 1.0 mを測る。遺物は石室前面で須恵器杯・蓋・甕の破片が出土，玄室から鉄鏃 3 点が出土した。

九州横断自動車道に係る 7 基の古墳を遺物や遺構から判断すると大きく三時期に分類できる。ＳＴ 007 古墳の石室前面で出土した須恵器杯・蓋は 6 世紀前半～中頃に編年されており県内で出土した須恵器のうち，古式グループに属し，山の上古墳群のなかで最古の古墳であろう。ＳＴ 001 古墳出土の須恵器は 7 世紀前半から中頃に編年され，ＳＴ 002 古墳から出土した須恵器杯・蓋がこれに続く。ＳＴ 005 古墳，ＳＴ 006 古墳もほぼ同時期になる。ＳＴ 003 古墳は 7 世紀中頃から後半に編年される須恵器が出土，ＳＴ 004 古墳もこの時期の築造であろう。

2．遺　　構

ＳＴ008古墳 (Fig.4, PL.1-2)

ＳＴ 008 古墳は東多久バイパスに係る古墳の中で，もっとも東に位置し，ＳＴ 001 古墳の南西に約 80 m，標高 73 mの僅かな緩斜面に築造されている。古墳全体が採石後の残片で覆われ，墳丘，石室ともかなり破壊されていたが，古墳と断定したのは敷石の一部を確認してからである。発掘の結果，南に開口する横穴式石室であったが，天井石や玄室の腰石も一部取り除かれ，敷石の一部を残し削平されており，遺物は出土しなかった。

墳丘　盛土の大部分は失われて，採石後の残片が古墳全体を覆い，墳丘の規模を正確に把握することはできなかったが，東西に残存する墳丘を延長すると，直径 4.6 mの円墳となる。葺石や周溝は存在しない。地山整形はほとんど行われておらず，玄室の腰石を 10～20 cm埋め込む

程度で自然地形を利用している。

内部主体　ほぼ南に開口する横穴式石室である。天井石や玄室の左側壁奥の腰石は抜き取られ，採石後の残片は玄室内にも投げ込まれていた。右側壁と奥壁の一部に腰石から上部の石組が2～3段残り，持送りがわかる。玄室と羨道部を区切る梱石も取り除かれ，羨道部は腰石を残すだけで袖石の有無も判断できなかった。玄室の法量は正確ではないが長さ1.5 m，幅1.6 m，羨道部の長さ1.1 m，幅0.9 mを測る。敷石は右側壁～奥壁右側の一部に残り大部分は削平され，玄室中央部から南は地山が露出していた。自然地形を利用して築造された古墳のため敷石は羨道部へやや勾配を持つ。石材は上り山に産出する玄武岩が用いられている。

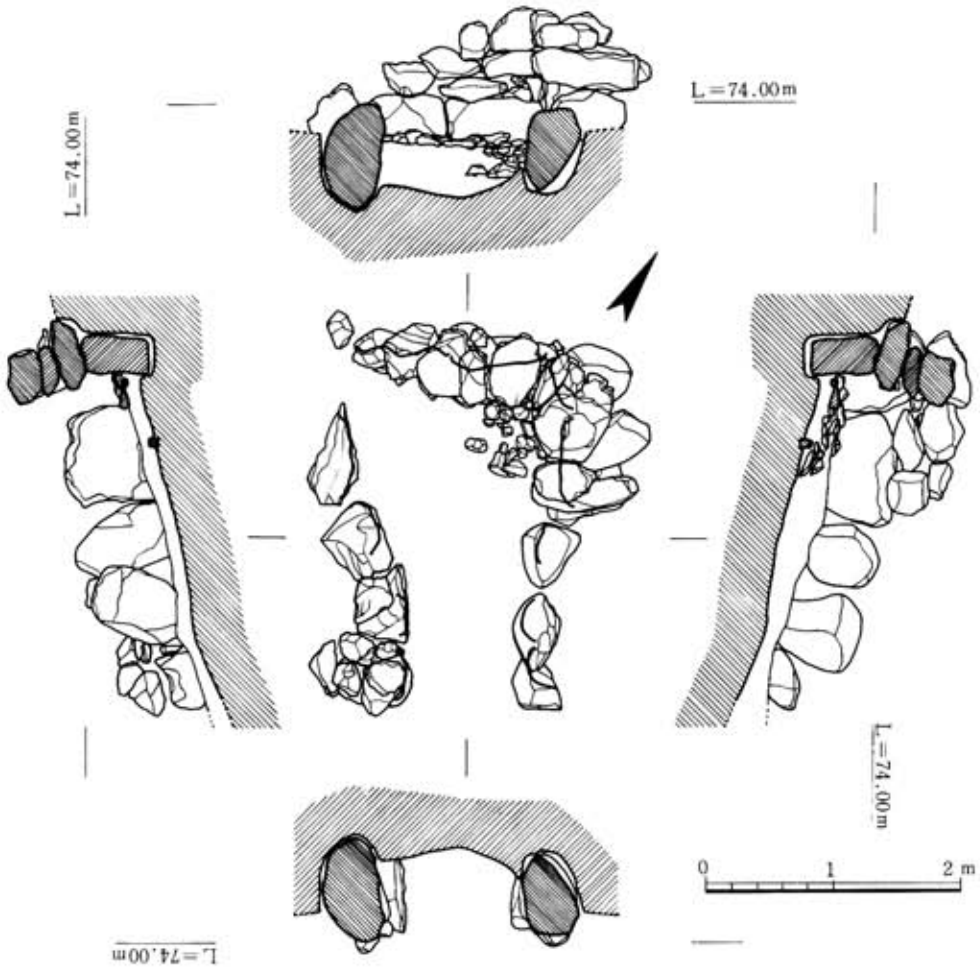


Fig. 4　山の上古墳群ＳＴ 008 古墳石室実測図

ＳＴ009古墳 (Fig.5, PL. 2)

ＳＴ009古墳はＳＴ008古墳の西13ｍにあり，地形的にも同じ条件の傾斜面に築造された古墳である。墳丘全体が採石後の残片で覆われ，石室の破壊も著しかったが，腰石や敷石はほぼ原形をとどめていた。内部主体は南に開口する横穴式石室を有し，玄室内で須恵器杯や土師器皿などの遺物が出土した。

墳丘　墳丘は削平された後，採石の残片が捨てられ，残存する墳丘は直径4.8ｍを測り，円墳である。羨道部の両側に葺石らしい列石が残る。周溝が掘られた形跡はない。地山整形はほとんど行われておらず，奥壁腰石部を浅く掘り自然地形上に築造されている。

内部主体　南に開口する横穴式石室で，天井部はすでに取り除かれ，玄室，羨道部とも腰石を残すだけである。玄室の法量は長さ1.6ｍ，幅1.5ｍ，羨道部は長さ1.6ｍ，幅0.7ｍで左側の袖石は抜き取られている。梱石は玄室と羨道部を正確に区切らず，袖石から0.5mほど羨道部に入り込む。敷石は玄室全面に扁平な角礫が敷かれ，梱石まで延び，やや勾配を持つ。玄武岩を石材に用いている。

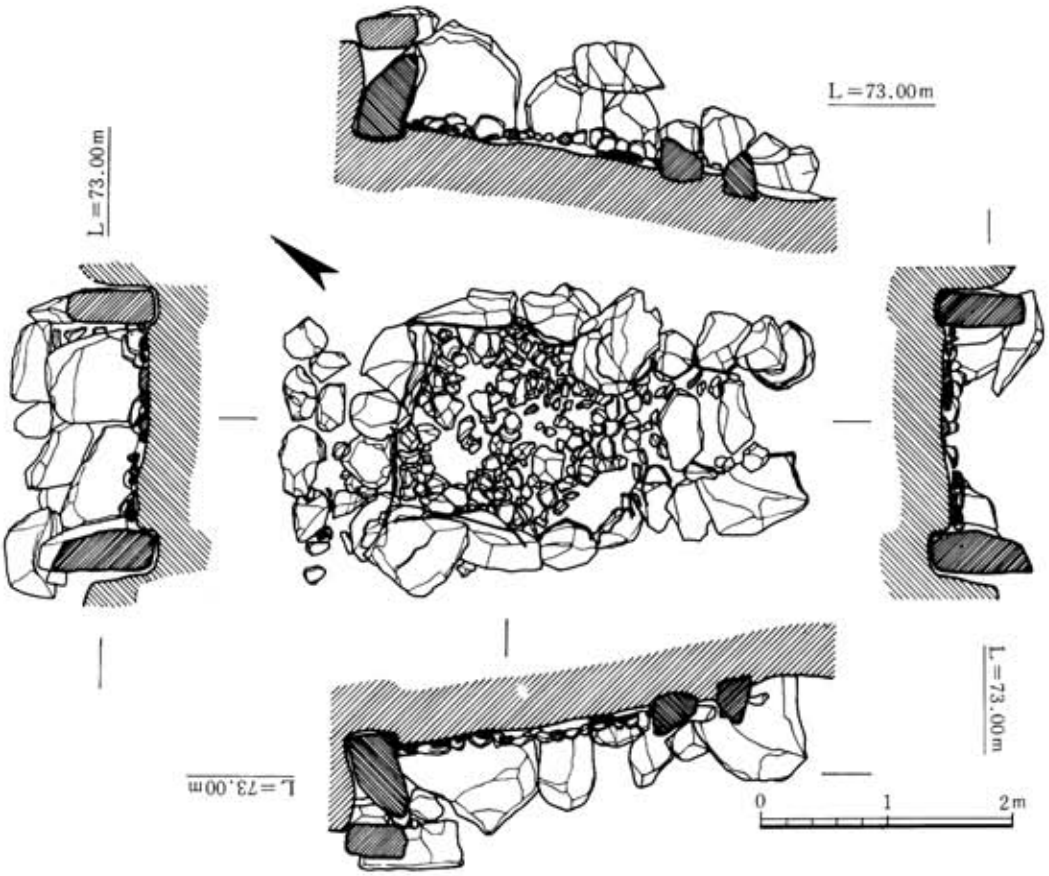


Fig. 5　山の上古墳群ＳＴ009古墳石室実測図

ＳＴ010古墳 (Fig.6, PL.3-1)

ＳＴ010古墳はＳＴ009古墳の西方に約55ｍ，標高83ｍの傾斜面に築造された円墳で，ＳＴ011古墳，ＳＴ012古墳と10～13ｍの間隔で並んでいた。内部主体は南に開口する横穴式石室を有し，石室前面で須恵器杯が出土した。

墳丘　墳丘の一部は削平され，盛土も部分的に失われていた。正確な墳丘の規模はわからないが，残存する墳丘は直径4.2ｍを測る。葺石や周溝は認められなかった。地山整形もほとんど行われず，自然地形を利用し築造している。

内部主体　ほぼ南に開口する横穴式石室を有する。玄室の法量は長さ1.2ｍ，幅1.2～1.5ｍを測り，右側壁は曲線を描き袖石に接する。羨道部は削平され，袖石付近にその一部を残すだけであるが，敷石の残存状態から長さ0.8ｍ，幅0.7ｍと推定される。玄室が狭く石材が小さい割には，敷石は0.1～0.3ｍの大きな角礫を使用し，玄室の全面と羨道部まで敷き詰められ，玄室から羨道部にかけやや勾配を持ち，玄室奥と袖石付近での敷石上面の比高差は0.15ｍを測る。梱石は存在しなかった。

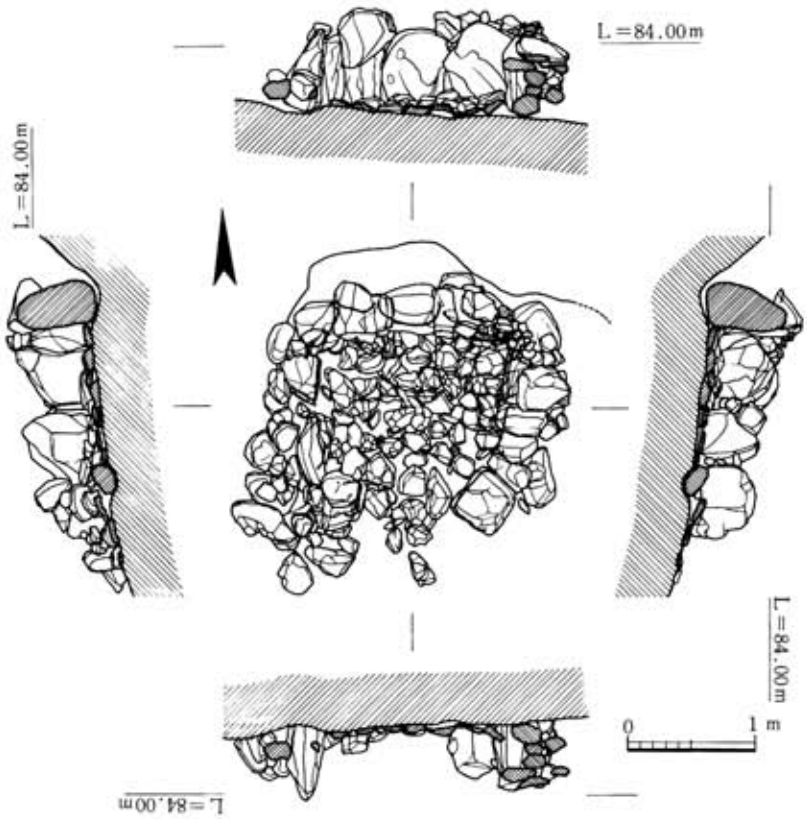


Fig. 6　山の上古墳群ＳＴ010古墳石室実測図

ＳＴ011古墳 (Fig.7, PL.3-2)

ＳＴ011古墳はＳＴ010古墳の西13ｍ，ＳＴ012古墳の東に10ｍ，標高82ｍの傾斜面に築造された小円墳で，南に開口する横穴式石室を有する。この古墳も破壊が著しく，玄室と羨道部の腰石と腰石上に一段の石積を残し，敷石も数個を残すだけであった。遺物は石室前面で須恵器蓋の破片が出土した。

墳丘　古墳の大部分が削平され，残存する墳丘直径は5.1ｍを測る円墳である。羨道部の両側から墳丘後方に向けて葺石の一部が残っており，傾斜面を利用して築造された古墳の特徴を示す。周溝が掘られた形跡は認められなかった。地山整形も行われていない。

内部主体　ほぼ南に開口する横穴式石室を有し，腰石と部分的に腰石の上に一段の石積を残すだけである。腰石は幅0.4～1.0ｍ，高さ0.4～0.7ｍと小さい。玄室の法量は長さ1.4ｍ，幅1.0ｍ，羨道部の長さ1.1ｍ，幅0.5ｍを測る。敷石は玄室内に数個を残すだけだが，築造当時は全面に敷かれていたようだ。羨道部にある礫は閉塞石の一部である。

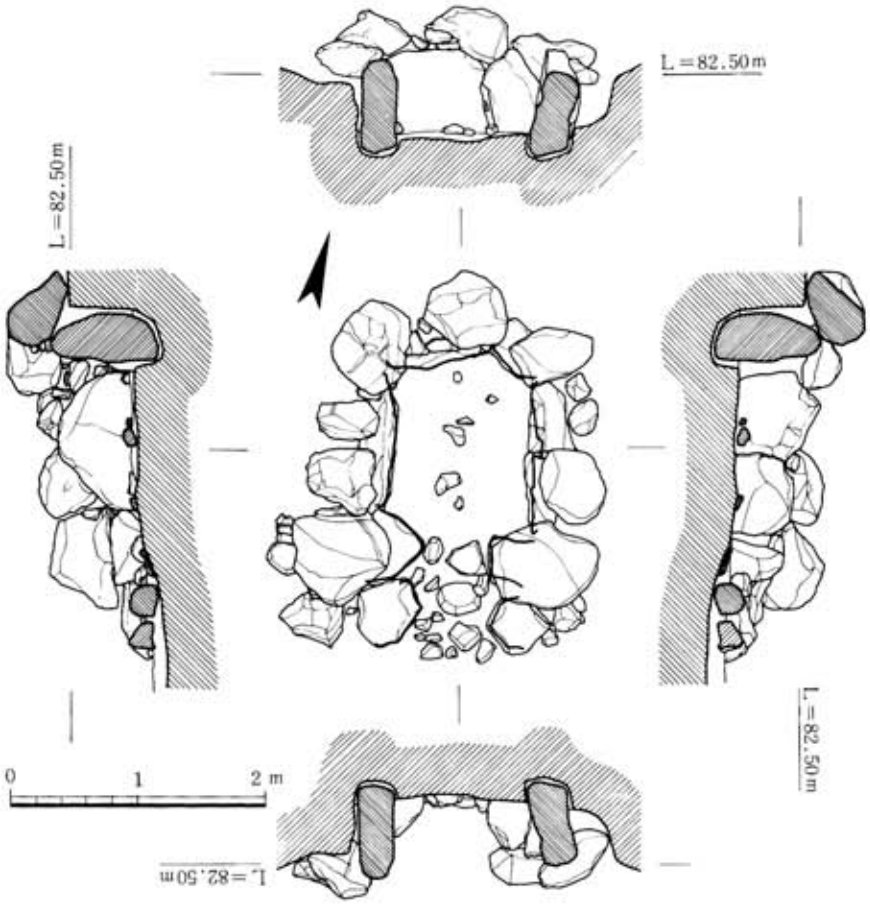


Fig. 7　山の上古墳群ＳＴ011古墳石室実測図

ＳＴ012古墳 (Fig.8, PL.4-1)

ＳＴ012古墳はＳＴ010古墳，ＳＴ011古墳と並んだ3基の古墳のうち，もっとも西にあり，標高82 mの傾斜面に築造されている。山の上古墳群の中で最小の玄室を持ち，形式的に袖石を残す小円墳である。遺物は石室前面から須恵器杯・蓋の破片が出土した。天井石と一部の側壁が取り除かれている以外は残存度は良好で，古墳時代終末期の典形的な古墳として多久市多久町西渡公園内の多久市歴史民俗資料館裏に移転復元して公開している。

墳丘　残存する墳丘は直径3.5 m，高さ1.0 m弱と規模が小さく，最初は古墳と判断できなかった。葺石，周溝とも認められず，地山整形も行われていない。

内部主体　南に開口する横穴式石室を有するが，袖石の幅は0.4 mと狭く，玄室の高さも最高0.7～0.8 mで，横穴式石室の持つ本来の用途は失われている。腰石は0.5 m内外の高さで二段の持送りの上に天井石が乗せられていたようである。羨道部は造られていない。石室の法量は長さ1.0 m，幅1.0 mを測る。袖石の外側に一枚の閉塞石が残り，敷石は石室全面に敷かれている。敷石面はほぼ平担である。九州横断自動車道に係るＳＴ005古墳，ＳＴ006古墳と同じ規模の石室である。

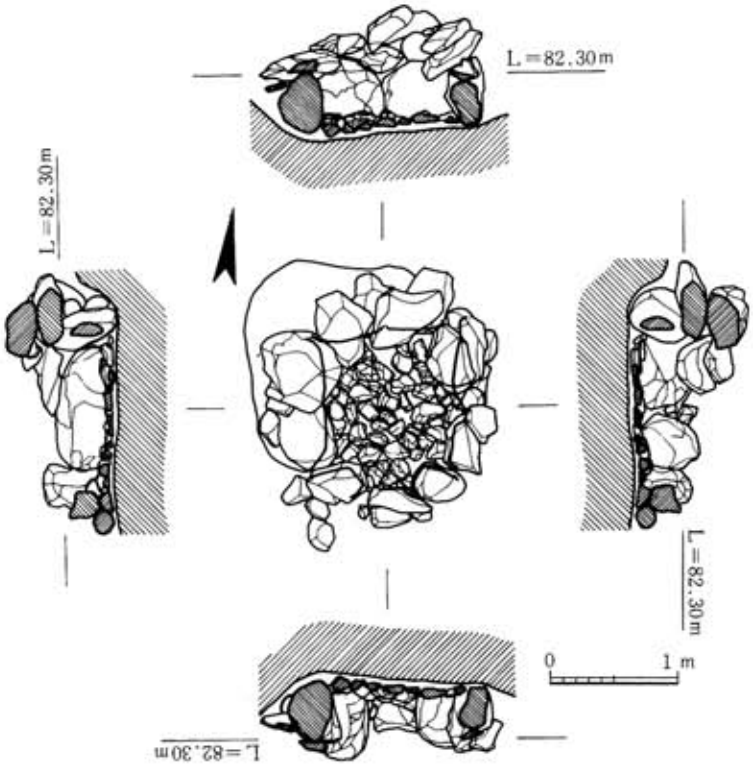


Fig.8　山の上古墳群ＳＴ012古墳石室実測図

ＳＴ013古墳 (Fig.9, PL.4-2)

ＳＴ013古墳はＳＴ010古墳の南に20ｍ，標高78ｍの緩傾斜面に位置する円墳で，墳丘の上部はほぼ平担に削平され，残存する墳丘の直径は8.1ｍを測る。山の上古墳群のＳＴ013古墳を除く15基は，ほぼ南に開口する横穴式石室で，古墳の石材も上り山に産する玄武岩を用いているが，ＳＴ013古墳は西に開口し，石材も奥壁左腰石と右側壁奥の腰石は花崗岩を使用している。遺物は玄室の左奥壁付近でガラス製の小玉が多数出土した。

墳丘　墳丘は平担に削平され，南側の傾斜面に盛土を残した直径8.1ｍを測る円墳である。墳丘南側に列石が築かれていたが，列石下に採石後の残片が混入しており，後世に築かれたものであろう。葺石は存在しなかった。傾斜面を利用して築造した古墳のためか，周溝は掘られていない。地山整形は石室主軸部で1.2ｍの深さの平担部を造っている。

内部主体　ほぼ西に開口する横穴式石室を持つ。玄室の左側壁と奥壁左の腰石の上に二段の石積を残すほかは，すべて腰石だけと破壊は著しい。腰石は幅0.8～1.4ｍ，高さ0.7～1.1ｍの大石を用いている。玄室の法量は長さ2.2ｍ，幅は袖石の内側で1.9ｍ，奥壁部で2.2ｍを測り奥に広い。羨道部は長さ0.9ｍ，幅0.8ｍを測る。敷石は扁平な角礫を玄室全面と袖石内側の梱石まで敷き，大きいもので0.5ｍある。閉塞部は0.3～0.4ｍの角礫を袖石の高さまで積み，これを閉じていた。

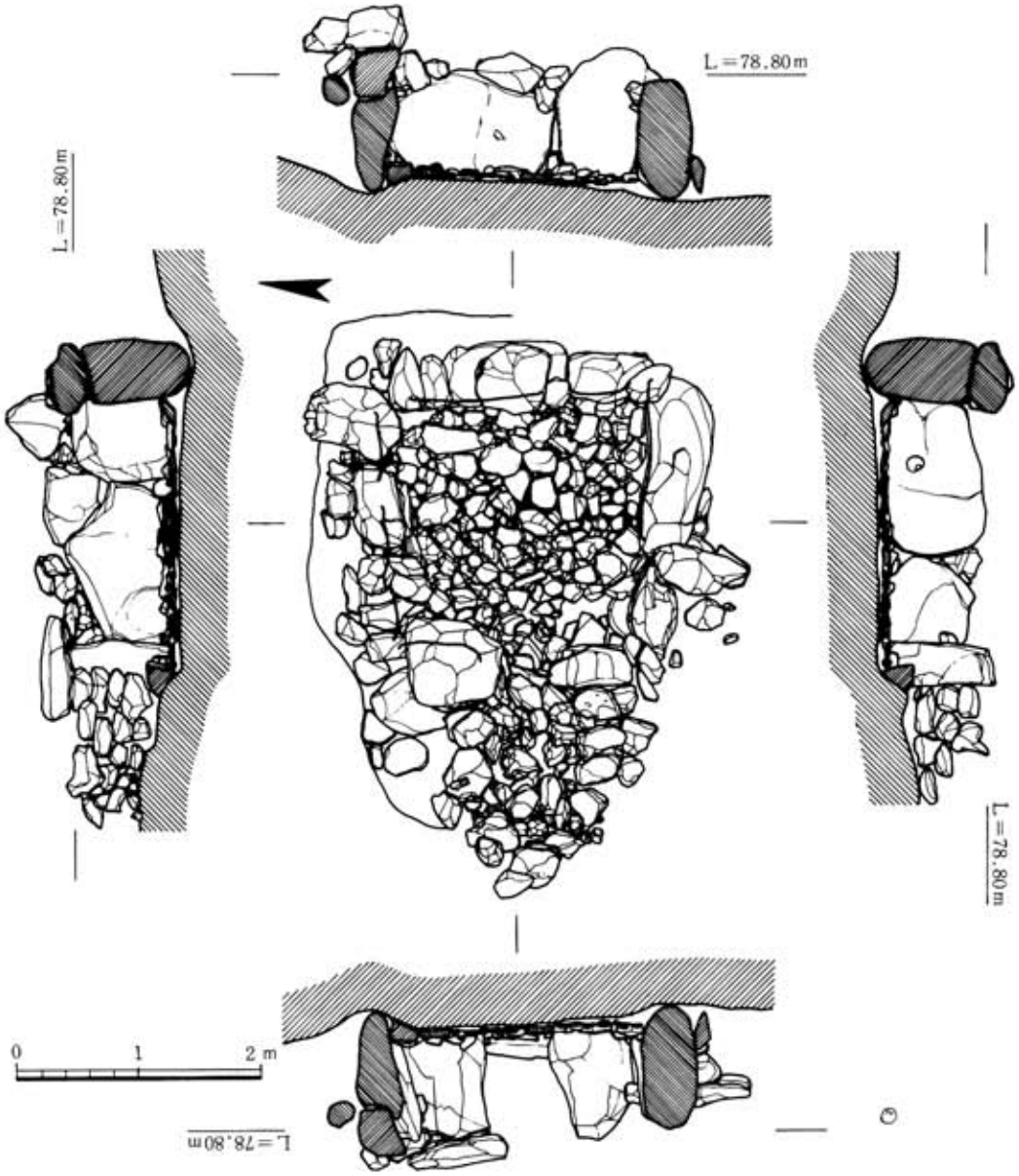
ＳＴ014古墳 (Fig.10, PL.5･6)

ＳＴ014古墳は山の上古墳群の最西端，ＳＴ012古墳から西へ130ｍの距離にあり，上り山の南西に延びた標高79ｍの緩傾斜面に張り出した小台地に立地する。墳丘の上部は削平され，天井石の一部は露出し，楠の大樹が根を張り，電柱も建てられ，かなりの破壊が予想された。石室はほぼ南に開口し，正方形の横穴式石室を持つ。玄室の奥壁腰石，左側壁腰石や袖石などに線刻の文様が施されている。玄室奥壁ぎわに人骨一体分が頭部を左側に置いて検出された。遺物は玉類が三か所に集中し，２～３回の追葬が考えられる。ほかに鉄鏃や刀子などの鉄器が出土した。天井石が取り除かれた以外，石室の保存は良好で，市内にある線刻装飾古墳の中で文様はもっとも鮮明・多彩であることから多久市多久町西渡公園内の多久市歴史民俗資料館裏に移転復元している。

墳丘　墳丘は一部削平され，電柱などの埋設もあり，原形はとどめていないが直径8.0ｍを残す円墳である。墳丘上面に0.3ｍ前後の石が数個あったが葺石ではなかった。周溝も認められなかった。地山整形は奥壁部で0.8ｍを切り平担面を造りだしているが，羨道部での地山は玄室の敷石下の地山面より10㎝程高い。

内部主体　ほぼ西に開口する横穴式石室で，玄室の法量は長さ2.3ｍ，幅2.3ｍの正方形である。羨道部は長さ1.5ｍ，幅0.7～0.8ｍでやや外側に広がる。玄室内の石積は腰石の上に

2～3段が持送りされ，奥壁部で1.5 m，左側壁で1.1 m，右側壁で1.1～1.3 mの高さを残す。腰石の高さは左側壁が0.3～0.5 mと低く，右側壁0.6 m前後，奥壁は0.9 mを測る。敷石は玄室全面に二重に敷かれ，まず0.2～0.3 mのやや扁平な角礫を敷詰め，隙間には0.04～0.1 mの扁平な河石の円礫を敷詰めている。



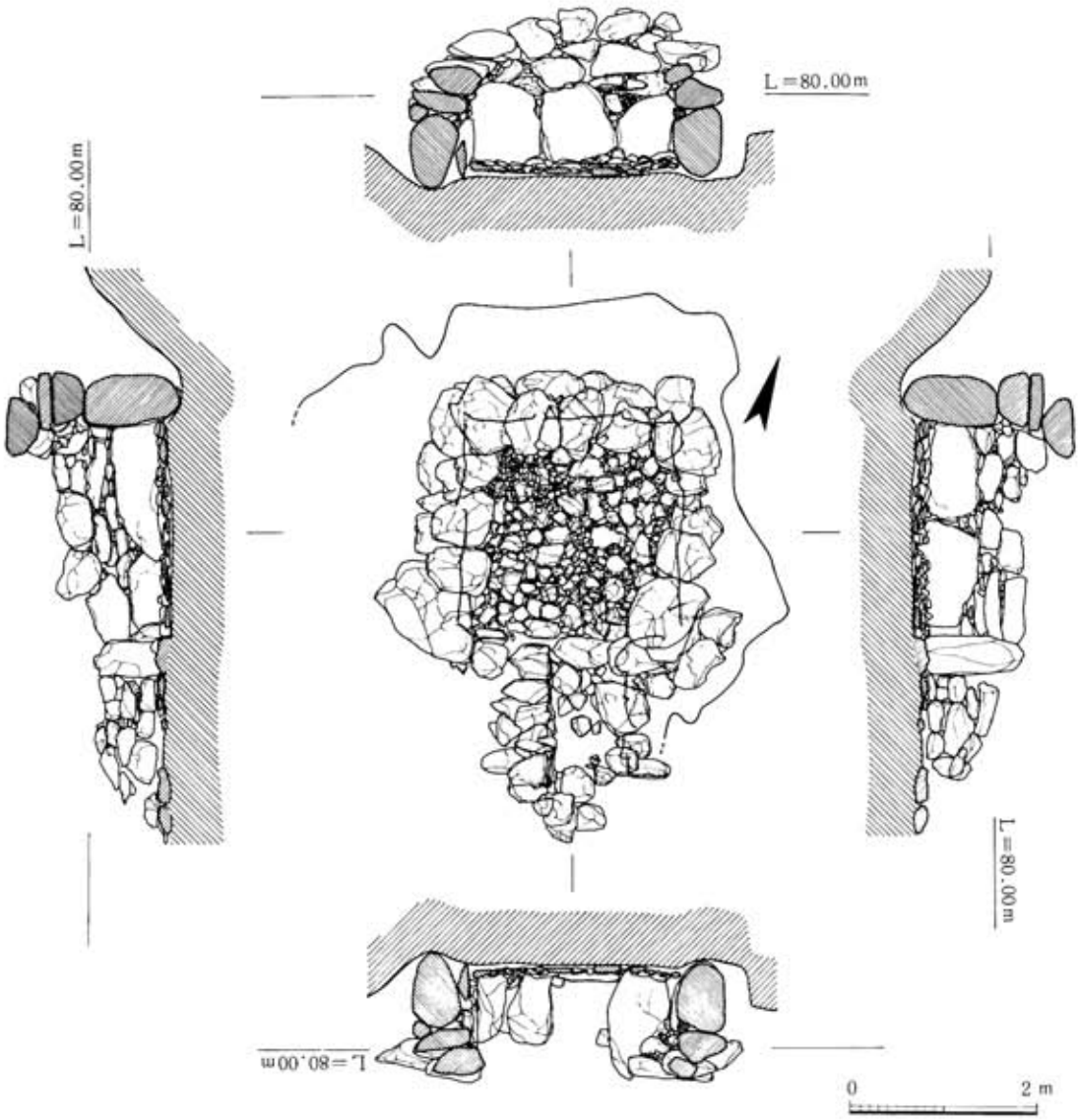


Fig. 10　山の上古墳群ＳＴ 014 古墳石室実測図

3．遺　　物

土器　土器はＳＴ009古墳の石室内で土師器杯・須恵器杯・蓋・盤が出土，ＳＴ011古墳の石室前面で須恵器蓋の破片，ＳＴ012古墳の石室前面で須恵器蓋の破片が出土した。

土師器 (Fig.11-1, PL7-1)

杯　口縁端部がほぼ直立し，体部はなだらかに内湾する椀形で，底部から体部の外面はヘラケズリ調整，口縁部の内外面はヨコナデ調整，底部内面はナデ調整。内面の体部から底部には0.2～0.8cm間隔で放射状に浅い沈線が広がる。内外面に赤色顔料が施されている。口径12.0cm，器高4.0cmを測る。

須恵器 (Fig.11-2～7, PL.7-2～5)

杯　高台を持ち，口縁部は外反する。口径14.3cm，器高4.9cm，高台径10.0cmを測る。底部内面ナデ調整，外面ヘラ切り離し，その他の部分はヨコナデ調整で，ロクロは右回転。

蓋　ＳＴ009古墳出土の3，4は天井部が平坦でやや丸味を持ち，口縁部内面に短かく内傾するかえりがあり，天井部中央に宝珠つまみを付けている。口径15.1，14.6，器高3.1，3.4cm，天井部外面ヘラケズリ調整，内面ナデ調整，他はヨコナデ調整である。5，6は口径17.4，15.4cm，残存器高2.3，1.5cm，天井部は平坦で，中央の宝珠つまみは欠失している。口縁部内面のかえりはなく直立する。破片のため調整は不明である。

盤　口縁部は体部との境に陵があり，直立ぎみに立ち上る。端部は厚く，内傾する。体部から底部の内面はナデ調整，外面ヘラケズリ調整，口縁部内外はヨコナデ調整。口径23.6cm。

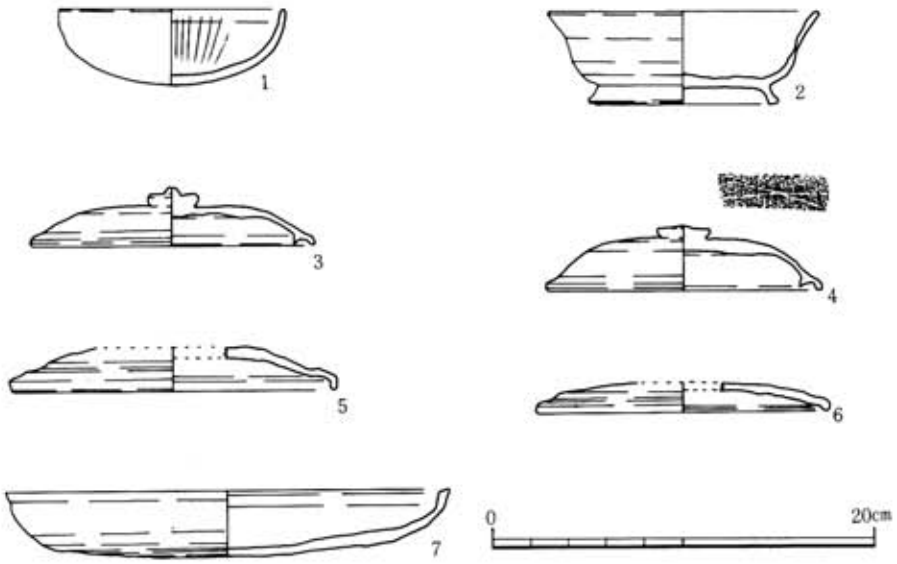


Fig. 11　山の上古墳群出土師器・須恵器実測図

鉄器　山の上古墳群の鉄器はすべてＳＴ 014 古墳の玄室から出土している。器種は鉄鏃・弓付属金具・刀子の武器である。

鉄鏃 (Fig.12–1～7, PL7–6)

出土した鉄鏃の総数は細片も多く不明であるが 10 本以上はあり，7 本を図示した。1，3～6 は平根式，2，7 は尖根式の鉄鏃である。1 は平根両丸柳葉式，3 は平根両丸造腸抉柳葉式，4 は平根圭頭斧箭式で茎部に木質が付着している。5 は平造変形菱形式，6 は平根方頭斧箭式，2，7 は平根式篦被片刃箭式である。

弓付属金具 (Fig.12–8, PL.7–6)

弓の弓弭の部分に弦を固定するための鋲といわれ，残存長 2.6 cm，径 0.3 cmを測り，0.01 cm の鉄が巻かれ，外面に木片が付着している。

刀子 (Fig.12–9•10, PL.7–6)

ともに鋒先を欠失している。9 は柄部に鹿角が遺存している。残存長 11.5 cmと14.7 cmを測る。

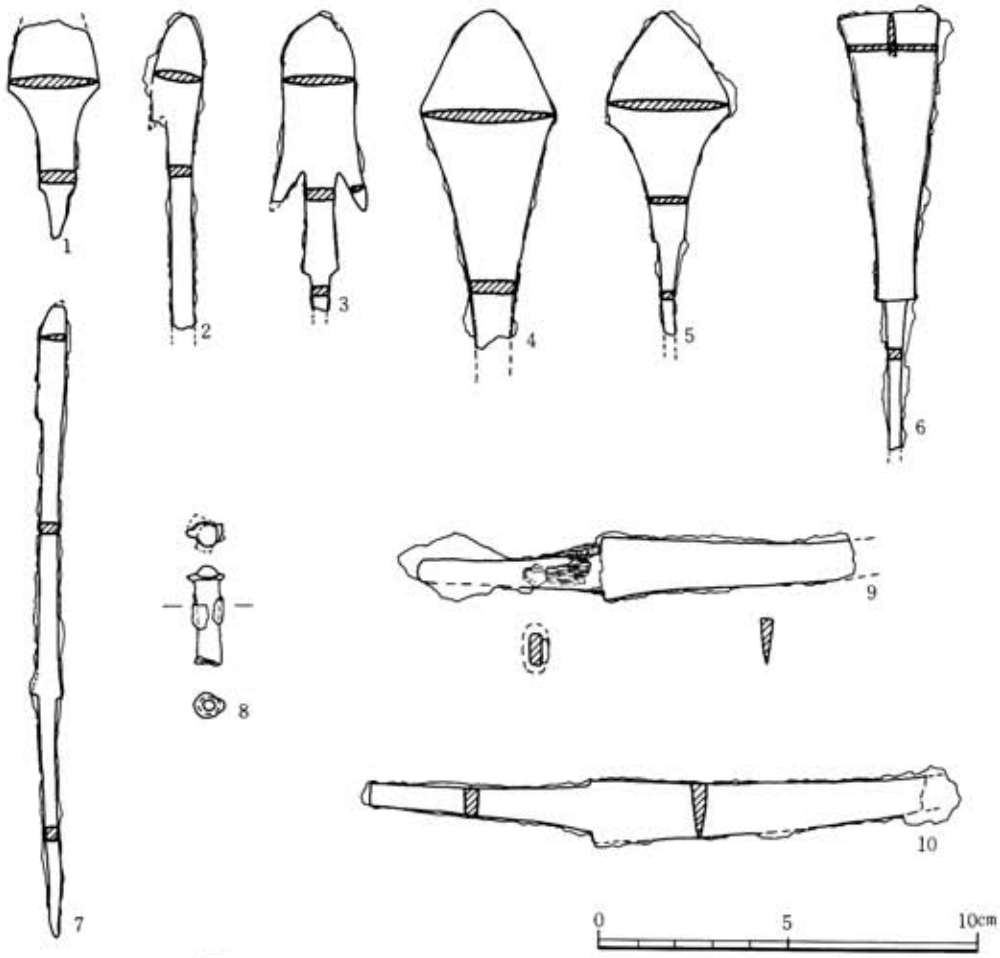


Fig. 12　山の上古墳群ＳＴ 014 古墳出土鉄器実測図

装身具 (Fig.14～15, PL.8)

山の上古墳群出土の装身具はすべて玉類でＳＴ013古墳とＳＴ014古墳の玄室から出土している。ＳＴ013古墳出土の玉類はガラス製の小玉で，奥壁左隅に集中した。総数348個の小玉は直径0.2～0.5cm，長さ0.15～0.45cm，色調は瑠璃色がほとんどである。ＳＴ014古墳の玉類は石室の三か所で出土し，場所によって組成が違う。それぞれＡ，Ｂ，Ｃの記号 (Fig.13) を付して出土場所をみるとＡ群(Fig.15-1～58・93)での玉類は玄室奥壁右側の敷石上面と敷石の間からガラス製小玉260個が出土している。この古墳では奥壁に並行して人骨を検出，頭部を左側に置く埋葬であった。Ａ群の玉類と人骨との関係は脛骨付近の下面に玉類が出土したことになる。Ａ群の小玉はＳＴ013古墳の小玉と類似する。Ｂ群 (Fig.15-94・99・105～107)の玉類は右側壁腰石と敷石の間から勾玉１個，管玉６個，ヒスイ製丸玉１個，ガラス製丸玉５個，ガラス製小玉33個の計46個が出土している。なかでも管玉は径が0.58～0.65 cm，長さ1.93～2.25 cmと細い。ガラス製丸玉はＣ群と同じものである。ガラス製小玉はＡ群のものと大差はない。

Ｃ群 (Fig.15-59～92・95・100～104) の玉類は左袖石の内側に集中し，玉類の出土する中央部の敷石には直径25 cmの範囲で赤色顔料が付着していた。玉類は管玉10個，水晶製ソロバン玉４個，水晶製丸玉４個，ガラス製中玉87個が出土，ガラス製小玉は１点も出土していない。管玉は径0.75～0.95 cm，長さ2.2～2.85 cmを測り，Ｂ群の管玉よりは太い。ガラス製中玉はＢ群とほぼ同じで瑠璃色がもっとも多い。

装身具は出土数が多いため，すべてを図示することはできず，法量等についてはTab.1・2の計測表に示す。

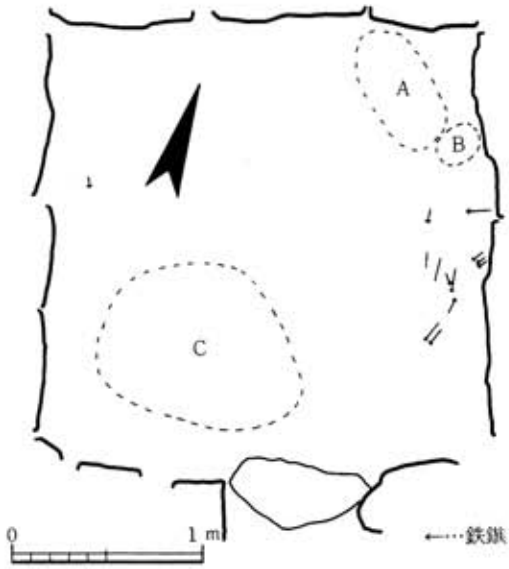


Fig. 13　山の上古墳群ＳＴ014古墳遺物出土状況図

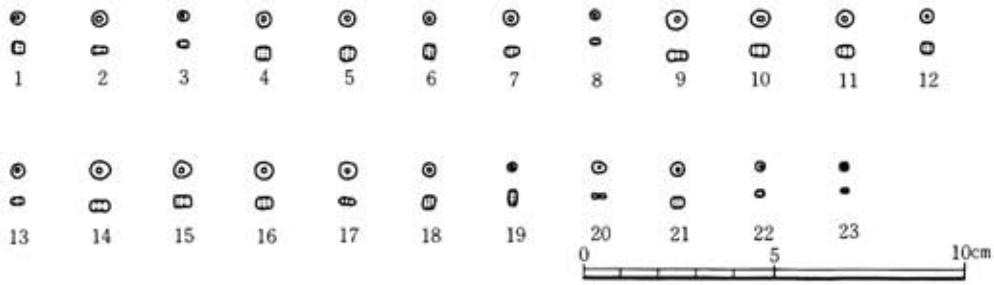


Fig. 14　山の上古墳群ＳＴ013古墳出土玉類実測図

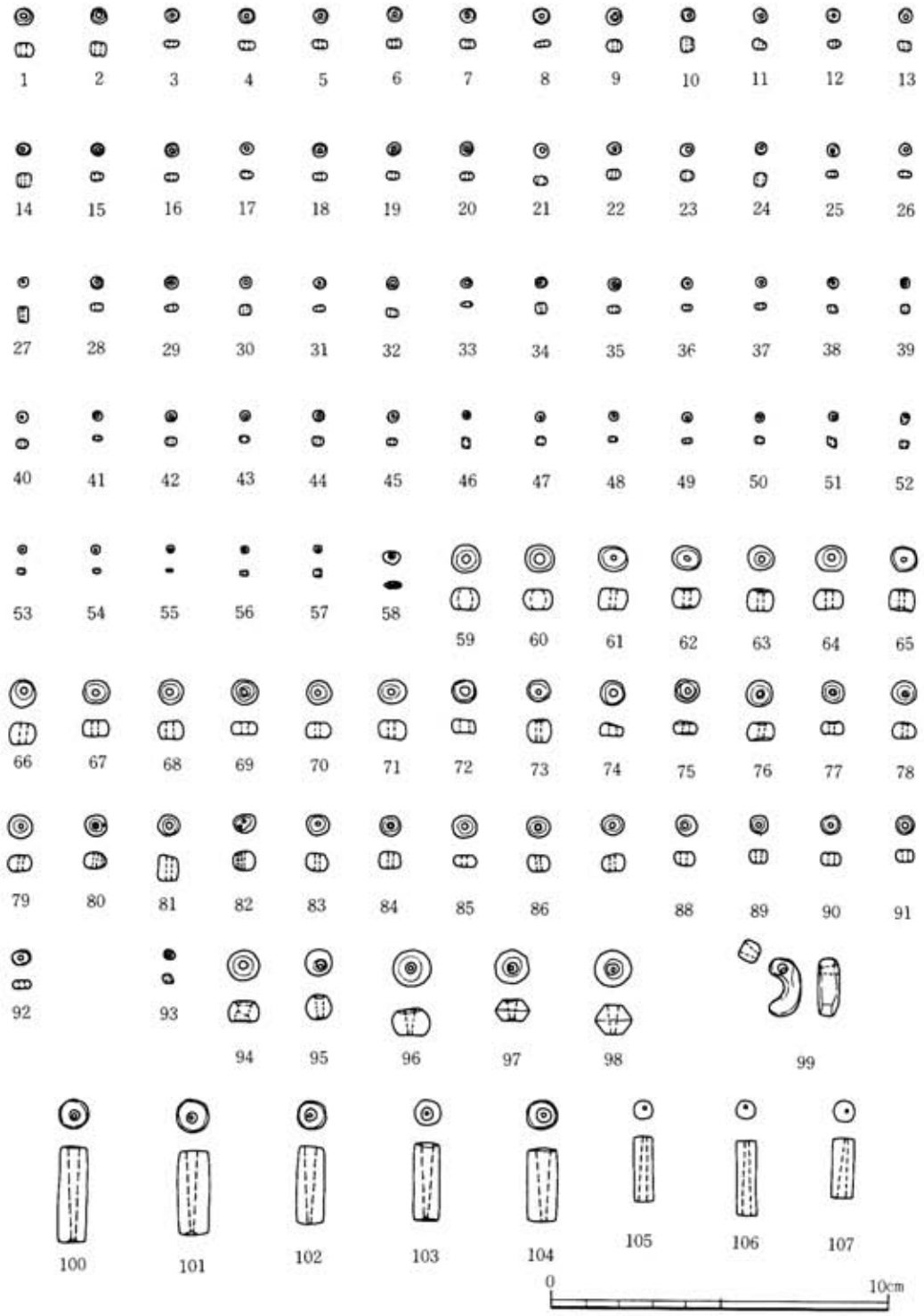


Fig. 15　山の上古墳群ＳＴ 014 古墳出土玉類実測図

Tab. 1　山の上古墳群ＳＴ 013 古墳出土玉類計測表

単位：cm

No	種類	材質	径	高さ	孔径	色	実測記番号	No	種類	材質	径	高さ	孔径	色	実測記番号
1	小玉	ガラス	0.33~0.38	0.3	0.1~0.18	緑青	1	65	小玉	ガラス	0.43	0.24	0.1	瑠璃	
2	〃	〃	0.4	0.2	0.15~0.2	〃	2	66	〃	〃	0.43	0.27	0.11	〃	
3	〃	〃	0.3	0.15~0.2	0.1	〃	3	67	〃	〃	0.43	0.2	0.12	〃	
4	〃	〃	0.4	0.33	0.13	青緑	4	68	〃	〃	0.49	0.25	0.16	〃	
5	〃	〃	0.4	0.35~0.4	0.13	〃	5	69	〃	〃	0.49	0.31	0.16	〃	
6	〃	〃	0.3	0.4	0.15	〃	6	70	〃	〃	0.4	0.21	0.16	〃	
7	〃	〃	0.4	0.2~0.25	0.12	〃	7	71	〃	〃	0.37	0.27	0.16	〃	
8	〃	〃	0.22	0.17~0.2	0.1	青	8	72	〃	〃	0.46	0.34	0.16	〃	
9	〃	〃	0.5	0.23~0.28	0.15	〃	9	73	〃	〃	0.5	0.29	0.16	〃	
10	〃	〃	0.43~0.5	0.3	0.12~0.2	〃	10	74	〃	〃	0.44	0.25	0.16	〃	
11	〃	〃	0.4	0.25~0.3	0.18	〃	11	75	〃	〃	0.41	0.32	0.14	〃	
12	〃	〃	0.38	0.3	0.1	〃	12	76	〃	〃	0.36	0.27	0.12	〃	
13	〃	〃	0.39	0.2	0.15	〃	13	77	〃	〃	0.55	0.36~0.44	0.19	〃	
14	〃	〃	0.45~0.53	0.3	0.15	瑠璃	14	78	〃	〃	0.45	0.34	0.17	〃	
15	〃	〃	0.45	0.3	0.17	〃	15	79	〃	〃	0.47	0.2	0.15	〃	
16	〃	〃	0.48	0.3	0.15	〃	16	80	〃	〃	0.42	0.23	0.16	〃	
17	〃	〃	0.43	0.2	0.13	〃	17	81	〃	〃	0.45	0.24	0.15	〃	
18	〃	〃	0.35	0.35	0.1	〃	18	82	〃	〃	0.41	0.26	0.17	〃	
19	〃	〃	0.23	0.4	0.1	〃	19	83	〃	〃	0.36	0.17	0.1	〃	
20	〃	〃	0.3~0.35	0.1~0.15	0.08	〃	20	84	〃	〃	0.4	0.22	0.16	〃	
21	〃	〃	0.35	0.3	0.1	〃	21	85	〃	〃	0.38	0.3	0.14	〃	
22	〃	〃	0.25	0.2	0.1	〃	22	86	〃	〃	0.45	0.24	0.17	〃	
23	〃	〃	0.22	0.1~0.23	0.07	〃	23	87	〃	〃	0.39	0.2	0.15	〃	
24	〃	〃	0.4	0.21	0.21	〃		88	〃	〃	0.5	0.19	0.2	〃	
25	〃	〃	0.35	0.19	0.12	〃		89	〃	〃	0.5	0.22	0.18	〃	
26	〃	〃	0.4~0.5	0.2~0.25	0.22	〃		90	〃	〃	0.41	0.22	0.17	〃	
27	〃	〃	0.43	0.34	0.12	〃		91	〃	〃	0.41	0.23	0.14	〃	
28	〃	〃	0.4	0.29	0.15	〃		92	〃	〃	0.3	0.2	0.09	〃	
29	〃	〃	0.39	0.26	0.16	〃		93	〃	〃	0.45	0.22	0.2	〃	
30	〃	〃	0.37	0.21	0.14	〃		94	〃	〃	0.32	0.15	0.1	〃	
31	〃	〃	0.45	0.4	0.14	〃		95	〃	〃	0.37	0.22	0.16	〃	
32	〃	〃	0.4	0.4	0.15	〃		96	〃	〃	0.41	0.3	0.15	〃	
33	〃	〃	0.34	0.29	0.13	〃		97	〃	〃	0.44	0.31	0.14	〃	
34	〃	〃	0.42	0.25	0.15	〃		98	〃	〃	0.45	0.34	0.11	〃	
35	〃	〃	0.3	0.2	0.11	〃		99	〃	〃	0.5	0.3	0.11	〃	
36	〃	〃	0.49	0.24	0.14	〃		100	〃	〃	0.5	0.25	0.1	〃	
37	〃	〃	0.35	0.23	0.16	〃		101	〃	〃	0.38	0.24	0.14	〃	
38	〃	〃	0.4	0.25	0.16	〃		102	〃	〃	0.46	0.21	0.11	〃	
39	〃	〃	0.34	0.22~0.3	0.15	〃		103	〃	〃	0.56	0.31	0.21	〃	
40	〃	〃	0.36	0.26	0.12	〃		104	〃	〃	0.48	0.25	0.1	〃	
41	〃	〃	0.46	0.3	0.15	〃		105	〃	〃	0.4	0.3	0.09	〃	
42	〃	〃	0.34	0.24	0.13	〃		106	〃	〃	0.45	0.34	0.16	〃	
43	〃	〃	0.32	0.2	0.1	〃		107	〃	〃	0.35	0.21	0.11	〃	
44	〃	〃	0.45	0.3	0.16	〃		108	〃	〃	0.44	0.26	0.11	〃	
45	〃	〃	0.36	0.26	0.15	〃		109	〃	〃	0.39	0.26	0.1	〃	
46	〃	〃	0.39	0.21	0.16	〃		110	〃	〃	0.45	0.27	0.11	〃	
47	〃	〃	0.45	0.31	0.15	〃		111	〃	〃	0.41	0.21	0.1	〃	
48	〃	〃	0.4~0.48	0.24	0.15	〃		112	〃	〃	0.41	0.3	0.14	〃	
49	〃	〃	0.34	0.35	0.16	〃		113	〃	〃	0.35	0.34	0.11	〃	
50	〃	〃	0.4	0.33	0.14	〃		114	〃	〃	0.4	0.3	0.12	〃	
51	〃	〃	0.35	0.26	0.12	〃		115	〃	〃	0.4	0.29	0.09	〃	
52	〃	〃	0.45	0.31	0.15	〃		116	〃	〃	0.44	0.28	0.11	〃	
53	〃	〃	0.39	0.26	0.16	〃		117	〃	〃	0.48	0.29	0.16	〃	
54	〃	〃	0.37	0.25	0.14	〃		118	〃	〃	0.28	0.17	0.12	〃	
55	〃	〃	0.5	0.35	0.18	〃		119	〃	〃	0.31	0.18	0.12	〃	
56	〃	〃	0.5	0.31	0.25	〃		120	〃	〃	0.43	0.3	0.13	〃	
57	〃	〃	0.44	0.23	0.16	〃		121	〃	〃	0.34	0.24	0.14	〃	
58	〃	〃	0.47	0.26	0.16	〃		122	〃	〃	0.45	0.28	0.16	〃	
59	〃	〃	0.31	0.24	0.14	〃		123	〃	〃	0.38	0.26	0.15	〃	
60	〃	〃	0.41	0.25	0.15	〃		124	〃	〃	0.45	0.22	0.16	〃	
61	〃	〃	0.3	0.23	0.15	〃		125	〃	〃	0.26	0.18	0.12	〃	
62	〃	〃	0.42	0.32~0.36	0.2	〃		126	〃	〃	0.45	0.25	0.09	〃	
63	〃	〃	0.47	0.27	0.15	〃		127	〃	〃	0.45	0.26	0.14	〃	
64	〃	〃	0.3	0.24	0.16	〃		128	〃	〃	0.4	0.29	0.11	〃	

No.	種類	材質	径	高さ	孔径	色	実測図番号
129	小玉	ガラス	0.34	0.25	0.11	瑠璃	
130	〃	〃	0.41	0.25	0.11	〃	
131	〃	〃	0.49	0.19	0.11	〃	
132	〃	〃	0.46	0.27	0.1	〃	
133	〃	〃	0.41	0.31	0.1	〃	
134	〃	〃	0.46	0.3	0.15	〃	
135	〃	〃	0.49	0.34	0.1	〃	
136	〃	〃	0.4	0.24	0.15	〃	
137	〃	〃	0.51	0.3	0.17	〃	
138	〃	〃	0.6	0.3	0.2	〃	
139	〃	〃	0.45	0.37	0.11	〃	
140	〃	〃	0.34	0.2	0.11	〃	
141	〃	〃	0.28	0.21	0.15	〃	
142	〃	〃	0.36	0.14	0.12	〃	
143	〃	〃	0.31	0.21	0.09	〃	
144	〃	〃	0.35	0.21	0.1	〃	
145	〃	〃	0.39	0.22	0.13	〃	
146	〃	〃	0.41	0.25~0.31	0.15	〃	
147	〃	〃	0.31	0.22	0.1	〃	
148	〃	〃	0.4	0.23	0.11	〃	
149	〃	〃	0.4	0.26	0.15	〃	
150	〃	〃	0.29	0.2	0.1	〃	
151	〃	〃	0.37	0.19	0.11	〃	
152	〃	〃	0.27	0.17	0.12	〃	
153	〃	〃	0.21	0.11	0.1	〃	
154	〃	〃	0.37	0.22	0.13	〃	
155	〃	〃	0.28	0.17	0.14	〃	
156	〃	〃	0.39	0.26	0.14	〃	
157	〃	〃	0.32	0.21	0.11	〃	
158	〃	〃	0.33	0.22	0.1	〃	
159	〃	〃	0.4	0.22	0.12	〃	
160	〃	〃	0.35	0.19	0.10	〃	
161	〃	〃	0.46	0.27	0.14	〃	
162	〃	〃	0.36	0.28	0.11	〃	
163	〃	〃	0.47	0.26	0.15	〃	
164	〃	〃	0.3	0.16	0.11	〃	
165	〃	〃	0.29	0.2	0.1	〃	
166	〃	〃	0.4	0.25	0.15	〃	
167	〃	〃	0.35	0.23	0.16	〃	
168	〃	〃	0.31	0.21	0.11	〃	
169	〃	〃	0.32	0.2	0.1	〃	
170	〃	〃	0.32	0.21	0.14	〃	
171	〃	〃	0.33	0.24	0.14	〃	
172	〃	〃	0.4	0.21	0.14	〃	
173	〃	〃	0.4	0.26	0.11	〃	
174	〃	〃	0.35	0.14	0.11	〃	
175	〃	〃	0.34	0.16	0.12	〃	
176	〃	〃	0.36	0.18	0.1	〃	
177	〃	〃	0.41	0.26~0.31	0.14	〃	
178	〃	〃	0.36	0.22	0.12	〃	
179	〃	〃	0.32	0.21	0.11	〃	
180	〃	〃	0.35	0.22	0.1	〃	
181	〃	〃	0.36	0.24	0.14	〃	
182	〃	〃	0.4	0.22	0.13	〃	
183	〃	〃	0.36	0.27	0.12	〃	
184	〃	〃	0.36	0.3	0.17	〃	
185	〃	〃	0.4	0.21	0.14	〃	
186	〃	〃	0.31	0.34	0.15	〃	
187	〃	〃	0.3	0.29	0.1	〃	
188	〃	〃	0.35	0.21	0.15	〃	
189	〃	〃	0.3	0.12	0.11	〃	
190	〃	〃	0.36	0.24	0.11	〃	
191	〃	〃	0.4	0.21	0.16	〃	
192	〃	〃	0.32	0.17	0.11	〃	
193	〃	〃	0.42	0.2	0.12	〃	
194	小玉	ガラス	0.34	0.21	0.11	瑠璃	
195	〃	〃	0.31	0.37	0.16	〃	
196	〃	〃	0.31	0.2	0.1	〃	
197	〃	〃	0.4	0.2	0.15	〃	
198	〃	〃	0.31	0.24	0.08	〃	
199	〃	〃	0.42	0.25	0.12	〃	
200	〃	〃	0.32	0.15	0.16	〃	
201	〃	〃	0.31	0.26	0.11	〃	
202	〃	〃	0.28	0.16	0.1	〃	
203	〃	〃	0.36	0.17	0.12	〃	
204	〃	〃	0.37	0.25	0.12	〃	
205	〃	〃	0.42	0.21	0.12	〃	
206	〃	〃	0.35	0.2	0.15	〃	
207	〃	〃	0.21	0.19	0.1	〃	
208	〃	〃	0.31	0.17	0.15	〃	
209	〃	〃	0.34	0.25	0.1	〃	
210	〃	〃	0.45	0.3	0.16	〃	
211	〃	〃	0.4	0.25	0.14	〃	
212	〃	〃	0.38	0.16	0.11	〃	
213	〃	〃	0.3	0.2	0.1	〃	
214	〃	〃	0.36	0.21	0.11	〃	
215	〃	〃	0.32	0.2	0.08	〃	
216	〃	〃	0.32	0.2	0.11	〃	
217	〃	〃	0.41	0.21	0.1	〃	
218	〃	〃	0.46	0.33	0.14	〃	
219	〃	〃	0.41	0.27	0.15	〃	
220	〃	〃	0.31	0.14	0.11	〃	
221	〃	〃	0.36	0.16	0.11	〃	
222	〃	〃	0.31	0.22	0.1	〃	
223	〃	〃	0.31	0.2	0.15	〃	
224	〃	〃	0.33	0.18	0.16	〃	
225	〃	〃	0.3	0.14	0.1	〃	
226	〃	〃	0.35	0.22	0.15	〃	
227	〃	〃	0.35	0.26	0.1	〃	
228	〃	〃	0.44	0.22	0.13	〃	
229	〃	〃	0.36	0.24	0.13	〃	
230	〃	〃	0.24	0.16	0.1	〃	
231	〃	〃	0.39	0.22	0.14	〃	
232	〃	〃	0.32	0.17	0.11	〃	
233	〃	〃	0.29	0.16	0.11	〃	
234	〃	〃	0.3	0.35	0.15	〃	
235	〃	〃	0.39	0.25	0.11	〃	
236	〃	〃	0.34	0.23	0.11	〃	
237	〃	〃	0.33	0.2~0.25	0.15	〃	
238	〃	〃	0.34	0.18	0.13	〃	
239	〃	〃	0.3	0.16	0.1	〃	
240	〃	〃	0.39	0.16	0.11	〃	
241	〃	〃	0.4	0.26	0.16	〃	
242	〃	〃	0.28	0.15	0.17	〃	
243	〃	〃	0.34	0.24	0.13	〃	
244	〃	〃	0.35	0.23	0.11	〃	
245	〃	〃	0.32	0.15	0.15	〃	
246	〃	〃	0.41	0.22	0.16	〃	
247	〃	〃	0.34	0.21	0.11	〃	
248	〃	〃	0.31	0.2	0.11	〃	
249	〃	〃	0.41	0.24	0.12	〃	
250	〃	〃	0.36	0.29~0.35	0.16	〃	
251	〃	〃	0.28	0.22	0.13	〃	
252	〃	〃	0.42	0.19	0.12	〃	
253	〃	〃	0.42	0.27~0.33	0.12	〃	
254	〃	〃	0.39	0.26	0.14	〃	
255	〃	〃	0.42	0.34	0.14	〃	
256	〃	〃	0.4	0.24	0.12	〃	
257	〃	〃	0.39	0.2	0.11	〃	
258	〃	〃	0.34	0.21	0.1	〃	

No	種類	材質	径	高さ	孔径	色	実測図番号
259	小玉	ガラス	0.36	0.16	0.13	瑠璃	
260	〃	〃	0.41	0.25	0.11	〃	
261	〃	〃	0.32	0.2	0.11	〃	
262	〃	〃	0.32	0.15	0.11	〃	
263	〃	〃	0.3	0.15	0.08	〃	
264	〃	〃	0.37	0.25	0.16	〃	
265	〃	〃	0.36	0.15	0.11	〃	
266	〃	〃	0.28	0.14	0.17	〃	
267	〃	〃	0.35	0.2	0.11	〃	
268	〃	〃	0.34	0.21	0.11	〃	
269	〃	〃	0.39	0.26	0.12	〃	
270	〃	〃	0.37	0.18	0.14	〃	
271	〃	〃	0.29	0.2	0.09	〃	
272	〃	〃	0.34	0.24	0.13	〃	
273	〃	〃	0.32	0.32	0.11	〃	
274	〃	〃	0.45	0.29	0.15	〃	
275	〃	〃	0.41	0.22	0.11	〃	
276	〃	〃	0.31	0.13	0.1	〃	
277	〃	〃	0.3	0.16	0.08	〃	
278	〃	〃	0.31	0.19	0.11	〃	
279	〃	〃	0.32	0.19	0.11	〃	
280	〃	〃	0.33	0.21	0.12	〃	
281	〃	〃	0.35	0.25	0.15	〃	
282	〃	〃	0.32	0.3	0.15	〃	
283	〃	〃	0.26	0.14	0.1	〃	
284	〃	〃	0.27	0.18	0.08	〃	
285	〃	〃	0.26	0.21	0.15	〃	
286	〃	〃	0.22	0.18	0.15	〃	
287	〃	〃	0.39	0.21	0.11	〃	
288	〃	〃	0.35	0.3	0.1	〃	
289	〃	〃	0.3	0.14	0.11	〃	
290	〃	〃	0.26	0.16	0.15	〃	
291	〃	〃	0.3	0.17	0.09	〃	
292	〃	〃	0.29	0.16	0.09	〃	
293	〃	〃	0.36	0.2	0.11	〃	
294	〃	〃	0.41	0.19	0.12	〃	
295	〃	〃	0.28	0.15	0.12	〃	
296	〃	〃	0.33	0.2	0.11	〃	
297	〃	〃	0.36	0.22~0.25	0.12	青緑	
298	〃	〃	0.4	0.31	0.14	〃	
299	〃	〃	0.35	0.29	0.14	〃	
300	〃	〃	0.32~0.42	0.3	0.12	〃	
301	〃	〃	0.35	0.26	0.12	〃	
302	〃	〃	0.41	0.34~0.37	0.16	〃	
303	〃	〃	0.36	0.22~0.27	0.11	〃	
304	小玉	ガラス	0.35	0.19~0.35	0.15	青緑	
305	〃	〃	0.31	0.22	0.15	〃	
306	〃	〃	0.32	0.17	0.15	〃	
307	〃	〃	0.35	0.2	0.15	〃	
308	〃	〃	0.39	0.2	0.14	〃	
309	〃	〃	0.31	0.22	0.12	〃	
310	〃	〃	0.31	0.21~0.25	0.13	〃	
311	〃	〃	0.28	0.12	0.12	〃	
312	〃	〃	0.36	0.26	0.11	〃	
313	〃	〃	0.45	0.25	0.15	〃	
314	〃	〃	0.28	0.15	0.13	〃	
315	〃	〃	0.36	0.28~0.33	0.16	〃	
316	〃	〃	0.3	0.19	0.15	〃	
317	〃	〃	0.34	0.25	0.11	〃	
318	〃	〃	0.3	0.21	0.14	〃	
319	〃	〃	0.35	0.16	0.15	〃	
320	〃	〃	0.35	0.21~0.25	0.14	〃	
321	〃	〃	0.34	0.22	0.11	〃	
322	〃	〃	0.35	0.25	0.12	〃	
323	〃	〃	0.3	0.15	0.12	〃	
324	〃	〃	0.32	0.11~0.15	0.14	〃	
325	〃	〃	0.3	0.2	0.11	〃	
326	〃	〃	0.3	0.22~0.25	0.11	〃	
327	〃	〃	0.3	0.21	0.13	〃	
328	〃	〃	0.37	0.19	0.15	〃	
329	〃	〃	0.4	0.26	0.15	〃	
330	〃	〃	0.41	0.11~0.18	0.15	〃	
331	〃	〃	0.33~0.37	0.25~0.27	0.14	〃	
332	〃	〃	0.29	0.09~0.15	0.11	〃	
333	〃	〃	0.32	0.21	0.13	〃	
334	〃	〃	0.28	0.12~0.18	0.1	〃	
335	〃	〃	0.36	0.26	0.14	〃	
336	〃	〃	0.4	0.26	0.15	緑青	
337	〃	〃	0.3	0.19	0.14	〃	
338	〃	〃	0.39	0.29	0.15	〃	
339	〃	〃	0.35	0.21	0.11	〃	
340	〃	〃	0.29	0.19	0.11	〃	
341	〃	〃	0.32	0.16	0.15	〃	
342	〃	〃	0.31	0.26	0.12	〃	
343	〃	〃	0.37	0.31	0.15	〃	
344	〃	〃	0.34	0.24	0.18	〃	
345	〃	〃	0.36	0.25	0.15	〃	
346	〃	〃	0.36	0.24	0.14	〃	
347	〃	〃	0.29	0.25	0.12	〃	
348	〃	〃	0.26	0.14	0.11	〃	

Tab. 2　山の上古墳群ＳＴ014古墳出土玉類計測表

単位：cm

No	種類	材質	径	高さ	孔径	色	実測図番号
1	勾玉	ヒスイ	1.73	0.95	0.15~0.25	黄白 緑白の斑	99
2	管玉	碧玉	0.95	2.85	0.1~0.3	暗緑	100
3	〃	〃	0.9	2.5	0.1~0.3	〃	101
4	〃	〃	0.85	2.3	0.1~0.33	〃	102
5	〃	〃	0.75	2.3	0.1~0.35	〃	103
6	〃	〃	0.9	2.2	0.15~0.45	〃	104
7	〃	〃	0.82~0.85	2.5	0.1~0.22	〃	
8	〃	〃	0.81~0.82	2.5	0.15~0.53	〃	
9	〃	〃	0.78~0.8	2.4	0.16~0.34	〃	
10	〃	〃	0.78~0.8	2.4	0.12~0.4	〃	
11	〃	〃	0.75~0.78	2.45	0.14~0.29	〃	
12	〃	〃	0.6	2.25	0.12~0.25	暗灰緑	105
13	〃	〃	0.58	1.93	0.1~0.25	〃	106
14	〃	〃	0.65	1.8	0.1~0.26	〃	107
15	管玉	碧玉	0.6	1.95	0.06~0.26	暗灰緑	
16	〃	〃	0.6	2.23	0.1~0.3	〃	
17	〃	〃	0.6	2.55	0.1~0.25	〃	
18	切子玉	水晶	1.1	0.85	0.12~0.3	透明	98
19	〃	〃	1.1	0.6	0.15~0.3	〃	97
20	ソロバン玉	〃	0.92	0.45	0.2~0.28	〃	
21	〃	〃	1.02	0.71	0.12~0.28	〃	
22	中玉	〃	0.8	0.7	0.15~0.3	〃	95
23	〃	〃	1.1	0.7~0.8	0.13~0.3	〃	96
24	〃	〃	0.93	0.62~0.71	0.1~0.26	〃	
25	〃	〃	0.98	0.6	0.11~0.26	〃	
26	〃	ヒスイ	0.93	0.55	0.28~0.55	灰緑	94
27	小玉	不明	0.3	0.28	0.1	茶褐	93
28	中玉	ガラス	0.8~0.85	0.6	0.3	緑青（透明）	59

No.	種類	材質	径	高さ	孔径	色	実測図番号	No.	種類	材質	径	高さ	孔径	色	実測図番号
29	中玉	ガラス	0.83	0.63	0.25	緑青	60	94	中玉	ガラス	0.71	0.48	0.17	瑠璃	
30	〃	〃	0.78～0.9	0.6	0.18	瑠璃	61	95	〃	〃	0.71	0.36	0.17	〃	
31	〃	〃	0.74～0.82	0.58	0.15～0.2	〃	62	96	〃	〃	0.71	0.34	0.2	〃	
32	〃	〃	0.72～0.8	0.65	0.18	〃	63	97	〃	〃	0.7	0.45	0.17	〃	
33	〃	〃	0.75～0.9	0.6	0.2～0.23	〃	64	98	〃	〃	0.7	0.36	0.19	〃	
34	〃	〃	0.78～0.9	0.6	0.1～0.2	〃	65	99	〃	〃	0.7	0.34	0.2	〃	
35	〃	〃	0.75	0.53	0.2	〃	66	100	〃	〃	0.66	0.55	0.14	〃	
36	〃	〃	0.7～0.8	0.48	0.15～0.2	〃	67	101	〃	〃	0.65	0.6	0.29	〃	
37	〃	〃	0.75	0.5～0.54	0.2～0.23	〃	68	102	〃	〃	0.65	0.48	0.09	〃	
38	〃	〃	0.75	0.35	0.2	〃	69	103	〃	〃	0.65	0.44	0.14	〃	
39	〃	〃	0.7～0.75	0.45	0.15	〃	70	104	〃	〃	0.72	0.34	0.27	〃	
40	〃	〃	0.8～0.85	0.5～0.58	0.2	〃	71	105	〃	〃	0.6	0.4～0.43	0.15	〃	
41	〃	〃	0.7	0.35～0.4	0.28～0.3	〃	72	106	〃	〃	0.57	0.32	0.24	〃	
42	〃	〃	0.7	0.67	0.15	〃	73	107	〃	〃	0.56	0.28～0.4	0.16	〃	
43	〃	〃	0.7	0.23～0.38	0.2～0.22	〃	74	108	〃	〃	0.55	0.3～0.36	0.19	〃	
44	〃	〃	0.77	0.39	0.2～0.3	〃	75	109	〃	〃	0.54	0.35	0.16	〃	
45	〃	〃	0.75～0.8	0.5	0.18	〃	76	110	〃	〃	0.53	0.36	0.2	〃	
46	〃	〃	0.7	0.35	0.15	〃	77	111	〃	〃	0.53	0.34	0.17	〃	
47	〃	〃	0.7	0.43～0.48	0.1～0.17	〃	78	112	〃	〃	0.75～0.85	0.55	0.18～0.21	〃	
48	〃	〃	0.7	0.5	0.15	〃	79	113	〃	〃	0.75～0.8	0.72～0.75	0.26～0.3	〃	
49	〃	〃	0.65	0.48	0.08～0.13	〃	80	114	〃	〃	0.75	0.55	0.18～0.2	〃	
50	〃	〃	0.6	0.65～0.78	0.2	〃	81	115	〃	〃	0.7	0.62	0.2	〃	
51	〃	〃	0.55～0.68	0.58	0.05～0.1	〃	82	116	〃	〃	0.7	0.52	0.2～0.23	〃	
52	〃	〃	0.6～0.7	0.52	0.1～0.15	〃	83	117	〃	〃	0.65～0.7	0.6	0.11～0.13	〃	
53	〃	〃	0.6	0.5	0.17	〃	84	118	〃	〃	0.68	0.44	0.17	〃	
54	〃	〃	0.7	0.35	0.18	〃	85	119	〃	〃	0.65	0.5	0.15	〃	
55	〃	〃	0.63～0.7	0.5	0.13	〃	86	120	〃	〃	0.6	0.52	0.15	〃	
56	〃	〃	0.6～0.7	0.45～0.5	0.15	〃	87	121	〃	〃	0.74	0.53	0.13	〃	
57	〃	〃	0.6	0.4	0.2	〃	88	122	〃	〃	0.73	0.44	0.16	〃	
58	〃	〃	0.5	0.5	0.16	〃	89	123	〃	〃	0.7	0.46	0.16	〃	
59	〃	〃	0.6	0.35	0.18	〃	90	124	〃	〃	0.69	0.5	0.14	〃	
60	〃	〃	0.55	0.35	0.18	〃	91	125	〃	〃	0.68	0.5	0.19	〃	
61	〃	〃	0.45～0.6	0.25	0.15	青緑	92	126	〃	〃	0.6	0.43	0.1	〃	
62	〃	〃	0.85	0.38	0.16	瑠璃		127	〃	〃	0.83	0.66	0.17	青	
63	〃	〃	0.84	0.43	0.18	〃		128	〃	〃	0.74	0.55	0.2	〃	
64	〃	〃	0.81	0.45	0.17	〃		129	〃	〃	0.66～0.76	0.51	0.2	〃	
65	〃	〃	0.8	0.51	0.15	〃		130	〃	〃	0.64	0.48～0.6	0.16	〃	
66	〃	〃	0.8	0.51	0.2	〃		131	〃	〃	0.56	0.36	0.19	瑠璃	
67	〃	〃	0.78	0.66	0.21	〃		132	小玉	〃	0.5～0.58	0.4	0.17～0.2	〃	1
68	〃	〃	0.78	0.5	0.2	〃		133	〃	〃	0.45	0.41	0.16	〃	2
69	〃	〃	0.76	0.54	0.17	〃		134	〃	〃	0.42	0.2	0.13	青緑	3
70	〃	〃	0.75	0.66	0.15	〃		135	〃	〃	0.43～0.48	0.28	0.15	青	4
71	〃	〃	0.75	0.5～0.6	0.24	〃		136	〃	〃	0.45	0.25	0.15	うす緑	5
72	〃	〃	0.75	0.59	0.2	〃		137	〃	〃	0.43	0.25	0.17	〃	6
73	〃	〃	0.75	0.39	0.22～0.25	〃		138	〃	〃	0.4～0.45	0.3	0.1	瑠璃	7
74	〃	〃	0.71	0.57	0.11	〃		139	〃	〃	0.5	0.15～0.2	0.13	うす緑	8
75	〃	〃	0.7	0.59	0.15	〃		140	〃	〃	0.45～0.5	0.35	0.18	瑠璃	9
76	〃	〃	0.7	0.51	0.2	〃		141	〃	〃	0.4	0.42	0.12	青緑	10
77	〃	〃	0.7	0.49	0.1	〃		142	〃	〃	0.42	0.32	0.1	〃	11
78	〃	〃	0.69	0.49～0.51	0.22～0.25	〃		143	〃	〃	0.4	0.25	0.08	緑青	12
79	〃	〃	0.69	0.49	0.13	〃		144	〃	〃	0.4	0.29	0.16	うす緑	13
80	〃	〃	0.68	0.55	0.16	〃		145	〃	〃	0.45	0.4	0.1～0.15	〃	14
81	〃	〃	0.68	0.5	0.1	〃		146	〃	〃	0.36	0.27	0.12～0.18	瑠璃	15
82	〃	〃	0.65	0.6	0.19～0.22	〃		147	〃	〃	0.4	0.23	0.12	〃	16
83	〃	〃	0.65	0.55	0.16	〃		148	〃	〃	0.4	0.25	0.13	緑青	17
84	〃	〃	0.65	0.4	0.2	〃		149	〃	〃	0.4	0.2	0.12	瑠璃	18
85	〃	〃	0.6	0.45	0.25	〃		150	〃	〃	0.4	0.26	0.12	〃	19
86	〃	〃	0.89	0.37	0.2	〃		151	〃	〃	0.4	0.24	0.1	うす緑	20
87	〃	〃	0.85	0.41	0.22	〃		152	〃	〃	0.43	0.3	0.15	瑠璃	21
88	〃	〃	0.8	0.42	0.2	〃		153	〃	〃	0.4	0.3	0.1	〃	22
89	〃	〃	0.8	0.41	0.2	〃		154	〃	〃	0.4	0.3	0.13～0.18	〃	23
90	〃	〃	0.76	0.4	0.19	〃		155	〃	〃	0.37	0.39	0.12	青緑	24
91	〃	〃	0.75	0.44	0.2	〃		156	〃	〃	0.38～0.4	0.2	0.1	瑠璃	25
92	〃	〃	0.74	0.4	0.18	〃		157	〃	〃	0.3	0.15	0.1～0.15	青	26
93	〃	〃	0.71	0.55	0.19	〃		158	〃	〃	0.3	0.46～0.5	0.07	〃	27

No	種類	材質	径	高さ	孔径	色	実測図番号	No	種類	材質	径	高さ	孔径	色	実測図番号
159	小玉	ガラス	0.35	0.23	0.1	うす緑	28	224	小玉	ガラス	0.35~0.44	0.28	0.14~0.2	瑠璃	
160	〃	〃	0.35~0.4	0.23	0.13	瑠璃	29	225	〃	〃	0.35	0.22	0.14	〃	
161	〃	〃	0.35	0.3	0.13	〃	30	226	〃	〃	0.35	0.25	0.15	〃	
162	〃	〃	0.35	0.2	0.1	緑青	31	227	〃	〃	0.35	0.21	0.12	〃	
163	〃	〃	0.36	0.26	0.12	〃	32	228	〃	〃	0.35~0.39	0.35	0.12	〃	
164	〃	〃	0.3~0.35	0.14	0.12~0.16	青	33	229	〃	〃	0.34	0.23	0.14	〃	
165	〃	〃	0.35	0.33	0.08	瑠璃	34	230	〃	〃	0.34	0.25	0.14	〃	
166	〃	〃	0.4	0.21	0.1	〃	35	231	〃	〃	0.34	0.19~0.26	0.13	〃	
167	〃	〃	0.25	0.3	0.1	青	36	232	〃	〃	0.34	0.24	0.18	〃	
168	〃	〃	0.3	0.2	0.11	青緑	37	233	〃	〃	0.34	0.19	0.11	〃	
169	〃	〃	0.3~0.35	0.24	0.1	青	38	234	〃	〃	0.33	0.25	0.13	〃	
170	〃	〃	0.3	0.27	0.08~0.1	うす緑	39	235	〃	〃	0.33	0.16	0.13	〃	
171	〃	〃	0.32	0.3	0.08	瑠璃	40	236	〃	〃	0.33	0.17	0.12	〃	
172	〃	〃	0.3	0.18	0.12~0.15	青	41	237	〃	〃	0.33	0.21	0.13	〃	
173	〃	〃	0.3~0.35	0.25	0.12	緑青	42	238	〃	〃	0.32	0.16	0.11	〃	
174	〃	〃	0.3	0.19	0.12	瑠璃	43	239	〃	〃	0.31	0.17	0.15	〃	
175	〃	〃	0.33	0.27	0.11	うす緑	44	240	〃	〃	0.3~0.34	0.25	0.13	〃	
176	〃	〃	0.32~0.35	0.19	0.09	〃	45	241	〃	〃	0.3	0.24	0.12	〃	
177	〃	〃	0.32	0.19	0.1	青緑	46	242	〃	〃	0.3	0.22	0.16	〃	
178	〃	〃	0.3	0.25	0.1	緑青	47	243	〃	〃	0.3	0.18	0.1	〃	
179	〃	〃	0.3	0.18	0.1	青緑	48	244	〃	〃	0.3	0.2	0.13	〃	
180	〃	〃	0.38	0.2	0.16	〃	49	245	〃	〃	0.3	0.15	0.15	〃	
181	〃	〃	0.28	0.2	0.12	うす緑	50	246	〃	〃	0.3~0.38	0.2	0.1~0.2	〃	
182	〃	〃	0.27~0.3	0.25	0.1~0.15	瑠璃	51	247	〃	〃	0.3	0.15	0.14	〃	
183	〃	〃	0.28	0.22	0.1	〃	52	248	〃	〃	0.3	0.22	0.13	〃	
184	〃	〃	0.28	0.19	0.07	〃	53	249	〃	〃	0.3	0.14	0.14	〃	
185	〃	〃	0.28	0.14	0.08~0.1	〃	54	250	〃	〃	0.3	0.15	0.12	〃	
186	〃	〃	0.22	0.1	0.1	青	55	251	〃	〃	0.29	0.17	0.12	〃	
187	〃	〃	0.24	0.15~0.18	0.1	〃	56	252	〃	〃	0.29	0.16	0.1	〃	
188	〃	〃	0.23	0.22	0.1	うす緑	57	253	〃	〃	0.29	0.2	0.1	〃	
189	〃	〃	0.5 残存径	0.25	0.1	青	58	254	〃	〃	0.28	0.18	0.1	〃	
190	〃	〃	0.5	0.26	0.14	瑠璃		255	〃	〃	0.5	0.3	0.17	うす緑	
191	〃	〃	0.49	0.29	0.15	〃		256	〃	〃	0.42	0.21	0.15	〃	
192	〃	〃	0.45	0.25	0.16	〃		257	〃	〃	0.42	0.28	0.19	〃	
193	〃	〃	0.45	0.27	0.15	〃		258	〃	〃	0.41	0.16	0.14	〃	
194	〃	〃	0.44~0.48	0.31	0.15	〃		259	〃	〃	0.4	0.25	0.1	〃	
195	〃	〃	0.43~0.45	0.21	0.15	〃		260	〃	〃	0.4	0.39	0.13	〃	
196	〃	〃	0.43	0.27	0.15	〃		261	〃	〃	0.4	0.18	0.15	〃	
197	〃	〃	0.42	0.22	0.17	〃		262	〃	〃	0.38	0.28	0.15	〃	
198	〃	〃	0.42	0.3	0.19	〃		263	〃	〃	0.37	0.2	0.14	〃	
199	〃	〃	0.4	0.2	0.14	〃		264	〃	〃	0.36	0.22	0.18	〃	
200	〃	〃	0.4	0.2	0.15	〃		265	〃	〃	0.36	0.22	0.18	〃	
201	〃	〃	0.4~0.46	0.25	0.11	〃		266	〃	〃	0.35	0.3	0.1	〃	
202	〃	〃	0.4	0.35	0.14	〃		267	〃	〃	0.35	0.16	0.11	〃	
203	〃	〃	0.4	0.22	0.15	〃		268	〃	〃	0.35	0.2	0.1	〃	
204	〃	〃	0.4	0.21	0.15	〃		269	〃	〃	0.34	0.24	0.14	〃	
205	〃	〃	0.4~0.5	0.28	0.2	〃		270	〃	〃	0.34	0.25	0.14	〃	
206	〃	〃	0.35	0.39	0.15	〃		271	〃	〃	0.34	0.2	0.13	〃	
207	〃	〃	0.39~0.4	0.3	0.11	〃		272	〃	〃	0.34	0.18	0.12	〃	
208	〃	〃	0.39	0.22	0.15	〃		273	〃	〃	0.34	0.21	0.18	〃	
209	〃	〃	0.39	0.23	0.14	〃		274	〃	〃	0.33	0.24	0.12	〃	
210	〃	〃	0.39	0.24	0.15	〃		275	〃	〃	0.32	0.18	0.14	〃	
211	〃	〃	0.39	0.35	0.15	〃		276	〃	〃	0.32	0.18	0.14	〃	
212	〃	〃	0.39~0.44	0.3	0.17	〃		277	〃	〃	0.32	0.28	0.16	〃	
213	〃	〃	0.38	0.29	0.15	〃		278	〃	〃	0.31	0.25	0.12	〃	
214	〃	〃	0.38	0.3	0.15	〃		279	〃	〃	0.3	0.19	0.1	〃	
215	〃	〃	0.37	0.21	0.15	〃		280	〃	〃	0.3	0.25	0.1	〃	
216	〃	〃	0.37	0.21	0.1	〃		281	〃	〃	0.3	0.28	0.12	〃	
217	〃	〃	0.35	0.17~0.21	0.13	〃		282	〃	〃	0.28	0.19	0.1	〃	
218	〃	〃	0.35	0.2	0.15	〃		283	〃	〃	0.25	0.21	0.1	〃	
219	〃	〃	0.35	0.21~0.24	0.15	〃		284	〃	〃	0.25	0.12	0.15	〃	
220	〃	〃	0.35	0.21	0.14	〃		285	〃	〃	0.47	0.39~0.44	0.16	瑠璃	
221	〃	〃	0.35	0.16	0.16	〃		286	〃	〃	0.45	0.35	0.14	〃	
222	〃	〃	0.35	0.2	0.15	〃		287	〃	〃	0.45	0.26	0.16	〃	
223	〃	〃	0.35~0.4	0.15~0.21	0.14~0.18	〃		288	〃	〃	0.35~0.44	0.25~0.27	0.16	〃	

No.	種類	材質	径	高さ	孔径	色	実測図番号	No.	種類	材質	径	高さ	孔径	色	実測図番号
289	小玉	ガラス	0.44	0.22	0.12	瑠璃		351	小玉	ガラス	0.4	0.21	0.12	暗青	
290	〃	〃	0.43	0.26	0.15	〃		352	〃	〃	0.4	0.26	0.1	〃	
291	〃	〃	0.41	0.31	0.14	〃		353	〃	〃	0.49	0.25	0.18	瑠璃	
292	〃	〃	0.41	0.27~0.32	0.15	〃		354	〃	〃	0.45	0.3	0.16	〃	
293	〃	〃	0.41	0.3	0.15	〃		355	〃	〃	0.45	0.25	0.18	〃	
294	〃	〃	0.36~0.41	0.3	0.13	〃		356	〃	〃	0.45	0.3	0.15	〃	
295	〃	〃	0.4	0.25	0.16	〃		357	〃	〃	0.43	0.28	0.16	〃	
296	〃	〃	0.4	0.3	0.14	〃		358	〃	〃	0.42	0.25	0.12	〃	
297	〃	〃	0.4	0.32	0.11	〃		359	〃	〃	0.4	0.25	0.15	〃	
298	〃	〃	0.4	0.27	0.13	〃		360	〃	〃	0.4	0.35	0.1	〃	
299	〃	〃	0.4	0.23~0.3	0.11	〃		361	〃	〃	0.4	0.27	0.13	〃	
300	〃	〃	0.4	0.2	0.12	〃		362	〃	〃	0.4	0.25	0.15	〃	
301	〃	〃	0.4	0.35	0.14	〃		363	〃	〃	0.4	0.15	0.26	〃	
302	〃	〃	0.4	0.25	0.15	〃		364	〃	〃	0.39	0.29	0.15	〃	
303	〃	〃	0.4	0.23	0.15	〃		365	〃	〃	0.35	0.15	0.18	〃	
304	〃	〃	0.4	0.28	0.15	〃		366	〃	〃	0.35	0.18	0.11	〃	
305	〃	〃	0.4	0.3	0.14	〃		367	〃	〃	0.35	0.12	0.15	〃	
306	〃	〃	0.39~0.5	0.38	0.15	〃		368	〃	〃	0.35	0.29	0.1	〃	
307	〃	〃	0.39	0.25	0.11	〃		369	〃	〃	0.34	0.26	0.14	〃	
308	〃	〃	0.39	0.31	0.14	〃		370	〃	〃	0.33	0.17	0.15	〃	
309	〃	〃	0.39	0.3	0.15	〃		371	〃	〃	0.3	0.21	0.12	〃	
310	〃	〃	0.38	0.14	0.13	〃		372	〃	〃	0.3	0.14	0.12	〃	
311	〃	〃	0.3	0.27	0.18	〃		373	〃	〃	0.44	0.3~0.32	0.19	青	
312	〃	〃	0.36	0.3	0.1	〃		374	〃	〃	0.4	0.3	0.14	〃	
313	〃	〃	0.4	0.35	0.1	緑青		375	〃	〃	0.39	0.21	0.17	〃	
314	〃	〃	0.39	0.24	0.14	〃		376	〃	〃	0.36	0.15~0.19	0.15	〃	
315	〃	〃	0.38	0.25	0.12	〃		377	〃	〃	0.36	0.14~0.16	0.17	〃	
316	〃	〃	0.35	0.22	0.13	〃		378	〃	〃	0.31~0.35	0.2	0.16	〃	
317	〃	〃	0.35	0.25	0.1	〃		379	〃	〃	0.3	0.14	0.13	〃	
318	〃	〃	0.35	0.2	0.12	〃		380	〃	〃	0.3	0.11~0.15	0.15	〃	
319	〃	〃	0.35	0.23	0.16	〃		381	〃	〃	0.3	0.18	0.13	〃	
320	〃	〃	0.35	0.2	0.1	〃		382	〃	〃	0.3	0.26	0.14	〃	
321	〃	〃	0.34	0.25	0.14	〃		383	〃	〃	0.3	0.25	0.13	〃	
322	〃	〃	0.39	0.25	0.12	〃		384	〃	〃	0.42	0.24	0.15	うす緑	
323	〃	〃	0.34	0.16	0.13	〃		385	〃	〃	0.42	0.3	0.15	〃	
324	〃	〃	0.34	0.3	0.1	〃		386	〃	〃	0.39	0.28	0.14	〃	
325	〃	〃	0.32	0.34	0.1	〃		387	〃	〃	0.34	0.36	0.1	〃	
326	〃	〃	0.31	0.27	0.12	〃		388	〃	〃	0.32	0.27	0.15	〃	
327	〃	〃	0.3	0.21	0.12	〃		389	〃	〃	0.32	0.25	0.12	〃	
328	〃	〃	0.3	0.35	0.09	〃		390	〃	〃	0.35	0.14	0.13	青	
329	〃	〃	0.3	0.3	0.1	〃		391	〃	〃	0.34	0.16	0.1	〃	
330	〃	〃	0.3	0.25	0.15	〃		392	〃	〃	0.3	0.11~0.15	0.13	〃	
331	〃	〃	0.28	0.27	0.1	〃		393	〃	〃	0.3	0.15	0.12	〃	
332	〃	〃	0.23	0.13	0.12	〃		394	〃	〃	0.39	0.22	0.12	青緑	
333	〃	〃	0.21	0.08	0.13	〃		395	〃	〃	0.39	0.23	0.14	〃	
334	〃	〃	0.18	0.13	0.11	〃		396	〃	〃	0.34	0.21	0.11	〃	
335	〃	〃	0.18	0.15	0.1	〃		397	〃	〃	0.36~0.4	0.24	0.14	〃	
336	〃	〃	0.42	0.18	0.14	〃		398	〃	〃	0.35~0.4	0.35	0.11	〃	
337	〃	〃	0.4	0.2	0.12	〃		399	〃	〃	0.35	0.4	0.14	〃	
338	〃	〃	0.4	0.21	0.12	〃		400	〃	〃	0.39~0.48	0.25	0.19	〃	
339	〃	〃	0.38	0.21	0.12	〃		401	〃	〃	0.38	0.31	0.12	〃	
340	〃	〃	0.35	0.25	0.11	〃		402	〃	〃	0.35	0.35	0.1	〃	
341	〃	〃	0.34	0.29	0.11	〃		403	〃	〃	0.32	0.21	0.1	〃	
342	〃	〃	0.29	0.15	0.11	〃		404	〃	〃	0.4	0.35~0.4	0.19	うす緑	
343	〃	〃	0.28	0.1	0.1	〃		405	〃	〃	0.35	0.26	0.15	〃	
344	〃	〃	0.4	0.26	0.15	灰青		406	〃	〃	0.37	0.25	0.14	〃	
345	〃	〃	0.39	0.21	0.15	〃		407	〃	〃	0.36	0.17~0.21	0.16	瑠璃	
346	〃	〃	0.36	0.4	0.1	〃		408	〃	〃	0.4	0.2~0.22	0.1	〃	
347	〃	〃	0.34	0.21	0.11	〃		409	〃	〃	0.42	0.27	0.16	〃	
348	〃	〃	0.3	0.18	0.1	〃		410	〃	〃	0.24	0.16	0.11	うす緑	
349	〃	〃	0.29	0.22	0.1	〃		411	〃	〃	0.46	0.24	0.18	青	
350	〃	〃	0.5	0.36	0.19	暗青		412	〃	〃	0.6	0.42	0.2	青緑	

4．線刻文様 (Fig.16, PL.5-2,6-1)

ＳＴ014古墳は6か所に線刻の文様が施されている。玄室奥壁腰石の三枚のうち，中央と左側の石には格子文が刻まれ，左側壁の奥壁寄りの腰石に斜平行線文，右袖石の内側に縦平行線文，奥壁中央の腰石上の石に斜格子または斜平行線文，右側壁の袖石寄りの腰石上面に積まれた石に斜平行線文が刻まれている。この他，数個の石にも文様のような線があるようだが，構図や石の風化，後世の傷などから線刻文様とは断定できない。奥壁中央の腰石 (Fig.16) に施された文様は縦10本，横20本の線が交叉する格子文で，縦線は主線が8本と2本（左から2本目，右端）の補助的な線を4.6～9.7cmの間隔で刻み，部分的には3.0～5.3cmの狭い間隔で刻んでいる。横線は15本の主線と幅の広い部分を分割する6本の線が刻まれ，その間隔は1.4～8.8cmで，0.9cm・11.5cmと極端な幅もある。中央下部の4本の縦線は後世の傷痕ともみられる。奥壁左腰石も同様の格子文様が刻まれているが，かなり風化し拓本も鮮明でなかった。

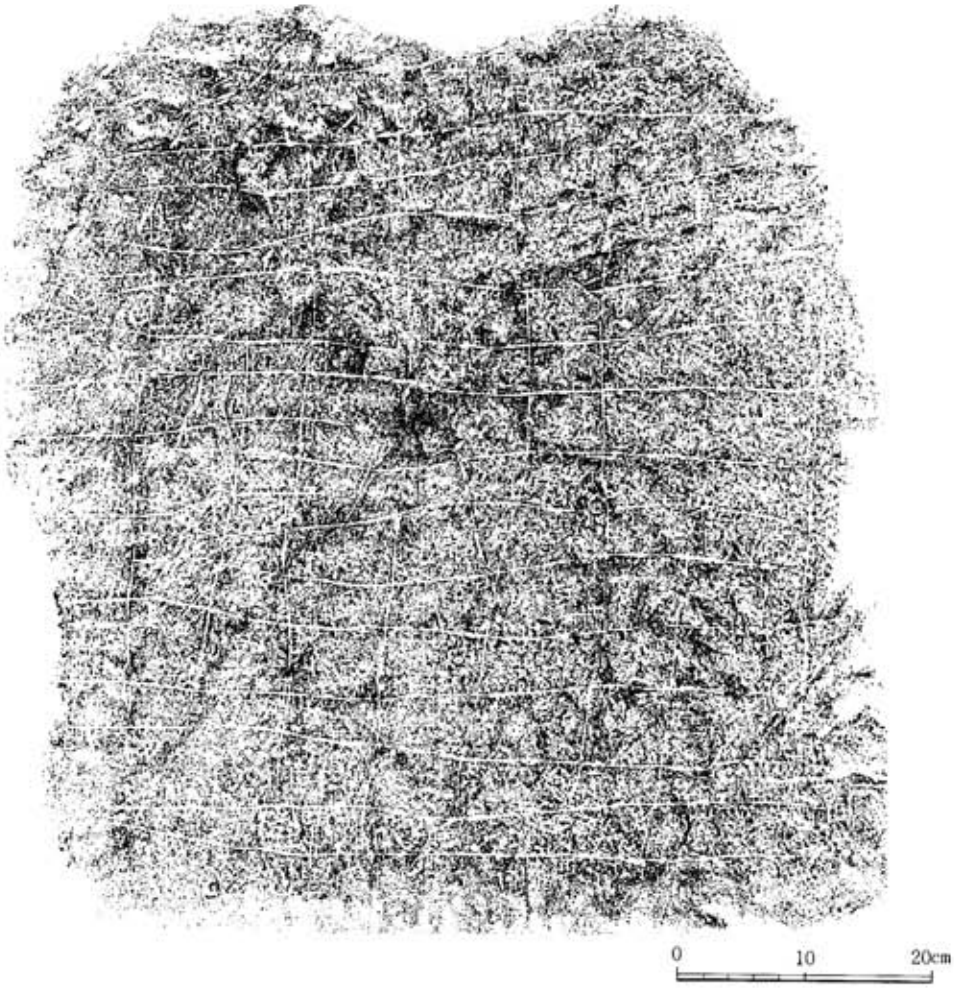


Fig. 16　山の上古墳群ＳＴ014古墳線刻文様拓影

Tab. 3　山の上古墳群古墳一覧表

遺構番号	墳丘			葺石	内部主体	開口方向	内部主体注量		出土遺物		備考
	形状	径(m)	周溝				長(m)	幅(m)	石室前面	石室内	
ST001	円	15.0	無	有	横穴式石室(単)	南	3.0	2.3	土師器高杯 須恵器甕・杯 横瓶	須恵器杯 鉄鏃	東側壁陥没
ST002	−	−	無	無	横穴式石室(単)	南	1.5	1.9	須恵器杯	須恵器杯 鉄鏃	
ST003	円	5.0	無	有	横穴式石室(単)	南	1.8	1.7		土師器杯 須恵器杯	
ST004	円	5.1	無	有	横穴式石室(単)	南	1.9	1.4			
ST005	−	−	無	無	横穴式石室(単)	南	1.2	1.1		須恵器蓋	
ST006	−	−	無	無	横穴式石室(単)	南	1.3	1.0			
ST007	円	8.2	無	無	横穴式石室(単)	南	2.2	2.0	須恵器甕・杯	鉄鏃	
ST008	円	4.6	無	無	横穴式石室(単)	南	1.7	1.6			
ST009	円	4.8	無	無	横穴式石室(単)	南	2.1	1.5		須恵器蓋・杯 須恵器盤 土師器杯	
ST010	円	4.2	無	無	横穴式石室(単)	南	1.2	1.5			
ST011	円	5.1	無	有	横穴式石室(単)	南	1.4	1.1	須恵器蓋		
ST012	円	3.5	無	無	横穴式石室(単)	南	1.1	1.0	須恵器蓋		
ST013	円	8.1	無	無	横穴式石室(単)	西	2.0	1.8			
ST014	円	8.0	無	無	横穴式石室(単)	南	2.3	2.3		勾玉・管玉・丸玉 ソロバン玉・小玉・刀子 鉄鏃・弓付属金具	人骨 敷石に河原石使用 線刻文様
ST015	円	8.4			横穴式石室(単)	南					
ST016	円	10.0			横穴式石室(単)	南	1.7	1.4			

5．小　　結

山の上古墳群は多久市内最大規模の古墳群で，今回，九州横断自動車道関係の7基を含め16基のうち14基を発掘した。古墳はすべて横穴式石室を有する古墳時代後期に築造されたものであるが一時期ではない。築造時期について，編年がほぼ確立されている須恵器や石室の内部構造，古墳群の中での個々の古墳の立地などから考察することができる。山の上古墳群については14基の古墳を対象とした考察を加えることが古墳群としての性格を明らかにすると考えられることから九州横断自動車道関係の7基も含めて考察する。

山の上古墳群のうちもっとも築造時期が早い古墳は標高100ｍを越す高い地点に築造されたＳＴ007古墳で6世紀前半の須恵器杯・蓋が出土している。ＳＴ014古墳は石室内の数か所に線刻文様が刻まれ，石室も2ｍを越す古墳群の中では大形に属する。市内で線刻文様が施された古墳は古賀山1号古墳(註①)，穴大師古墳があり，昭和40年に調査された古賀山1号古墳の線刻文様とＳＴ014古墳の線刻文様は共通した文様構成であることから同一時期の築造が考えられる。古賀山1号古墳出土の須恵器高杯・平瓶は6世紀末～7世紀初頭に編年され，ＳＴ014古墳もその時期の築造とみられる。ＳＴ013古墳はＳＴ007古墳，ＳＴ014古墳と同規模の石室を有し，石室の構造や羨道はＳＴ014古墳と共通し，古墳の立地からＳＴ014古墳に次ぐ7世紀初頭の築造が考えられる。ＳＴ001古墳出土の須恵器は7世紀前半～中頃に編年され，ＳＴ005古墳，ＳＴ006古墳が続く。ＳＴ002古墳の須恵器杯・蓋は7世紀中頃，ＳＴ003古墳は7世紀中頃～後半の須恵器が出土，ＳＴ004古墳も同時期の築造と考えられる。ＳＴ008古墳，ＳＴ009古墳は同一規模の古墳でＳＴ009古墳出土の須恵器から7世紀末に編年される。7世紀末～8世紀初頭の須恵器蓋が出土したＳＴ011古墳，ＳＴ012古墳はＳＴ010古墳とともに小石室を有する終末期の古墳である。

山の上古墳群の調査によって，これまで明らかでなかった多久地区の古墳時代後期～終末期の古墳の実態とその変遷を知る重要な手がかりを得，今後この時期の研究に大きな資料を提供することになろう。

(註①)「牟田辺遺跡」　多久市教育委員会　1975

小城炭坑跡古墳（おぎたんこうあと）

遺　跡　名：小城炭坑跡古墳（略号ＯＧＴ）
遺跡所在地：多久市東多久町大字別府字中峠

小城炭坑跡古墳

1．遺跡の概要 (Fig.17, PL.9-1)

小城炭坑跡古墳は笠頭山から南に派生する通称「上り山」南東に延びた標高 60 m前後の緩傾斜面に位置し，山の上古墳群のＳＴ 001 古墳から東に 300 mの距離にある。付近一帯は縄文時代晩期の土器片や石槍，石鏃などが散布し，山の上古墳群，古賀山古墳群，渋木古墳群，小城町一本松古墳群，同町米ノ隈古墳群などとも近い距離にあり，遺跡の分布密度が高い地域であったが，昭和 20 年代の小城炭坑の社宅建築，構築物の設置，貯炭場，ボタ山などに使用され，さらに昭和 30 年代の橘柑園の造成によって遺跡や古墳の大部分は破壊，消滅を余儀なくされた。

小城炭坑跡古墳もその一つである。古墳の存在は早くから知られていたようで，小城炭坑労働組合事務所建設の際も石室部分は残された。昭和 30 年にはすでに玄門左側の袖石が取り除かれ，石室内へ出入りができ，昭和 40 年には地元小学生が石室内から須恵器の長頸壺・杯を多久市立東部小学校に届けている。昭和 42 年に橘柑園造成のため重機で石室もろとも押され，天井石や石室の石材が一か所に集められる結果となった。昭和 44 年作成の資料(註①)によると古墳は墳丘の直径 13.0 m，高さ 2.8 m，石室の全長 5.2 m，玄室の長さ1.3m，幅 1.7 m，高さ 1.5 mと概測され，今回調査の実測とほぼ一致した。

(註①)　「鬼鼻山」№2　多久考古学会　古墳の分布よりみた多久　尾形善郎　1970

Fig. 17　小城炭坑跡古墳地形図

2．遺　　構 (Fig.18, PL9～11)

昭和42年の橘柑園造成前の小城炭坑跡古墳は南側の盛土の一部が削平され，玄門の袖石が取り除かれており石室内へ出入りができたが，市内では天井石や閉塞部が完全に残る数少ない古墳の一つであった。橘柑園造成後は平坦に削平され，古墳の位置もわからない状態となって石室の石材は三か所に寄せ集められていた。調査前，付近一帯の樹木の伐採作業で玄室の腰石の一部が原位置に残っていることを確認し調査に踏みきった。石室の石材は古墳の南北と羨道部の上に積まれ，数量も多かったことから相当の破壊を予想したが，玄室右側壁腰石と羨門の両袖石以外，すべての腰石が残り，古墳の規模や構造を知るには十分であった。玄室や副室，石室前面で須恵器や土師器，鉄鏃や鉄剣・刀子・馬具などの鉄器，耳環・切子玉・ガラス玉などの装身具が多数出土した。特に注目されるのは鉄地金銅張の杏葉や鋲留金具などが出土したことである。

墳丘　造成以前は直径13.0 m，高さ2.8 mの墳丘を持つ円墳であった。造成後の状態では葺石の有無は確認できず，周溝も存在しなかった。地山整形は11°の傾斜面を平坦に切り，奥壁付近では比高0.5～0.6mを測る。

内部主体　複室両袖型横穴式石室で主軸をS-78°-E方向にとる。造成前に玄門の左袖石が抜き取られていたが，石室の規模を測る腰石は玄室右側壁腰石を除きすべてが残っていた。石室の法量は玄室の長さ1.58 m，幅1.67 m，副室の長さ1.77 m，幅1.54 m，羨道部は長さ0.96 m，幅1.06 mを測る。石室の腰石は玄室の右側壁が動かされているが，掘り込みの形と右側に放置された石が一致し，玄室，副室とも1個ずつの巨石で一辺の壁を造っている。羨道部の主要部分も1個の巨石が用いられている。腰石は玄室で敷石下の地山から0.1～0.5m埋められ，掘り込みも0.15～0.2mの深さである。玄室と副室，副室と羨道部を区切る梱石は玄門，羨門の中央部に正確に置かれている。敷石は副室の右側壁から中央部と玄室の左側壁袖石付近に0.15～0.4mの扁平な角礫が残っているが，築造当時は副室，玄室とも全面に敷かれていたとみられる。玄室奥壁の腰石前に残る0.3～0.4mの厚味がある礫群は敷石上面よりやや高く，腰石にくい込むものもあり，敷石とみるより奥壁腰石を支える前込めの石とみるべきであろう。羨道部は石室主軸よりやや左に曲っているが，橘柑園造成時に左側の袖石付近から重機の強力な力が加えられた形跡が残り，作為的なものではない。羨道部には0.2～0.5mの礫が羨門の梱石まで詰められ，羨道部入口に0.8m角の閉塞石が置かれていた。なお，橘柑園造成前に石室の石組は持送りで積まれていたことが確認されている。

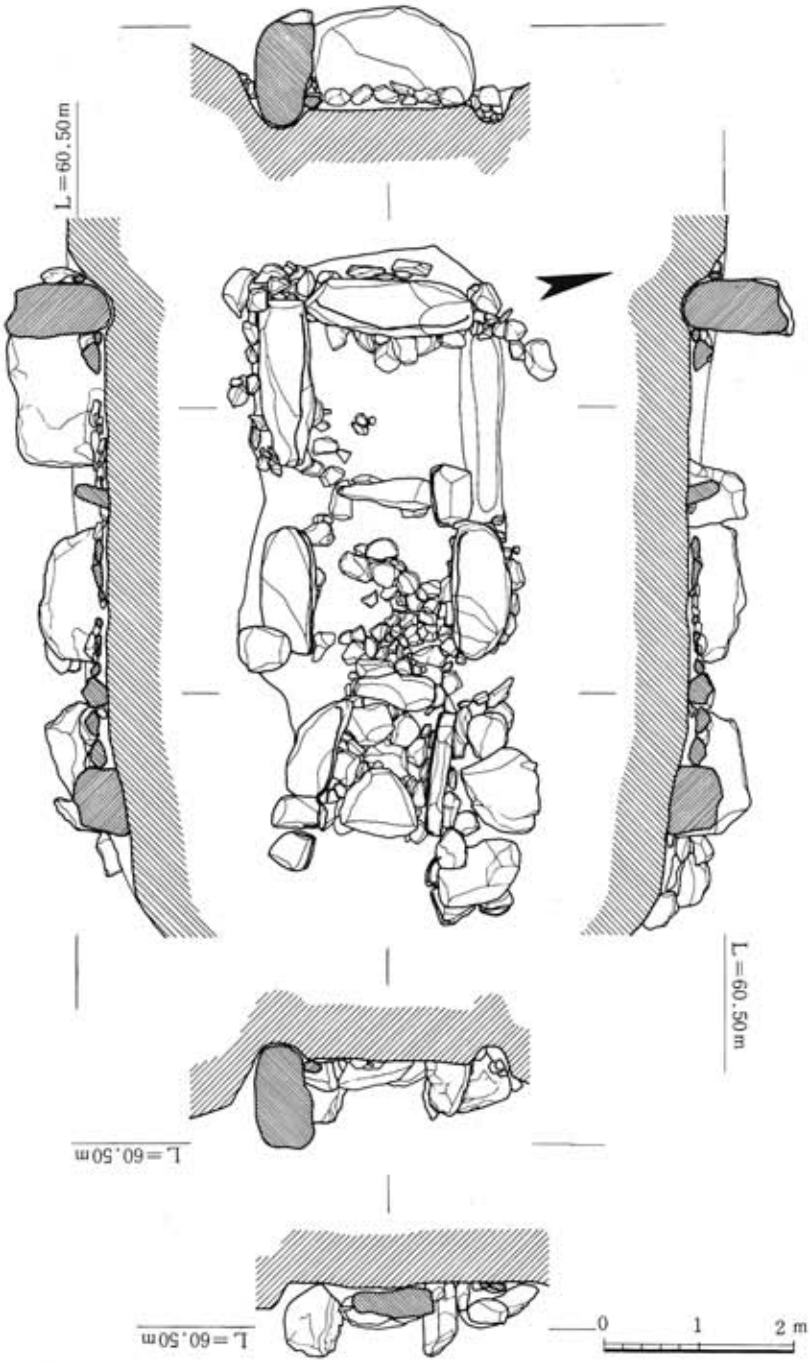


Fig. 18　小城炭坑跡古墳石室実測図

3．遺　　物

土器　小城炭坑跡古墳での土器はすべて破片で出土し，復元できたものは土師器2個，須恵器5個の7個分で，昭和40年に出土した須恵器杯1個を加え図示した。

土師器 (Fig.19-1・2, PL12-1・2)

杯　1は立ち上りを有する杯で，受部は丸味をおびた段がつく。立ち上り高1cm，やや立ち気味となる。内面につやのある黒色の顔料が塗られている。復元口径10.8cm，器高4cm。

高杯　2は脚部が欠損し，杯部だけが残る高杯で，内外面に赤色顔料が施されている。杯部の復元口径15.4cm，残存高4.8cm。

須恵器 (Fig.19-3～7, PL.12-3～7)

杯（3・4）　3は立ち上がりの内傾が大きく，受部よりわずかに高い。底部はやや丸味を持つ。底部ヘラケズリ調整，内外面ともヨコナデ調整。口径9.4cm，器高3.2cmを測る。4は昭和40年に石室内から出土した杯で，底部が広く平坦である。底部と体部の境は明確で口縁部はほぼ直立する。底部外面はヘラ切り離し後，ヘラケズリ，ヘラナデ調整，内面ナデ調整，他はヨコナデ調整である。口径12.4cm，器高3.6cmを測る。

蓋（5～7）　宝珠形のつまみを有する小形の杯蓋。5・6はかえりが口縁部より中にはいる。天井部から口縁部まで丸味を帯びる。7は天井部がほぼ平坦で体部は丸味を持ち口縁部に広がる。かえりは口縁部より高い。3個とも天井部はヘラケズリ，内面ナデ調整，他はヨコナデ調整である。口径9.3～10cm。器高2.9～3.4cmを測る。

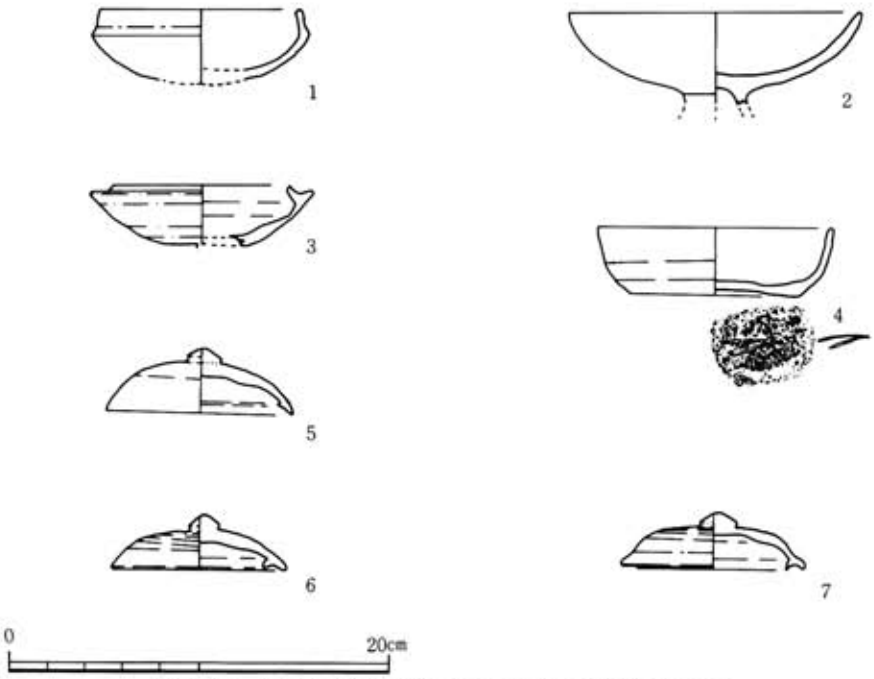


Fig. 19　小城炭坑跡古墳出土土師器・須恵器実測図

鉄器　小城炭坑跡古墳での鉄器は鉄鏃や刀子などの武器類と杏葉や鋲留金具などの馬具類に分けられる。出土した場所は玄室と副室の梱石付近に限られた。なかでも注目されるのは，鉄地金銅張の細工を施した馬具類で，多久市内の古墳からは最初の出土である。

武器 (Fig.21, PL.12-8～10)

鉄鏃　出土総数21本のうち16本を図示した。1～5は平根式で，1～3は平根両丸造腸抉柳葉式である。4は平根円頭斧箭式，5は平根斧箭式である。6～9は尖根式の鉄鏃で切刃片丸鑿箭式に属する。10～16は鏃身の刃部が欠損し，篦被から茎の破片である。細身であることから尖根式が多いようである。

鉄剣　残存長5cm，幅2.05cm，厚さ0.35cmを測り，断面は菱形で両面に稜がある。表面に鑢のような条痕が残る。鑢の可能性もある。

刀装具　18・19は剣の鞘口金具の一部である。部分的に緑青が生じ，銅を用いている。

刀子　20は残存長6.25cm，最大幅1.05cm，最大厚0.4cmを測る細身の刀子である。

不明鉄器　21は残存長6.35cm，幅1～1.5cm，厚さ0.25cm，22は長さ10.7cm，幅1.2～1.7cm，厚さ0.5cm，断面は長方形である。

馬具 (Fig.22・23, PL.13,14-1～5)

杏葉　長径10.6～10.75cm，短径9.3＋α～10.2cmの2面（枚）と長径10.6～10.9cm，短径9.4＋αcmの2面のほか破片が2点出土している。4面とも芯となる車輪形の鉄材に金銅板を張っている。前者は金銅張がほぼ残り，鈎金具や，裏側に鉄板が残っている。後者は金銅板が剝落，鉄地が露出し，裏地の鉄板もない。車輪形の中心にある円の金銅張の有無は後者が鏡板であることも考えられる。

鋲留金具　杏葉と同じ鉄地金銅張で頭部が丸味を帯びた幅広のものと，やや角張った頭部，平坦な頭部の細身のものがある。2個の鋲を持つものがほとんどで3個のものもある。

その他の馬具　鋲留金具の付属金具・辻金具・雲珠の部分とみられる破片が出土している。

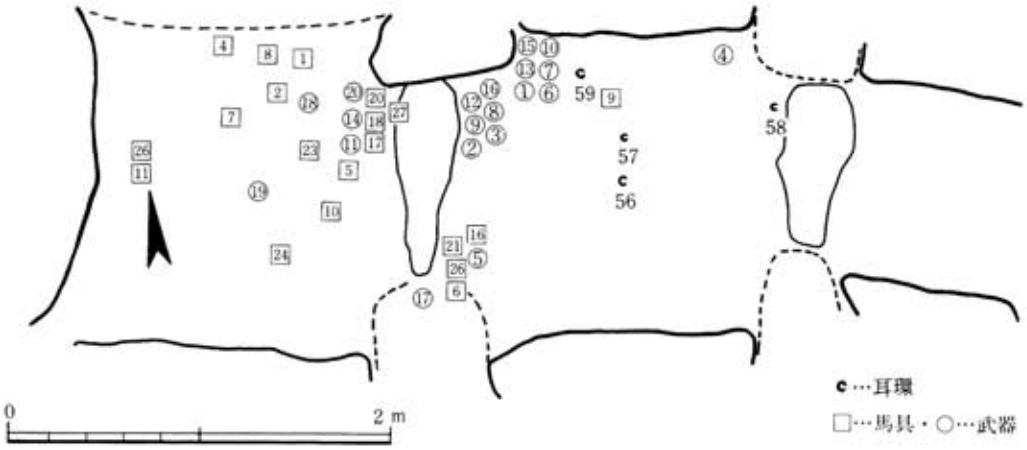


Fig. 20　小城炭坑跡古墳遺物出土状況図

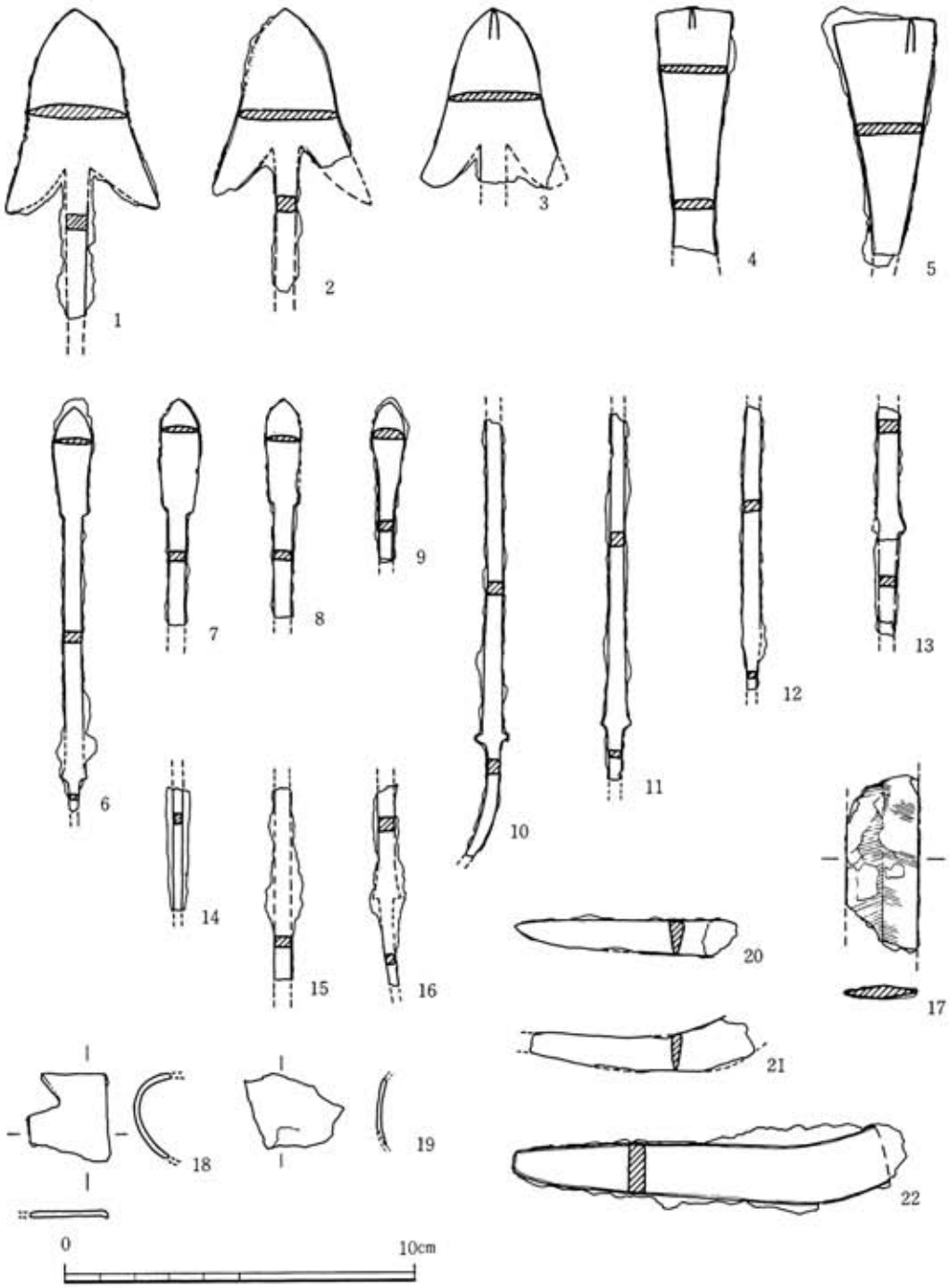


Fig. 21　小城炭坑跡古墳出土鉄器（武器）実測図

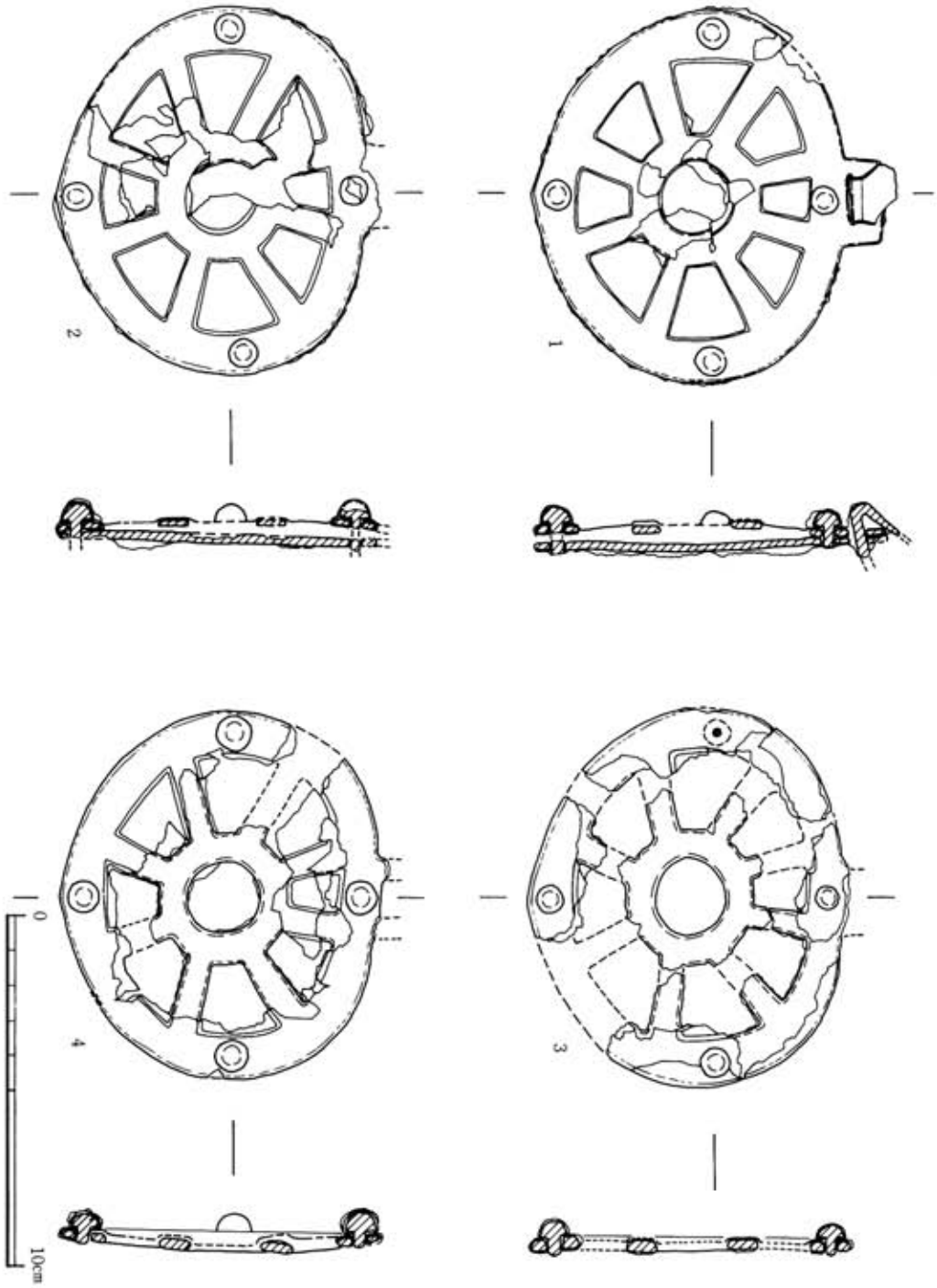


Fig. 22　小城炭坑跡古墳出土杏葉実測図

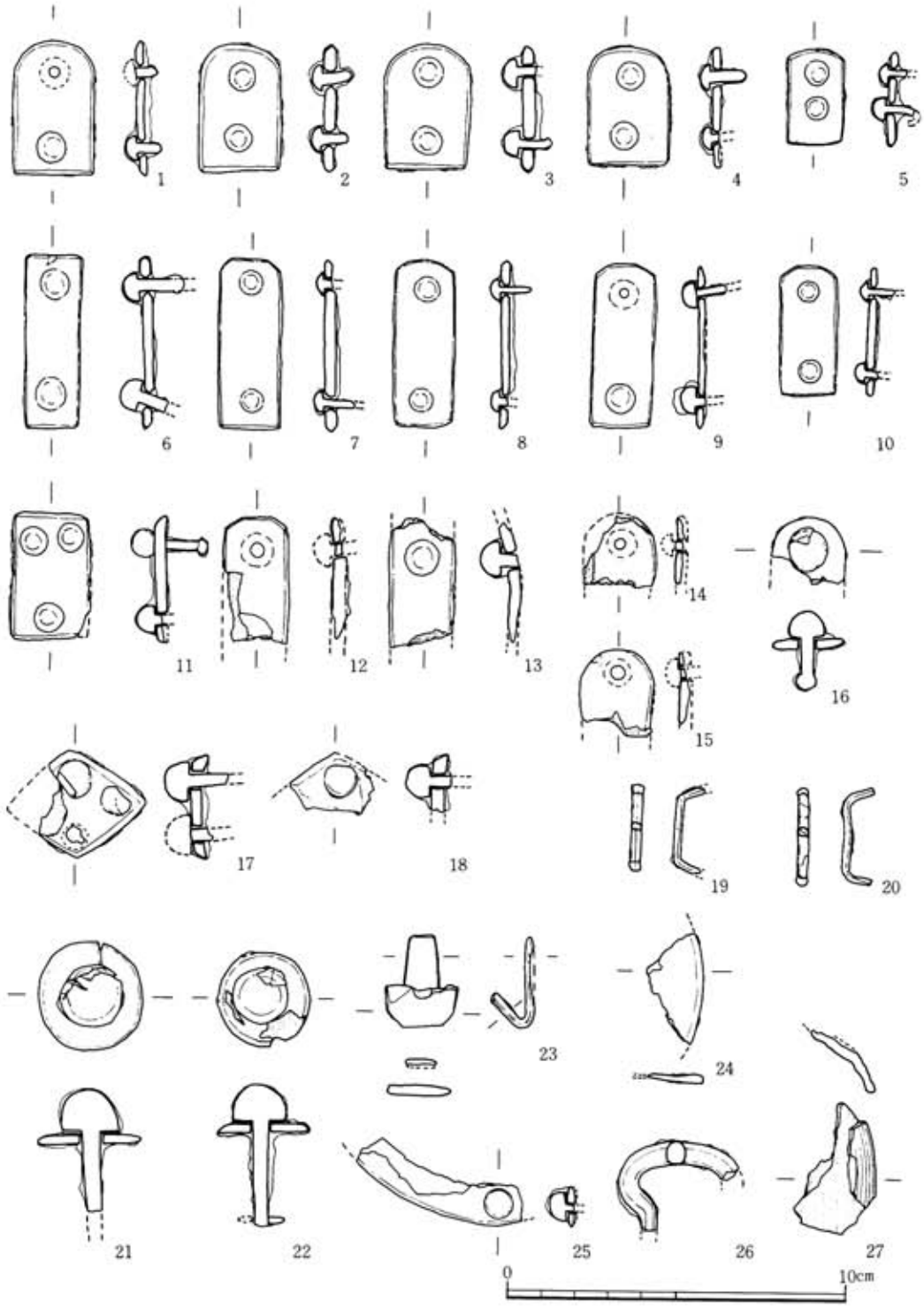


Fig. 23　小城炭坑跡古墳出土鉄器（馬具）実測図

装身具 (Fig.24, PL.14-6～10)

小城炭坑跡古墳での装身具は副室から耳環4個と玄室から切子玉・丸玉・小玉などの玉類が169個出土した。玄室，副室とも敷石の大部分は取り除かれ，ほとんどが埋土からの出土で正確な場所はわからない。耳環は金箔張1個（59），銀箔張2個（56・57），表面剝落のため不明1個（58）である。切子玉は長さ2.0～2.1 cm（52・53）の大形のものもある。瑪瑙の丸玉は赤色に縞（49）と，乳白色に桃色の縞（51）と，白色に濁るもの（50）がある。ガラス製の玉類は直径0.5 cm以下を小玉とし，0.51 cm以上を丸玉に分類した。小玉は100個，丸玉は61個が出土している。色調は小玉・丸玉とも瑠璃色がもっとも多く，青色系，緑色系の順となる。

装身具は出土数も多く，すべてを図示できなかったが，法量等についてはTab. 4の計測表に示す通りである。

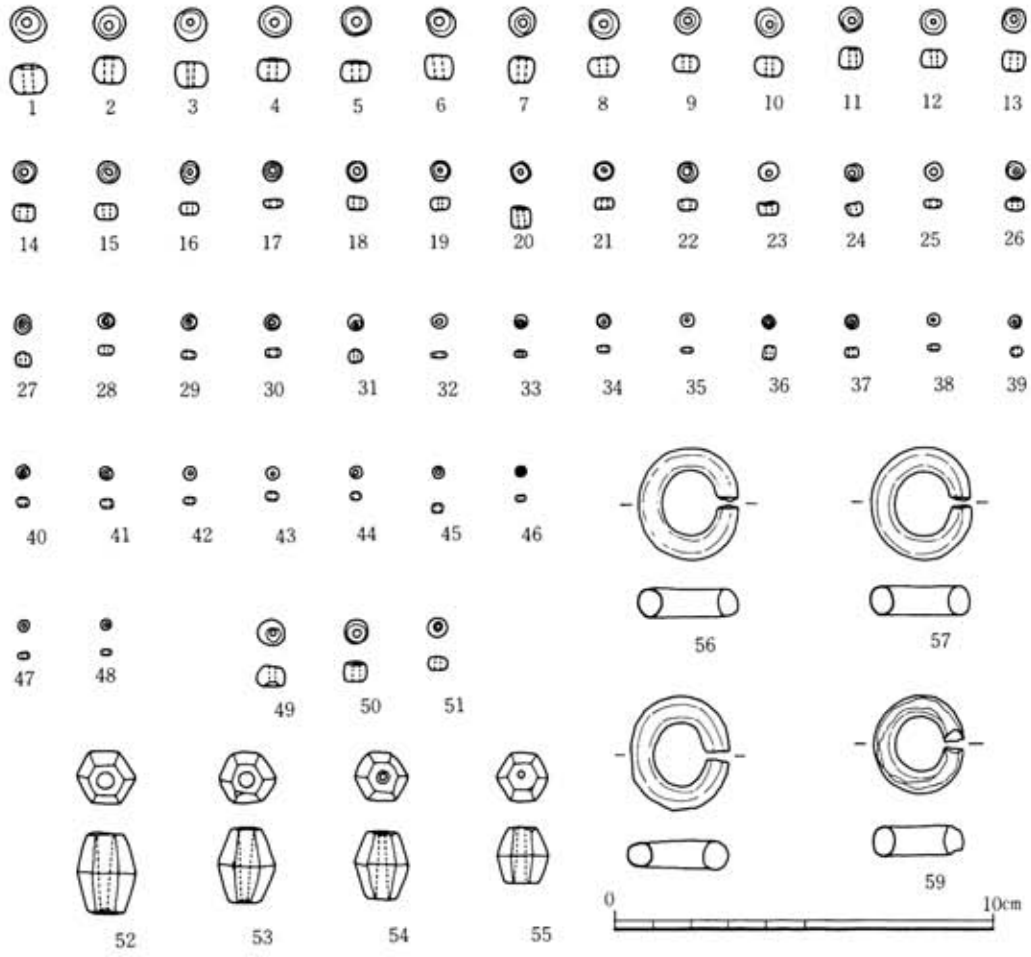


Fig. 24　小城炭坑跡古墳出土装身具実測図

Tab. 4　小城炭坑跡古墳出土装身具計測表

単位：cm

No	種類	材質	径	高さ	孔径	色	実測図番号	No	種類	材質	径	高さ	孔径	色	実測図番号
1	耳環	銅地銀箔張	2.95	0.6～0.75	2.6		56	65	中玉	ガラス	0.81	0.5～0.59	0.23	瑠璃	
2	〃	〃	3.0	0.6～0.75	2.6		57	66	〃	〃	0.8～0.86	0.6	0.2	〃	
3	〃	銅地(不明)	2.6	0.55～0.8	2.4		58	67	〃	〃	0.72～0.85	0.5～0.62	0.15	〃	
4	〃	銅地金箔張	2.95	0.6～0.79	2.65		59	68	〃	〃	0.54	0.36	0.14	〃	
5	切子玉	水晶	1.4×1.5	2.1	0.18～0.43	透明	52	69	〃	〃	0.52	0.34～0.39	0.21	〃	
6	〃	〃	1.33×1.5	2.0	0.13～0.4	〃	53	70	〃	〃	0.54	0.32～0.45	0.14	〃	
7	〃	〃	1.29×1.4	1.75	0.18～0.38	〃	54	71	〃	〃	0.62	0.36～0.41	0.14	〃	
8	〃	〃	1.25×1.3	1.45	0.23～0.36	〃	55	72	〃	〃	0.54	0.24	0.23	青	
9	〃	〃	1.1 ×1.17	1.52	0.24～0.34	〃		73	〃	〃	0.51	0.26	0.16	〃	
10	中玉	瑪瑙	0.73	0.55	0.12	赤色	49	74	小玉	〃	0.5	0.38～0.43	0.18	瑠璃	
11	〃	〃	0.6	0.53	0.2	白濁	50	75	中玉	〃	0.45～0.55	0.26	0.18	〃	
12	〃	〃	0.53	0.38	0.12～0.15	乳白一部黒色の残	51	76	〃	〃	0.52	0.34～0.37	0.16	青緑	
13	〃	ガラス	0.9	0.75	0.23	瑠璃	1	77	小玉	〃	0.49	0.28	0.12	瑠璃	
14	〃	〃	0.85	0.7	0.2	〃	2	78	〃	〃	0.49	0.21	0.16	〃	
15	〃	〃	0.85	0.65	0.13～0.18	〃	3	79	〃	〃	0.46	0.28	0.15	〃	
16	〃	〃	0.8～0.85	0.58	0.2	〃	4	80	〃	〃	0.48	0.27	0.11	〃	
17	〃	〃	0.76	0.53	0.28	〃	5	81	〃	〃	0.46	0.22～0.31	0.16	〃	
18	〃	〃	0.75	0.6	0.2	〃	6	82	〃	〃	0.49	0.28	0.2	〃	
19	〃	〃	0.7	0.65	0.2	〃	7	83	〃	〃	0.46	0.24	0.12	〃	
20	〃	〃	0.75～0.8	0.5	0.2	〃	8	84	〃	〃	0.46	0.26	0.16	〃	
21	〃	〃	0.68	0.45	0.2	青緑	9	85	〃	〃	0.46	0.23	0.17	〃	
22	〃	〃	0.73	0.5	0.19	瑠璃	10	86	〃	〃	0.42	0.26～0.31	0.2	〃	
23	〃	〃	0.6～0.65	0.57	0.18	〃	11	87	〃	〃	0.42	0.3	0.14	〃	
24	〃	〃	0.65～0.7	0.46	0.18	〃	12	88	〃	〃	0.47	0.22	0.21	〃	
25	〃	〃	0.63	0.5	0.2	青	13	89	〃	〃	0.45	0.21	0.16	〃	
26	〃	〃	0.6	0.43	0.2	瑠璃	14	90	〃	〃	0.43	0.22	0.15	〃	
27	〃	〃	0.56	0.42	0.15～0.25	〃	15	91	〃	〃	0.4	0.34～0.36	0.15	〃	
28	〃	〃	0.5～0.6	0.3	0.13	青緑	16	92	〃	〃	0.45	0.21	0.13	〃	
29	小玉	〃	0.5	0.23	0.2	青	17	93	〃	〃	0.48	0.25	0.14	〃	
30	中玉	〃	0.55	0.32	0.2	瑠璃	18	94	〃	〃	0.45	0.3	0.09	〃	
31	〃	〃	0.5～0.53	0.33	0.1	〃	19	95	〃	〃	0.45	0.36	0.16	〃	
32	〃	〃	0.55	0.55	0.19	〃	20	96	〃	〃	0.49	0.28	0.14	〃	
33	小玉	〃	0.5	0.29	0.13	〃	21	97	〃	〃	0.48	0.2～0.31	0.15	〃	
34	中玉	〃	0.5～0.52	0.28	0.2	〃	22	98	〃	〃	0.45	0.29～0.4	0.15	〃	
35	〃	〃	0.8	0.49～0.55	0.23	〃		99	〃	〃	0.45	0.28	0.11	〃	
36	〃	〃	0.75	0.6～0.65	0.2	〃		100	〃	〃	0.46	0.22	0.11	〃	
37	〃	〃	0.75	0.47	0.21	〃		101	〃	〃	0.45	0.36	0.16	〃	
38	〃	〃	0.76	0.59～0.66	0.2	〃		102	〃	〃	0.47	0.26	0.19	〃	
39	〃	〃	0.73	0.59～0.68	0.16	〃		103	〃	〃	0.44	0.21～0.27	0.15	〃	
40	〃	〃	0.74	0.5～0.55	0.21	〃		104	〃	〃	0.42	0.29	0.14	〃	
41	〃	〃	0.71	0.44～0.5	0.24	〃		105	〃	〃	0.45	0.22	0.15	〃	
42	〃	〃	0.61	0.41～0.46	0.25	〃		106	〃	〃	0.41	0.24	0.15	〃	
43	〃	〃	0.56	0.3	0.2	〃		107	〃	〃	0.4	0.32	0.14	〃	
44	〃	〃	0.9	0.5～0.65	0.25	〃		108	〃	〃	0.41	0.21	0.11	〃	
45	〃	〃	0.9	0.65	0.15	〃		109	〃	〃	0.41	0.31	0.11	〃	
46	〃	〃	0.83	0.55	0.18	〃		110	〃	〃	0.4	0.3	0.13	〃	
47	〃	〃	0.65	0.6	0.1	〃		111	〃	〃	0.4	0.25	0.15	黒紺	
48	〃	〃	0.8	0.45	0.15	〃		112	〃	〃	0.45	0.31	0.15	〃	
49	〃	〃	0.8	0.55	0.1	〃		113	〃	〃	0.35	0.2	0.15	瑠璃	
50	〃	〃	0.75	0.55	0.15	〃		114	〃	〃	0.36	0.19	0.14	〃	
51	〃	〃	0.75	0.5	0.1	〃		115	〃	〃	0.36	0.19	0.13	〃	
52	〃	〃	0.95	0.45～0.55	0.2	〃		116	〃	〃	0.39	0.28	0.15	〃	
53	〃	〃	0.75	0.4	0.12	〃		117	〃	〃	0.38	0.21	0.14	〃	
54	〃	〃	0.75	0.65	0.1	〃		118	〃	〃	0.36	0.21	0.1	〃	
55	〃	〃	0.75	0.6	0.15	〃		119	〃	〃	0.34	0.13	0.12	〃	
56	〃	〃	0.8	0.6	0.11	〃		120	〃	〃	0.32	0.25	0.15	青	
57	〃	〃	0.7	0.6	0.1	〃		121	〃	〃	0.31	0.18	0.1	瑠璃	
58	〃	〃	0.8	0.58	0.14	〃		122	〃	〃	0.3	0.17	0.13	〃	
59	〃	〃	0.65	0.6	0.1	〃		123	〃	〃	0.35	0.25～0.3	0.17	〃	
60	〃	〃	0.65	0.5	0.1	青		124	〃	〃	0.39	0.31	0.1	青緑	
61	〃	〃	0.81	0.65	0.15	〃		125	〃	〃	0.4	0.21	0.14	〃	
62	〃	〃	0.6	0.4	0.1	〃		126	〃	〃	0.36	0.2	0.15	〃	
63	〃	〃	0.6	0.7	0.15	〃		127	〃	〃	0.34	0.17	0.09	〃	
64	〃	〃	0.75～0.91	0.62	0.2	瑠璃		128	〃	〃	0.42	0.26	0.18	瑠璃	

No.	種類	材質	径	高さ	孔径	色	実測図番号	No.	種類	材質	径	高さ	孔径	色	実測図番号
129	小玉	ガラス	0.39	0.29	0.16	瑠璃		152	小玉	ガラス	0.35	0.19	0.1～0.13	瑠璃	33
130	〃	〃	0.39	0.2	0.1	〃		153	〃	〃	0.38	0.19	0.12	〃	34
131	〃	〃	0.39	0.24	0.12	〃		154	〃		0.33	0.15	0.13	〃	35
132	〃	〃	0.38	0.3～0.36	0.14	〃		155	〃	〃	0.3	0.35	0.1	〃	36
133	〃	〃	0.37	0.42	0.11	〃		156	〃	〃	0.35	0.26	0.12	〃	37
134	〃	〃	0.36	0.24	0.12	〃		157	〃		0.33	0.18	0.1	青緑	38
135	〃	〃	0.33	0.26	0.12	〃		158	〃	〃	0.35	0.25	0.1	瑠璃	39
136	〃	〃	0.36	0.25	0.14	黒紺		159	〃	〃	0.32	0.24	0.1	うす緑	40
137	〃	〃	0.38	0.21	0.1	うす緑		160	〃	〃	0.35	0.24	0.13	黒紺	41
138	〃	〃	0.3	0.21	0.1	〃		161	〃	〃	0.33	0.19	0.12	うす緑	42
139	〃	〃	0.41	0.26	0.18	うす青		162	〃	〃	0.35	0.25	0.1	黒紺	43
140	〃	〃	0.35	0.26	0.11	〃		163	〃	〃	0.32	0.21	0.1	〃	44
141	〃	〃	0.35	0.26	0.1	〃		164	〃	〃	0.3	0.24	0.12	青緑	45
142	〃	〃	0.45	0.35	0.12	青	23	165	〃	〃	0.3	0.15	0.1	瑠璃	46
143	〃	〃	0.5	0.35	0.15	〃	24	166	〃	〃	0.3	0.19	0.1	〃	47
144	〃	〃	0.48	0.23	0.17	瑠璃	25	167	〃	〃	0.27	0.18	0.1	〃	48
145	〃	〃	0.5	0.33	0.15	〃	26	168	〃	〃	0.46	0.22	0.12	〃	
146	〃	〃	0.4～0.5	0.5	0.11	〃	27	169	〃	〃	0.4	0.3	0.12	青	
147	〃	〃	0.4～0.48	0.25	0.11	青緑	28	170	〃	〃	0.32	0.16	0.12	うす青	
148	〃	〃	0.4	0.2	0.15	瑠璃	29	171	〃	〃	0.3	0.18	0.11	〃	
149	〃	〃	0.41	0.23	0.1～0.18	青緑	30	172	〃	〃				瑠璃	½欠損
150	〃	〃	0.4	0.36	0.1	瑠璃	31	173	〃	〃				青	½欠損
151	〃	〃	0.35～0.4	0.18	0.14～0.2	〃	32								

4．小　　結

多久盆地の最東部，小城町に接する笠頭山の南麓に築造された小城炭坑跡古墳は，昭和42年に橘柑園造成のため完全に破壊されたと考えられていた。しかし，調査の結果，多久市内の古墳では初めて鉄地金銅張りの杏葉や鋲留金具の馬具類や装身具などの副葬品がおびただしく出土した。遺物の中には土師器・須恵器の土器も含まれ，古墳築造の時期もある程度限定された。土師器杯は6世紀後半に編年され，須恵器杯・蓋は7世紀前半に編年される。追葬の有無が確認できない状態であるため，正確ではないが，7世紀前半を小城炭坑跡古墳の築造時期と想定せざるをえない。小城炭坑跡古墳の周辺に立地する古墳は西300mに山の上古墳群，南西500mに古賀山1号古墳，北東600mに一本松古墳群がある。小城炭坑跡古墳とこれらの古墳を石室の構造や規模で対比することはできないが，出土した遺物の中に小城炭坑跡古墳の出土遺物と類似するものがある。一本松古墳群(註②)の第1号墳からは鉄地金銅張の杏葉や鏡板・雲珠・鋲止金具などが出土，須恵器も7世紀前半に編年される。山の上古墳群のほとんどの古墳はほぼ南に開口し，古賀山1号古墳も南東に開口するなかで，小城炭坑跡古墳は東向きに開口する。石室の石積や出土する遺物も一本松古墳第1号墳に共通し，小城炭坑跡古墳が一本松古墳群と近い関係にあったことが考えられる。

小城炭坑跡古墳は多久盆地の東部に立地する数多くの古墳の中で特異な存在であり，これまで調査された周辺地域の古墳と出土遺物や古墳の規模，構造を対比する必要があり，今後の調査も注目される。

(註②)　「一本松古墳群」　小城町教育委員会　1970

出口（で　ぐち）　A　遺　跡

遺　跡　名：出口A遺跡（略号ＤＧＡ）
遺跡所在地：多久市東多久町大字別府字出口

出　口　A　遺　跡

1．遺跡の概要 (Fig.25, PL.15-1)

出口A遺跡は天山山系の南に延びた高取山（標高160m）南の山裾に広がる小丘陵の先端，標高 25 m前後の水田に位置する。周辺の丘陵地には旧石器時代～古墳時代の遺跡が分布，その主なものは宝蔵寺遺跡，宝蔵寺溜池遺跡，宝蔵寺古墳群，鴻ノ巣遺跡，西出口遺跡，出口B遺跡などがある。宝蔵寺遺跡は出口A遺跡の北 150 mにある八幡社裏の舌状台地で,これまで縄文時代晩期の網痕土器や石斧・石鏃などが出土している。宝蔵寺溜池遺跡（北西 300 m）ではナイフ形石器・細石核などの旧石器や古墳時代の須恵器・土師器の破片が多量に散布している。宝蔵寺古墳群（北 350 m）は果樹園造成ですでに消滅しているが，造成前には 3～5 基の古墳が存在していたといわれ，須恵器杯などが出土している。鴻ノ巣遺跡（西 400 m）は昭和 58 年の発掘調査で弥生時代後期の住居跡 7 棟と溝状遺構，小穴群，古墳 3 基を検出した。出口A遺跡は九州横断自動車道建設用地にも一部かかるが，昭和 57 年度の調査では，遺構の大部分は東多久バイパス建設用地に集中した。

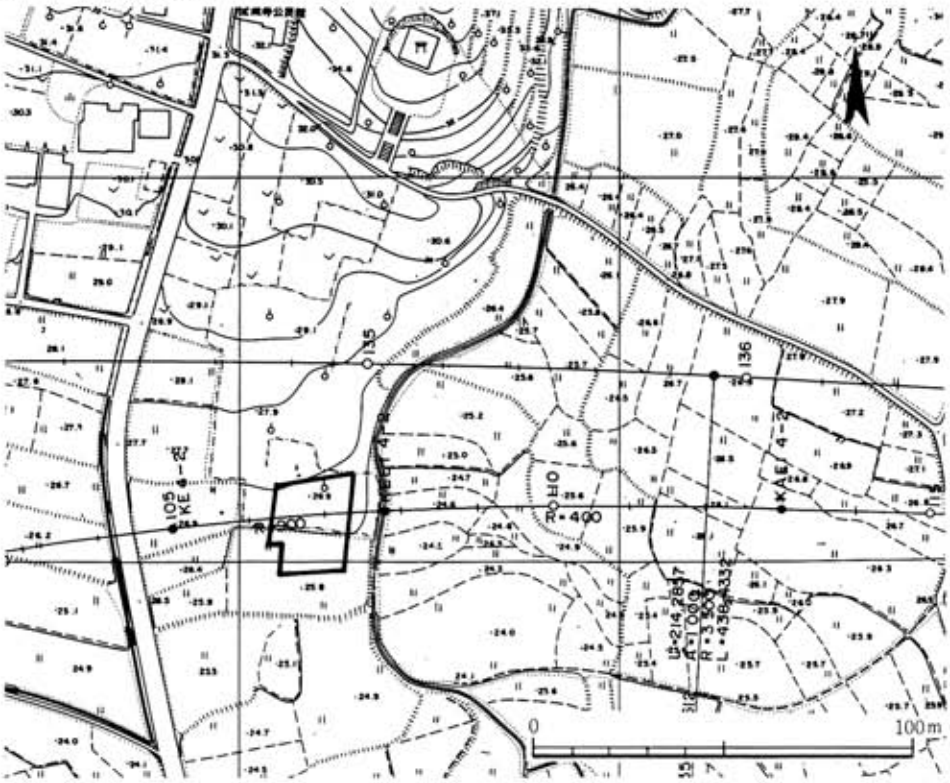


Fig. 25　出口A遺跡周辺地形図

2．遺　　構 (Fig.26)

出口A遺跡での遺構の分布範囲は狭く，不規則的なものが多い。特に注目される遺構は検出できなかったが，調査区南隅で弥生時代の甕棺墓1基と北側で須恵器や土師器が出土する土壙が検出された。遺跡中央部に性格不明の土壙や小穴が集中した。土壙や小穴から弥生時代～平安時代の各時期の遺物が断片的に出土する程度で，その性格を明らかにすることはできなかった。

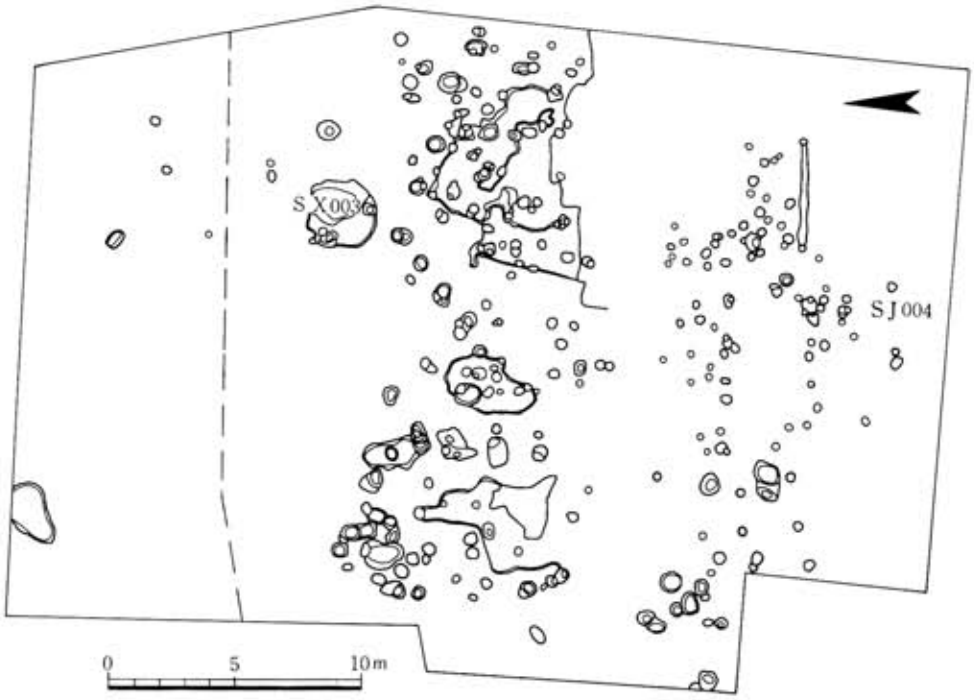


Fig. 26　出口A遺跡遺構配置図

SJ004甕棺墓 (Fig.27, PL.16-1)

耕作によって削平された胴部から底部の一部を残す小児用甕棺墓で合口式甕棺か，単棺かは判断できない。胴部に径4cmの穿孔がある。甕は小さく割れ，復元は不可能である。主軸をN－58°－E方向にとる。

SX003土器溜 (Fig.28, PL.15-2)

調査区北側にある長軸2.75m，短軸2.6mの浅い不定形土壙を切って掘られた不定形の土壙である。長軸2.4m，短軸1.65m，深さ0.48mを測る。上面の土壙には小

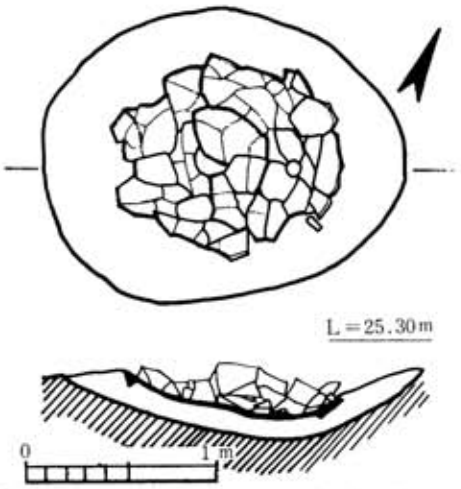


Fig. 27　出口A遺跡SJ 004 甕棺墓実測図

穴が5個あり，小穴の埋土には磨耗した土師器小破片が含まれていたが土壙との関係は不明である。上面の土壙からは遺物は出土しないが，下面の土壙は須恵器杯・蓋・甕・土師器杯などが混入した土器溜である。

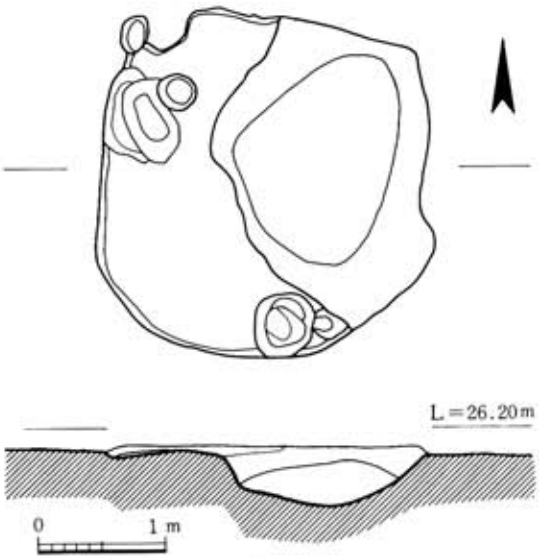


Fig. 28　出口A遺跡SX 003 土器溜実測図

3．遺　　物

須恵器 (Fig.29, PL.16-2～7)

杯　体部の立ち上りがやや急で，口縁部がたつ。底部はヘラ切り離しのあとナデ調整，内面ナデ調整，外面ヨコナデ調整。1は復元口径 13.0 cm，器高 5.35 cm。2は復元口径 13.2 cm，器高 4.5 cmを測る。

蓋　3点とも天井部中央に径 2.6～3.2 cmの平らなつまみを持つ。天井部は平坦でやや屈折して口縁部に続き，ふくらみを持つ。口縁部は「嘴」状となる。口径 13.8～14.3 cm，器高 1.7～2.3 cmとなる。

壺　肩部の稜から上を欠く長頸壺で高台がつく。底部はヘラケズリ調整，体部外面下部はヘラケズリの後にナデ調整。他は内外面ともヨコナデ調整。高台径 10.6～10.9cmを測る。

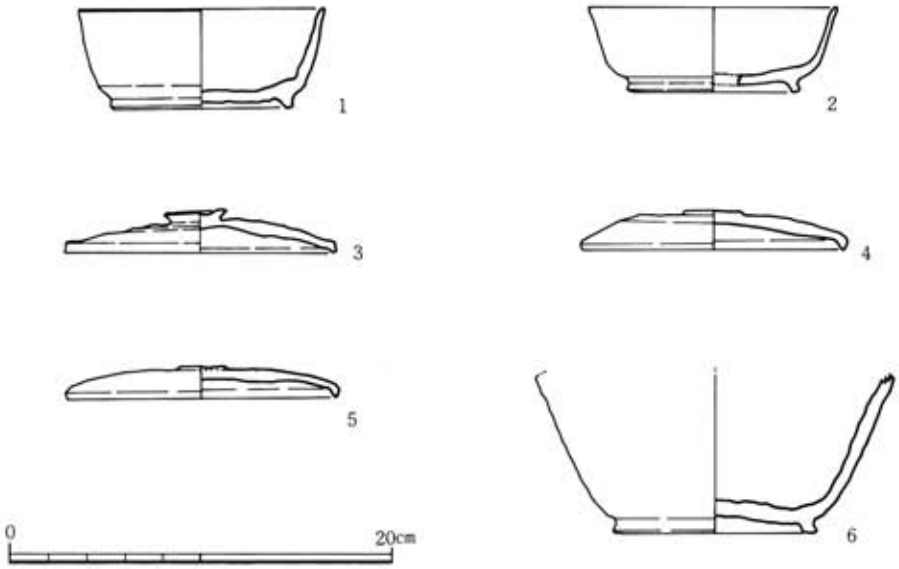


Fig. 29　出口A遺跡出土須恵器実測図

4．小　　結

出口A遺跡周辺には旧石器時代～古墳時代にかけて多くの遺跡が立地する。出口A遺跡では弥生時代～古墳時代の住居跡が予想されたが，検出した遺構は弥生時代の甕棺墓1基と性格不明の小穴群，8世紀初頭の須恵器杯・蓋・甕・土師器杯の破片が出土した土器溜と同時期の小穴群である。出口A遺跡周辺では，これまで低地の水田部では遺構は確認されていなかったが，今回の調査や出口B遺跡，西出口遺跡の調査で遺構の存在が確認された。同時に調査した北側の九州横断自動車道建設用地では弥生時代中期の土器溜を検出しただけであったが，東多久バイパス建設用地南側は工場団地造成の計画もあり，遺跡の広がりが予想されることから，今後の調査で出口A遺跡の性格も明らかになると考えられる。

鴻（こう）ノ巣（す）遺跡

遺　跡　名：鴻ノ巣遺跡（略号ＫＵＳ）
遺跡所在地：多久市北多久町大字多久原字鴻ノ巣
　　東多久町大字別府字野入

鴻 ノ 巣 遺 跡

1．遺跡の概要 (Fig.30, PL.17)

鴻ノ巣遺跡は天山山系の南，仏坊山（435 m）から南に派生する飯盛山の最南端に帯状に延びた標高 41 mの小高い丘陵，通称「隈山（くまやま）」の中央部に位置する。丘陵の西には昭和 55 年度の調査で古式土師器を伴う住居跡 3 棟を検出した今出川Ａ遺跡や昭和 56 年度の調査で多量の須恵器・土師器が出土した今出川Ｂ遺跡，大工田古墳群の 3 基の古墳，弥生時代後期の甕棺墓などを検出した原田遺跡，未調査であるが縄文時代中期の土器片や石鏃・石錐が採集された大工田遺跡など，低地に遺跡が集中している。丘陵東には宝蔵寺溜池遺跡，出口Ａ遺跡，宝蔵寺遺跡，宝蔵寺古墳群などの旧石器時代～奈良時代の各時期の遺跡が分布し，丘陵の基部にあたる北側の台地には相ノ浦古墳群も存在している。

鴻ノ巣遺跡は早くから古墳の存在が知られ，この丘陵で東多久バイパスと九州横断自動車道が交差することから，文化財の調査も同時に実施し，その結果，九州横断自動車道建設用地では 3 基の古墳を発掘した。この 3 基の古墳については横断道関係の調査報告書に収録する予定があるので詳細については省略するが，ここで概略を紹介する。ＳＴ 001 古墳は石室の石材すべてが取り除かれ，敷石の一部と掘り込みを確認するに終わったが，その痕跡から西に開口する横穴式石室と判断，敷石上面で勾玉・切子玉・ガラス玉の装身具が出土，周溝から県内でも古い形態の須恵器杯・杯蓋が出土している。

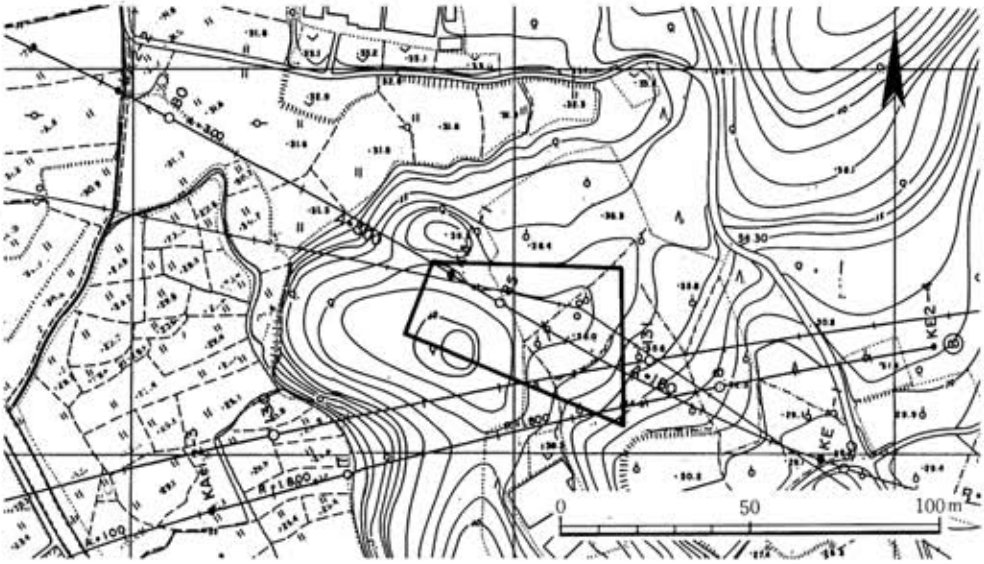


Fig. 30　鴻ノ巣遺跡周辺地形図

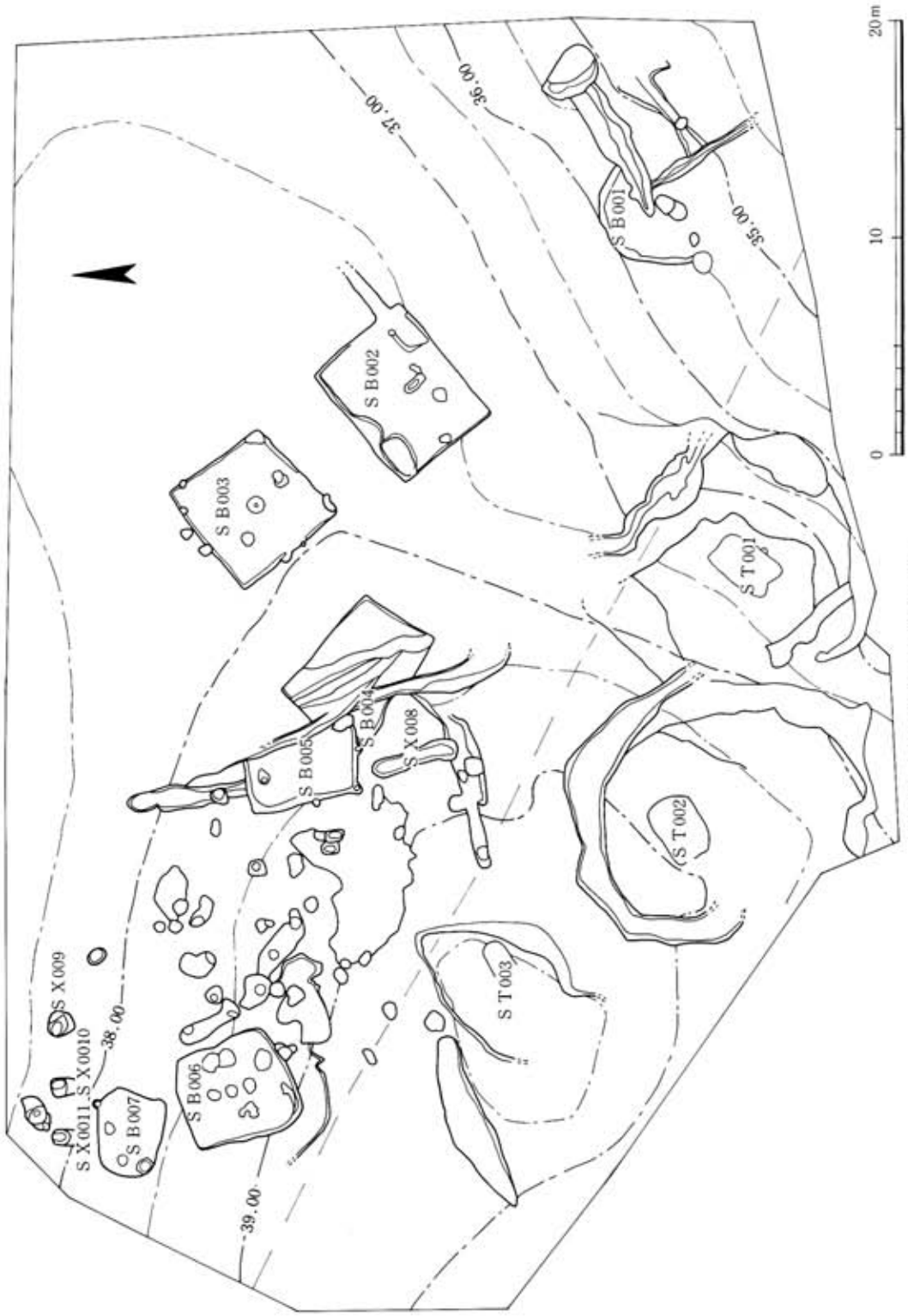


Fig. 31　鴻ノ巣遺跡遺構配置図

ＳＴ 002 古墳は墳丘直径 8.5 m，高さ1.5 mを残す円墳で，西に開口する横穴式石室を持ち，石室の法量は長さ 2.4 m，幅 1.5 m，羨道部は長さ 1.2 m，幅 0.8 mを測る。石室内で管玉・ガラス小玉が出土，石室前面，周溝で須恵器杯・杯蓋・甕などの破片が多量に出土した。

ＳＴ 003 古墳は墳丘は失われ，石塚状になっていたが，上面の石を除くと西に開口する石室の長さ 1.5 m，幅 0.7 mの細長い特殊な形状の横穴式石室となる。遺物は玄室で勾玉・管玉・ガラス小玉が出土した。この３基の古墳の墳丘や石室の周辺から弥生時代後期の土器片が多量に出土し，古墳の築造時に数棟の住居跡が消滅したようである。東多久バイパス用地では弥生時代住居跡７棟と溝状遺構，小穴群などを検出した。

２．遺　　構

鴻ノ巣遺跡での遺構は隈山の中央部（標高 41 m）から南東に延びる緩傾斜面にかけて立地する。九州横断自動車道に係る３基の古墳を除く遺構は弥生時代後期前半の住居跡７棟と溝状遺構，性格不明の小穴群で，それぞれの遺構から多量の土器片が出土したが，遺跡の土質が乾燥した風化土壌であるため，土器の磨耗が著しく，大部分は復原困難であった。

ＳＢ001住居跡 (Fig.32, PL.18-1)

遺構群の最南東，標高 36 mの傾斜面にある平面が楕円形の住居跡で，大部分が削平され，遺存する壁から住居跡の規模は長径 4.3 m＋α，短径 4.7 mを測り，壁高は北壁で 0.55 mを残す。壁下に幅 0.05～0.15 m，深さ 0.02～0.07 mの周溝が廻る。住居跡中央部の直径 0.8 m，深さ 0.25 mの円形土壙に炭化木片と焼土が残り炉跡であろう。

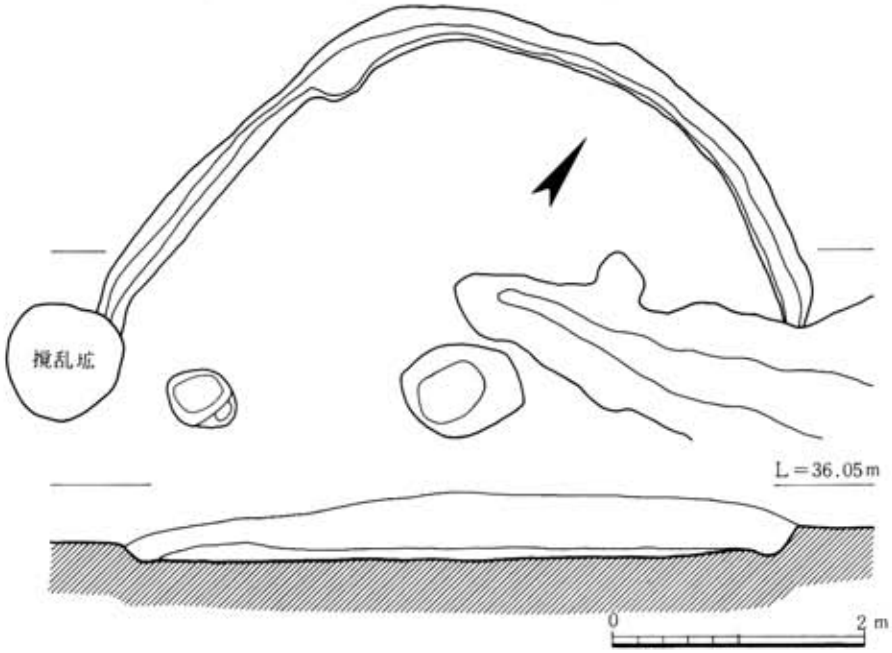


Fig. 32　鴻ノ巣遺跡ＳＢ 001 住居跡実測図

ＳＢ002住居跡 (Fig.33, PL.18–2)

標高 38 mのほぼ平坦地にある平面が方形の住居跡で，鴻ノ巣遺跡ではもっとも遺存が良い住居跡である。規模は長軸 6.65 m，短軸 5.3 mを測り，壁高は北西壁 0.45 m，南東壁 0.25 mを残す。北西壁下と北東壁下の一部に幅 0.08～0.15 m，深さ 0.1 mの周溝が廻る。西，北，東隅に床面から 0.05～0.13 mの高さのベッド状遺構がある。中央部から南 1.5 mにある直径 0.8 m，深さ 0.27 mの土壙は内壁に焼土が残り，埋土も黒色灰土が混入することから炉跡であろう。壁面に 3 個と住居跡内に直径 0.3 m前後の小穴 4 個があるが，柱穴になるのかは不明である。

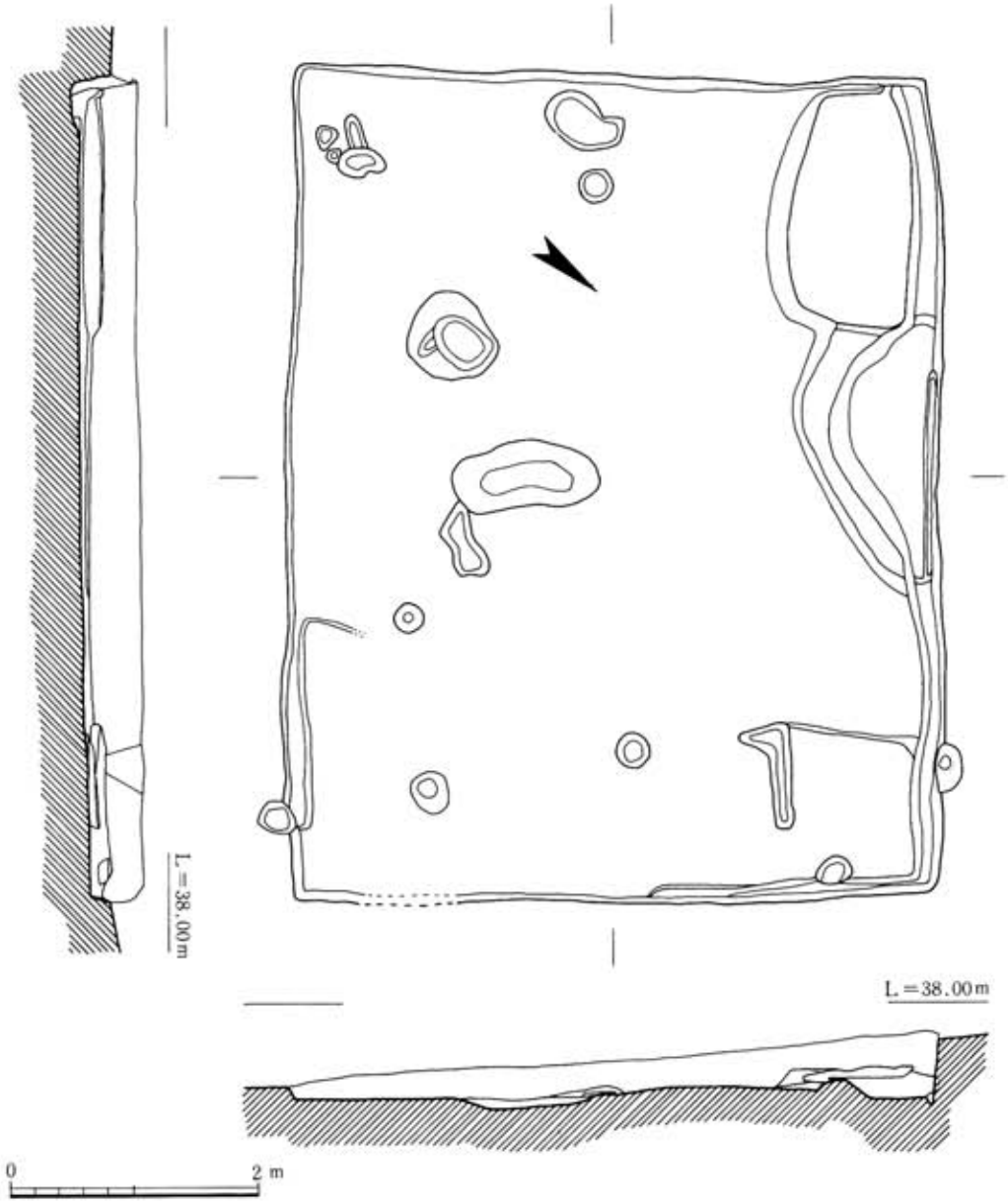


Fig. 33　鴻ノ巣遺跡ＳＢ 002 住居跡実測図

ＳＢ003住居跡 (Fig.34, PL.19-1)

ＳＢ 002 住居跡の北東 3.5 mのほぼ平坦面にＳＢ 002 住居跡と並行する平面形状が正方形の住居跡で，全体が削平され，遺存する壁高は 0.09～0.16 mと悪い。住居跡の規模は一辺が 5.6 mを測る。東壁の一部を除き，壁下に幅 0.1 m，幅 0.05 m前後の周溝を廻らす。住居跡中央部にある直径 0.8 m，深さ 0.17 mの土壙やその周辺には焼土が残り炉跡であろう。住居跡内の 14 個の小穴と住居跡の関係は不明である。壁面にある 9 個の小穴はすべて住居跡に関係あるものとみられ，南壁面にも 3 個の小穴があったことが予想される。床面で数個体分の土器片が出土した。

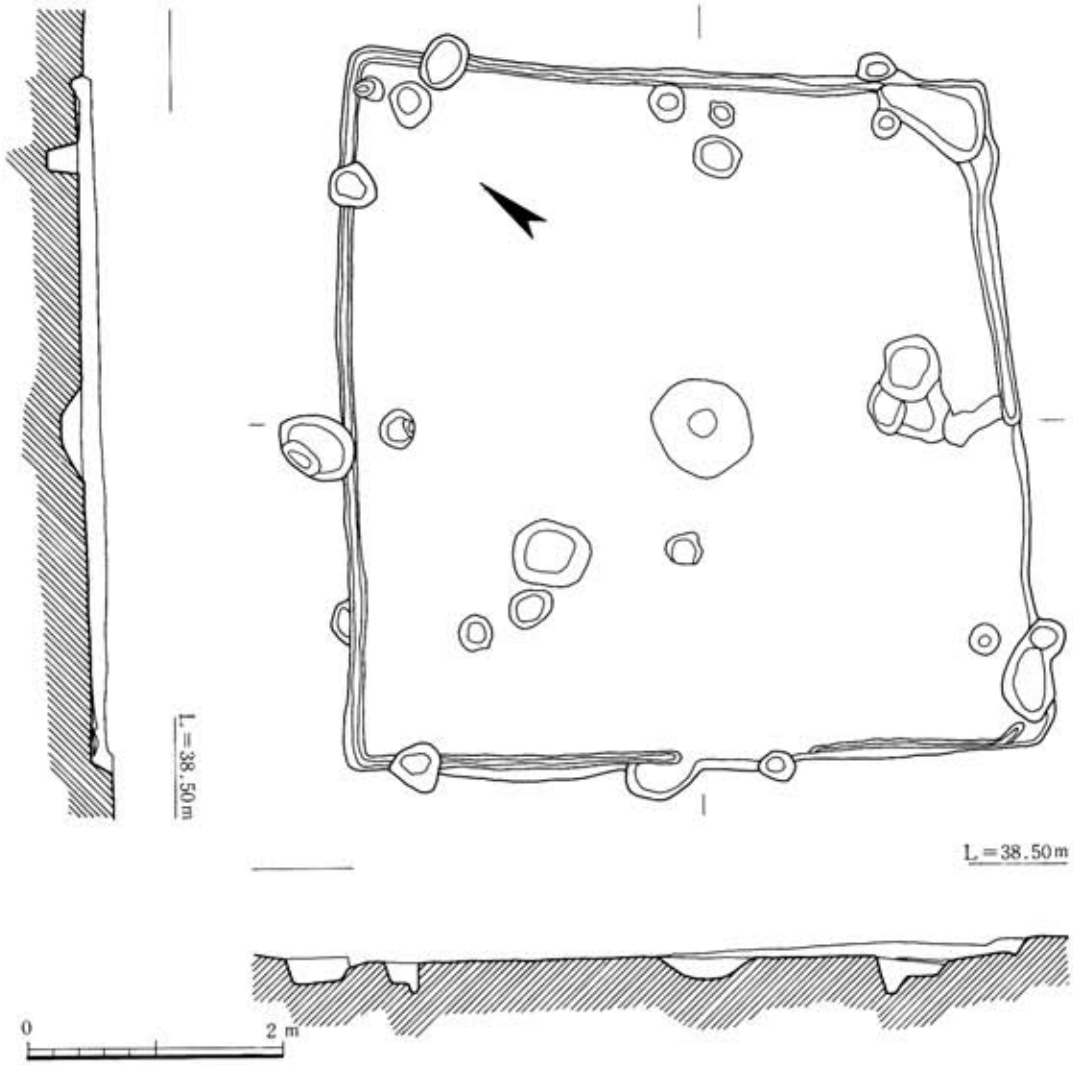


Fig 34　鴻ノ巣遺跡ＳＢ 003 住居跡実測図

ＳＢ004住居跡 (Fig.35, PL20-1)

ＳＢ002住居跡の西13ｍ，標高38.5ｍにあるＳＢ005住居跡と畑地境の溝に切られた北西隅の壁の一部を残す平面形状が方形，または隅丸方形の住居跡で，壁高0.3ｍしか残っていない。土壙や柱穴は検出できなかった。

ＳＢ005住居跡 (Fig.35, PL.20-1)

ＳＢ003住居跡の北17ｍ，標高39ｍにある平面形状が方形の住居跡で，東部分は畑地境の溝と果樹園に削平され，西壁5.15ｍ，残存する南壁，北壁はそれぞれ3.1ｍ，2.4ｍを測る。壁高は遺存の良い西壁中央部で0.32ｍを測る。壁下に0.05～0.25ｍの周溝を廻らせている。住居跡内にある3個の小穴と住居跡との関係は不明である。西壁中央部と南西隅，東壁中央部にある3個の小穴はＳＢ003住居跡壁面の小穴と同じく住居跡に関係がある小穴であろう。住居跡中央部の南北方向に長さ2.3ｍ，幅0.3～0.8ｍ，厚さ0.15ｍで焼土が残り，西壁中央部～北側に集中する炭化木片の検出から，ＳＢ005住居跡は火災住居跡である。住居跡床面で器台や甕の破片が出土した。

ＳＢ006住居跡 (Fig.36, PL.20-2)

ＳＢ005住居跡の西10ｍ，標高39ｍの隈山陵線上にある平面形状が隅丸方形の住居跡で，住居跡の規模は長軸5.3ｍ，短軸4.7ｍを測る。壁高は遺存の良い南壁で0.5ｍ，遺存の悪い北壁で0.03mを残す。住居跡中央部に直径0.6m，深さ0.1ｍの炉跡があり，黒色灰土から鉄器が出土した。炉跡を挟んで直径0.6ｍの土壙が南北に並ぶ。南西隅と中央部西側，東壁中央部，南東隅に不定形の土壙があり，土壙周辺に土器片が集中することから貯蔵穴とみられる。柱穴は確認できなかった。東壁中央部に安山岩の剝片が3～5片，重なって出土している。

ＳＢ007住居跡 (Fig.37, PL21-1)

ＳＢ006住居跡の北7ｍ，標高38ｍの北緩斜面にある平面形状が隅丸方形の住居跡で，鴻ノ巣遺跡の住居跡のうちもっとも小さく，長軸3.3ｍ，短軸3.0ｍを測る。壁高は南壁0.2ｍ，北壁0.04ｍと削平され遺存は悪い。南西隅に0.6×0.8m，深さ0.5mの土壙があり貯蔵穴とみられる。住居跡内には直径0.15～0.6ｍの小穴が13個あるが，柱穴と断定できるものは不明である。

ＳＸ008土器溜 (Fig.38-1 PL.21-2)

ＳＸ008土器溜はＳＢ005住居跡の南1ｍにあり，主軸を南北方向にとる溝状の遺構で長さ4.05ｍ，幅0.75～1.05ｍ，深さ0.4ｍを測る。ＳＢ005住居跡の遺構確認前は北に11.6ｍ延びていたが，礫が混入する浅い溝で，ＳＢ005住居跡遺構確認面で消滅し，ＳＢ005住居跡の北壁から北に5.65ｍ，深さ0.03～0.13ｍで残るが，土器溜との関係はわからない。ＳＸ008土器溜は断面がＵ字状で，遺構内には人頭大の礫とともに弥生時代後期の甕・台付甕・壺・鉢などが混入していたが投げ捨てられた状態ではなかった。

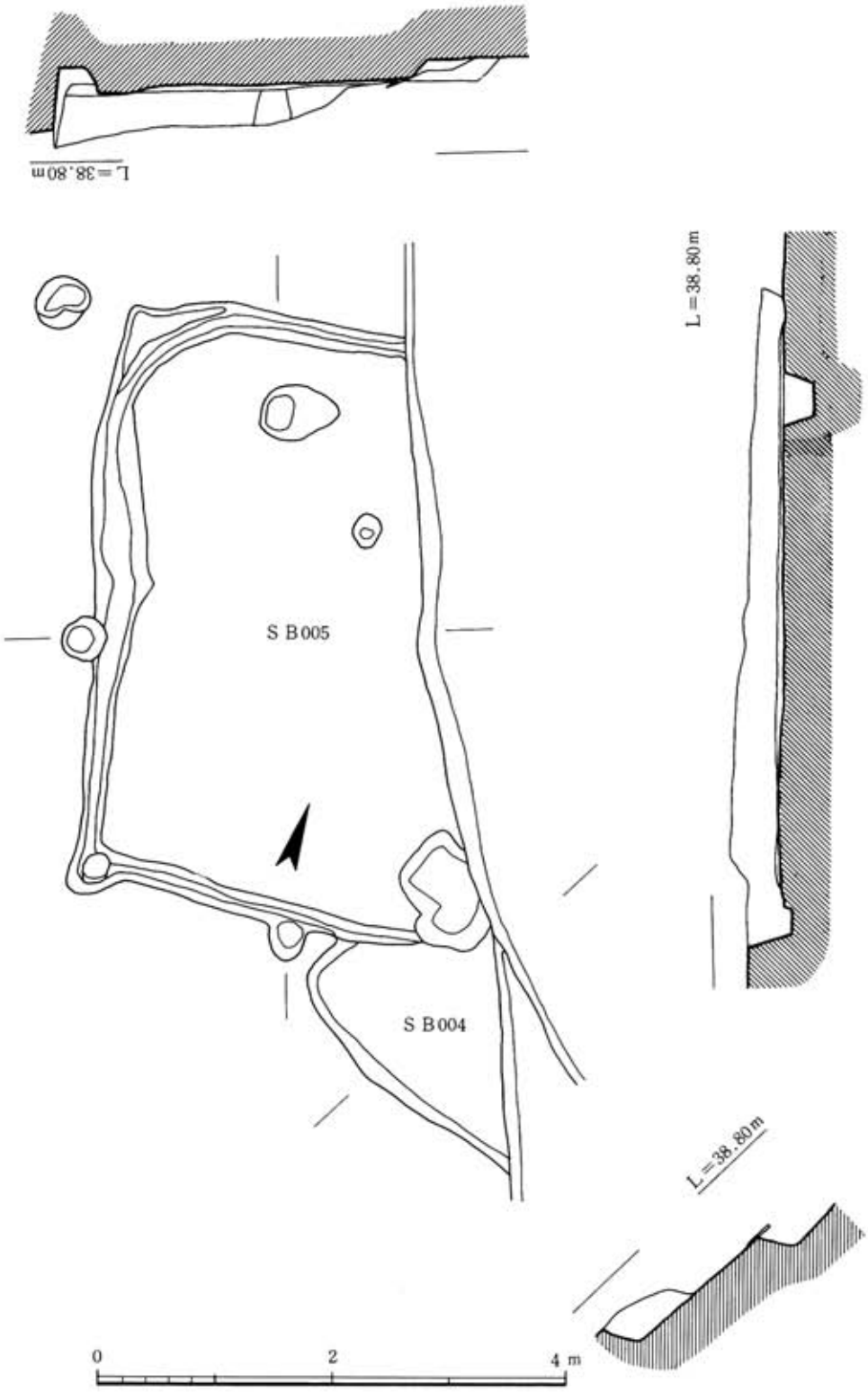


Fig. 35　鴻ノ巣遺跡S B 004・005住居跡実測図

ＳＫ009土壙 (Fig.38-2)

ＳＢ007住居跡の北，標高38ｍ前後の北傾斜面に，ほぼ同一規模の土壙が東西軸に3個並ぶ。東側のＳＫ009土壙は遺構確認面の不定形土壙の中に長形1.03ｍ，短径0.76ｍ，深さ0.5ｍの不定形土壙が掘られ，住居跡出土の土器と同時期の土器片が出土した。

ＳＫ010土壙 (Fig.38-3)

ＳＫ009土壙の西3ｍにある長辺1.26ｍ，短辺0.85ｍの不定形土壙を切った長辺0.85ｍ，短辺0.68ｍ，深さ0.94ｍの方形の土壙。

ＳＫ011土壙 (Fig.38-4)

ＳＫ010土壙の西2.5ｍにある長径1.4ｍ，短径0.72ｍの楕円形土壙を切った長径0.82ｍ，短径0.72ｍ，深さ1.0ｍの楕円形の土壙。3個とも貯蔵穴であろう。

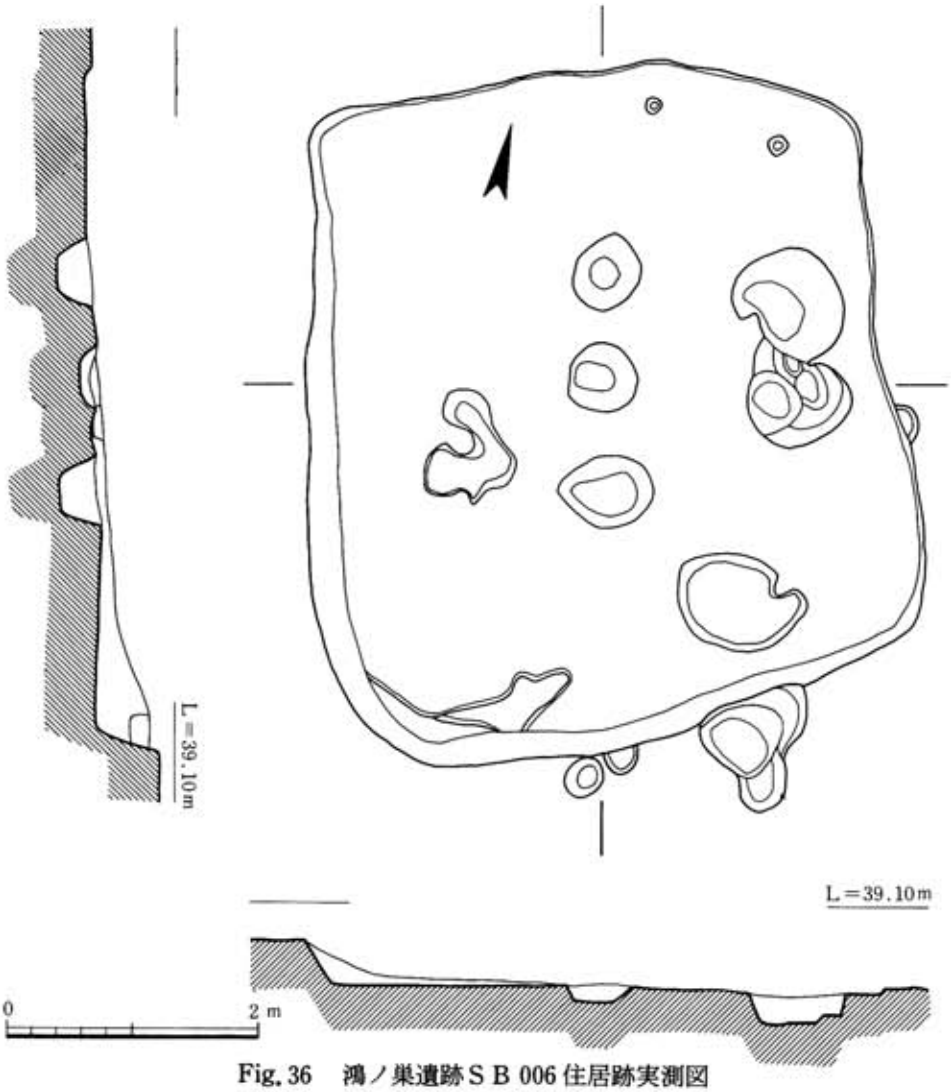


Fig. 36　鴻ノ巣遺跡ＳＢ006住居跡実測図

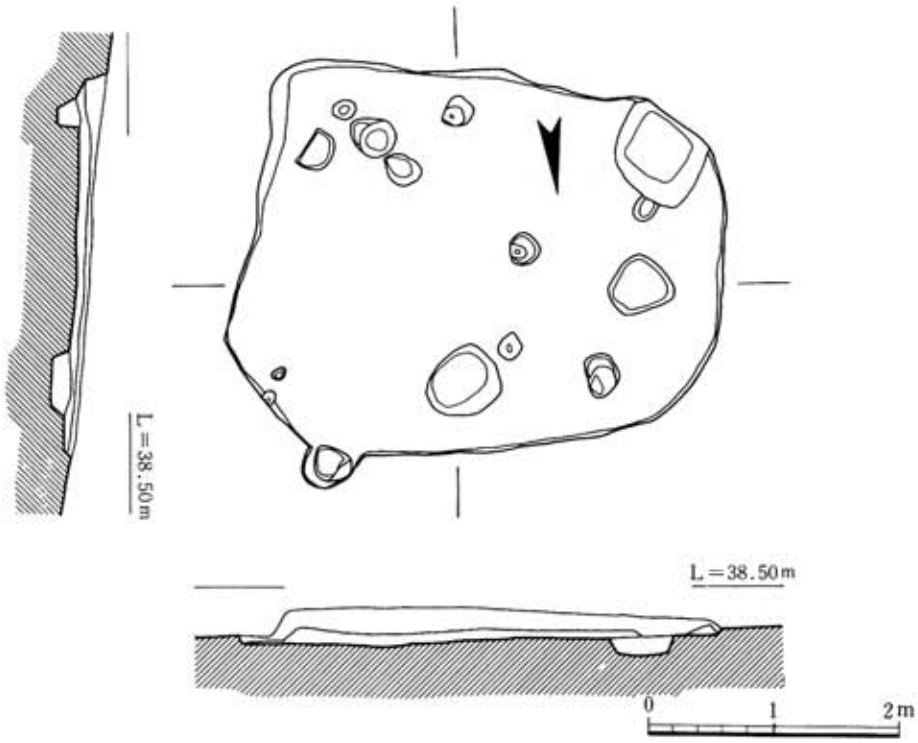


Fig. 37　鴻ノ巣遺跡ＳＢ007住居跡実測図

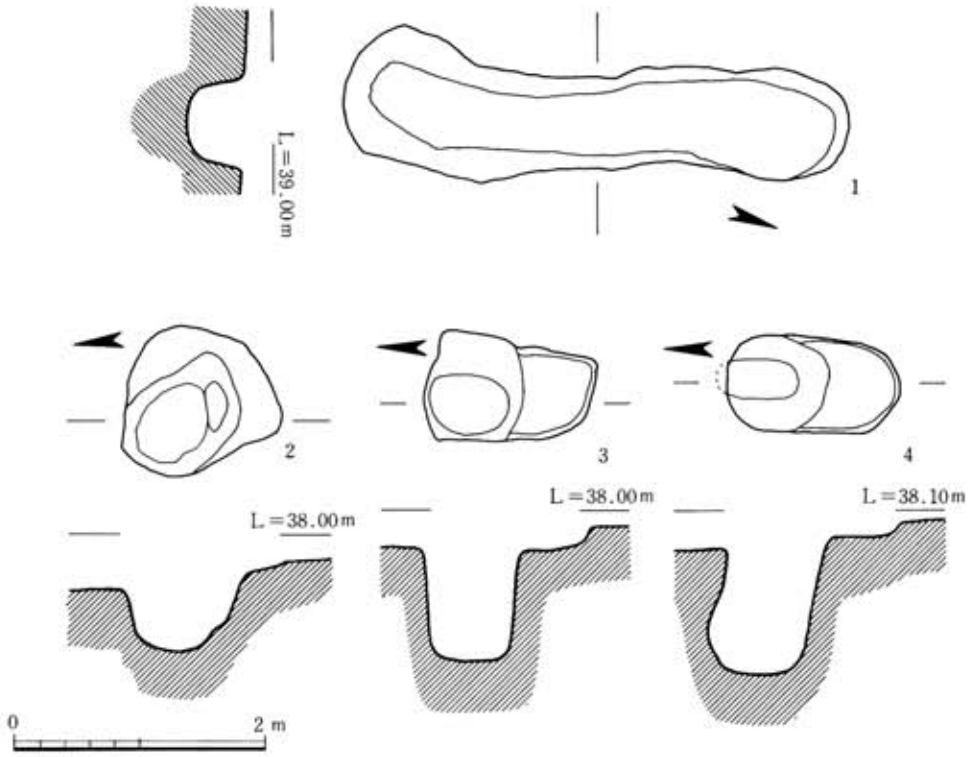


Fig. 38　鴻ノ巣遺跡土壙実測図　1. ＳＸ008土器溜　2. ＳＫ009土壙　3. ＳＫ010土壙　4. ＳＫ011土壙

3．遺　　物

土器 (Fig.40, PL.22,23-1・2)

ＳＢ 001 住居跡～ＳＢ 007 住居跡ではＳＢ 004 住居跡を除く 6 棟で土器片が出土。ＳＸ 008 土器溜でも多量の土器片が出土したが，埋土は乾燥度の強い風化土壌のため，土器はもろく，大部分は小破片で出土し，復元できるものは僅かであった。器種は甕・鉢・高杯・器台・支脚・手捏土器などがある。

甕　1 はＳＸ 008 土器溜から出土した台付甕で口径 15.2 cm，底径 7.3 cm，器高 17.9 cmを測る。口縁部は短かく，やや上向く「く」字形である。外面は磨耗し調整は不明であるが，内面は指押えの痕が残り，ナデ調整。12 はＳＢ 006 住居跡出土で復元底径約 9.6 cm，13 はＳＢ 007 住居跡出土で底径 10.3 cmとやや大形だが 1 と同器種である。2 はＳＢ 002 住居跡出土の甕で残存高 14.5 cm，底径 5.8 cm，口縁部は欠損しているが「く」字形に外反する。器面が剝落して調整は不明である。3～11 は甕の口縁部で「く」字形に外反する。9 は口頸部に一条の突帯を有する。11 は厚味のある大形の甕で甕棺の一部であろう。3・4 はＳＢ 006 住居跡，5 はＳＢ 005 住居跡，6・11 はＳＢ 003 住居跡，7 はＳＢ 007 住居跡，8・10 はＳＢ 002 住居跡，9 はＳＢ 001 住居跡から出土している。14・15は甕の底部で 14 は縦のハケメが残り，ＳＢ 005 住居跡，15 はＳＢ 007 住居跡から出土した。

鉢　16 はＳＸ 008 土器溜から出土した小形の鉢で口径 13.4 cm，器高 6.9 cm，底径 5.4 cmを測る。体部はゆるやかに広がり，口縁部はほぼ直立する。

高杯　17 はＳＢ 001 住居跡から出土した高杯で裾部はラッパ状に広がる。脚部内面にしぼりのあとがみられる。復元底径 16.0 cmを測る。

器台　18 はＳＢ 005 住居跡から出土した器台で口径 15.2 cm，底径 15.3 cmとほぼ同じ径を持つ。上部のくびれ部から裾部にかけてラッパ状に広がる。内外面とも器面が剝落し調整は不明である。胎土中に石粒，砂粒が多く含まれる。

支脚　19 はＳＢ 001 住居跡から出土した支脚の破片で口径 7.25 cm，底径 10.0 cm，器高 9.2 cmを測る。底部に幅 0.3～0.4 cm，深さ 0.1 cmのヘラ描きの線が放射状に 4 本残っている。

手捏土器　20はＳＢ 003 住居跡床面で出土した手捏土器で残存高 4.0 cm，胴部最大径 3.6 cmを測る。器面は剝落し調整は不明である。

石器 (Fig.39-1～5, PL.23-3～7)

鴻ノ巣遺跡での石器はＳＢ 002 住居跡で出土した石庖丁とＳＢ 006 住居跡の砥石の僅か 2 点である。ＳＢ 006 住居跡の東壁際に扁平な安山岩の石片が重ねられた状態で 4 組 12 点が出土し，うち 3 点を図示した。

石庖丁　ＳＢ002住居跡出土の石庖丁の破片で，背はほぼ直線，刃は湾曲して半月形に近い。孔は両側穿孔で径0.7cmの円孔 1 個が残る。厚さ0.53cm，石材は安山岩で表面は風化。

砥石　ＳＢ 006 住居跡出土の砂岩製の砥石で，縦に約三分の二で割れ，中央部で横に折れている。側面はやや中央部がふくらむ方柱状をし，角は一部，面を取っている。

安山岩石片　ＳＢ 006 住居跡の東壁際に 4 個，6 個，1 個，1 個の計 12 点が出土，4 個と 6 個は重ねられた状態で出土した。この種の石材は市内の弥生時代の遺跡では石庖丁や紡錘車に用いられ，ＳＢ 002 住居跡出土の石庖丁も同種の石材であることから，石庖丁を作る目的で集めていたものであろう。

鉄器　(Fig.39-6・7, PL.23-8)

ＳＢ 002 住居跡の埋土中とＳＢ 006 住居跡の炉跡から鉄斧が出土した。

鉄斧　6 はＳＢ 002 住居跡出土の鉄斧で長さ 6.5 cm，幅は袋部 2.2 cm，刃部 2.6 cm，厚さは袋部 1.5 cm，刃部 0.7 cmを測る。7 はＳＢ 006 住居跡出土の鉄斧で長さ 7.4 cm，幅は袋部 2.2 cm，刃部 1.5 cm，厚さは袋部 1.4 cm，刃部 0.7 cmを測る。刃部の幅が狭く，鉄鑿ともみられる。

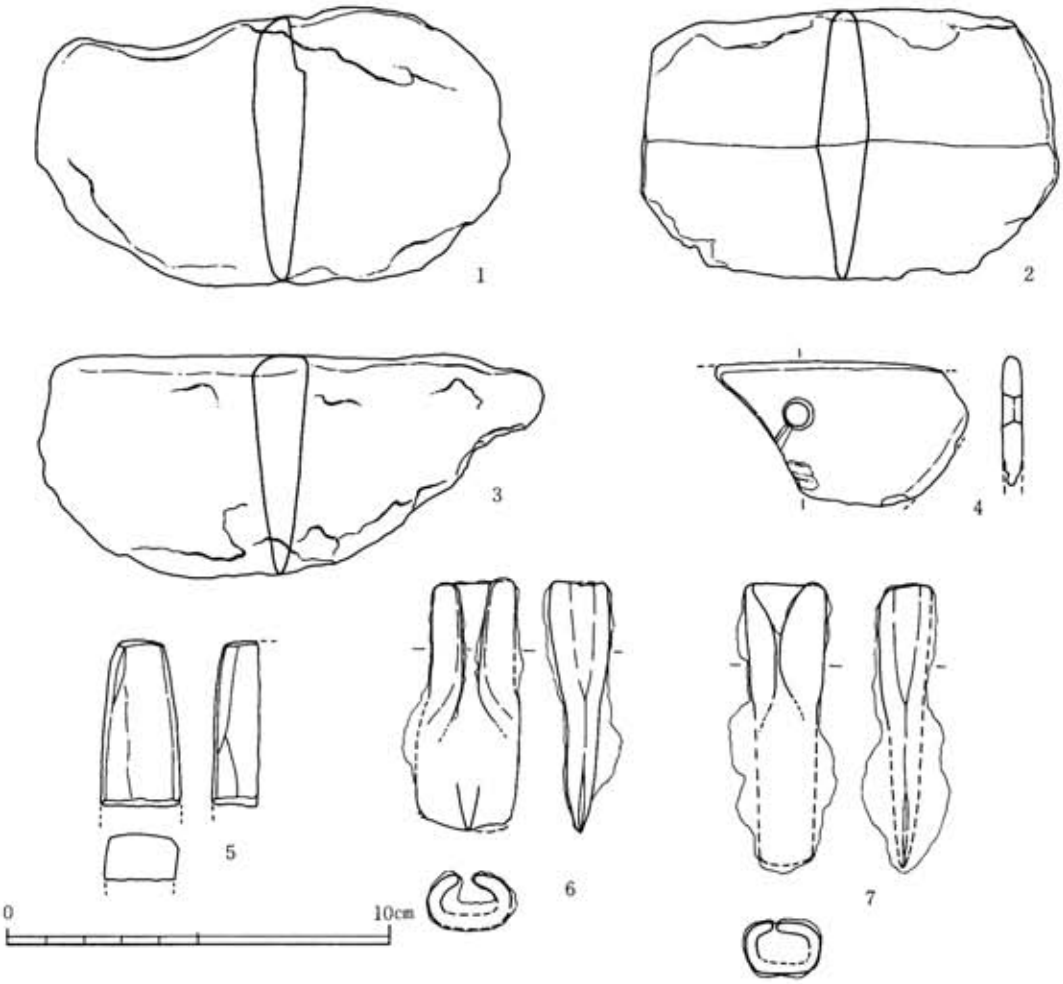


Fig. 39　鴻ノ巣遺跡出土石器・鉄器実測図

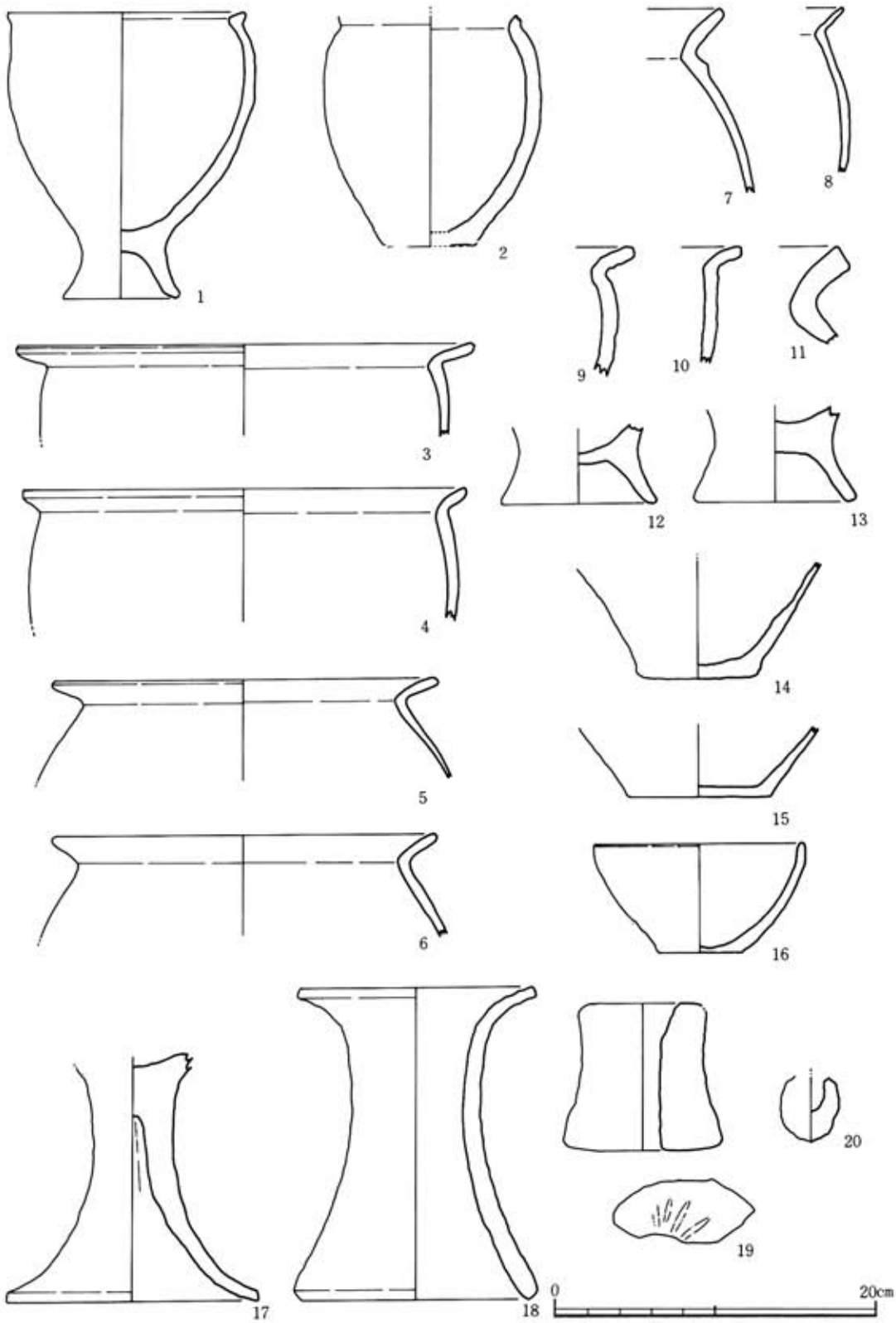


Fig. 40　鴻ノ巣遺跡出土弥生土器実測図

4．小　　結

多久市内における弥生時代の遺跡は牟田辺遺跡に代表されるように中期の須玖式土器を伴なう遺跡がほとんどで，断片的に後期の土器片が採集される程度であった。昭和56年度の九州横断自動車道に係る発掘調査で鴻ノ巣遺跡の西300mの原田遺跡から後期の甕棺墓2基を検出したのが，遺構として最初のものであった。昭和57年度の撰分遺跡でも後期の甕棺墓を発掘したが甕棺墓以外の遺構は検出できなかった。

鴻ノ巣遺跡では弥生時代後期の住居跡7棟と溝状の土器溜，貯蔵穴，小穴群を検出，多久市内で甕棺墓以外の遺構の実態が明らかとなった。住居跡は平面形状が方形のもの3(4)，隅丸方形?（3），楕円形1となっていた。方形の住居跡のうちＳＢ002住居跡はベッド状遺構を持つ。ＳＢ001住居跡，ＳＢ005住居跡は床面に炭化した木片と焼土が残り，火災を受けた住居跡であろう。遺物で注目されるのはＳＢ002住居跡とＳＢ006住居跡で出土した鉄斧である。弥生時代後期になると石庖丁などの石器類は顕著に減少し，鉄斧などの鉄製品が増加する。鴻ノ巣遺跡での鉄斧の出土はその一例であり，石器が石庖丁と砥石の2点だけ出土したこともそれを立証する。ＳＢ006住居跡内で安山岩石片が積み重ねられた状態で出土したことも注目される。出土した土器は後期中葉の一時期に限定される。

東多久バイパス建設用地の調査と並行して実施した九州横断自動車道建設用地の調査では，3基の古墳を発掘したが，墳丘や周溝などから多量の土器片が出土，古墳築造の際，墓壙によって数棟の住居跡が破壊されたようである。調査区内では7棟のほかに住居跡は検出されず，鴻ノ巣遺跡は古墳築造時に破壊された数棟を加えた規模の集落と考えられる。

鴻ノ巣遺跡での住居跡の検出は牟田辺遺跡以後の多久盆地の歴史を埋める上で重要な資料を提供した。

図 版

山 の 上 古 墳 群

1

2

1. 山の上古墳群遠景〈南から〉　2. 山の上ST008古墳〈南から〉

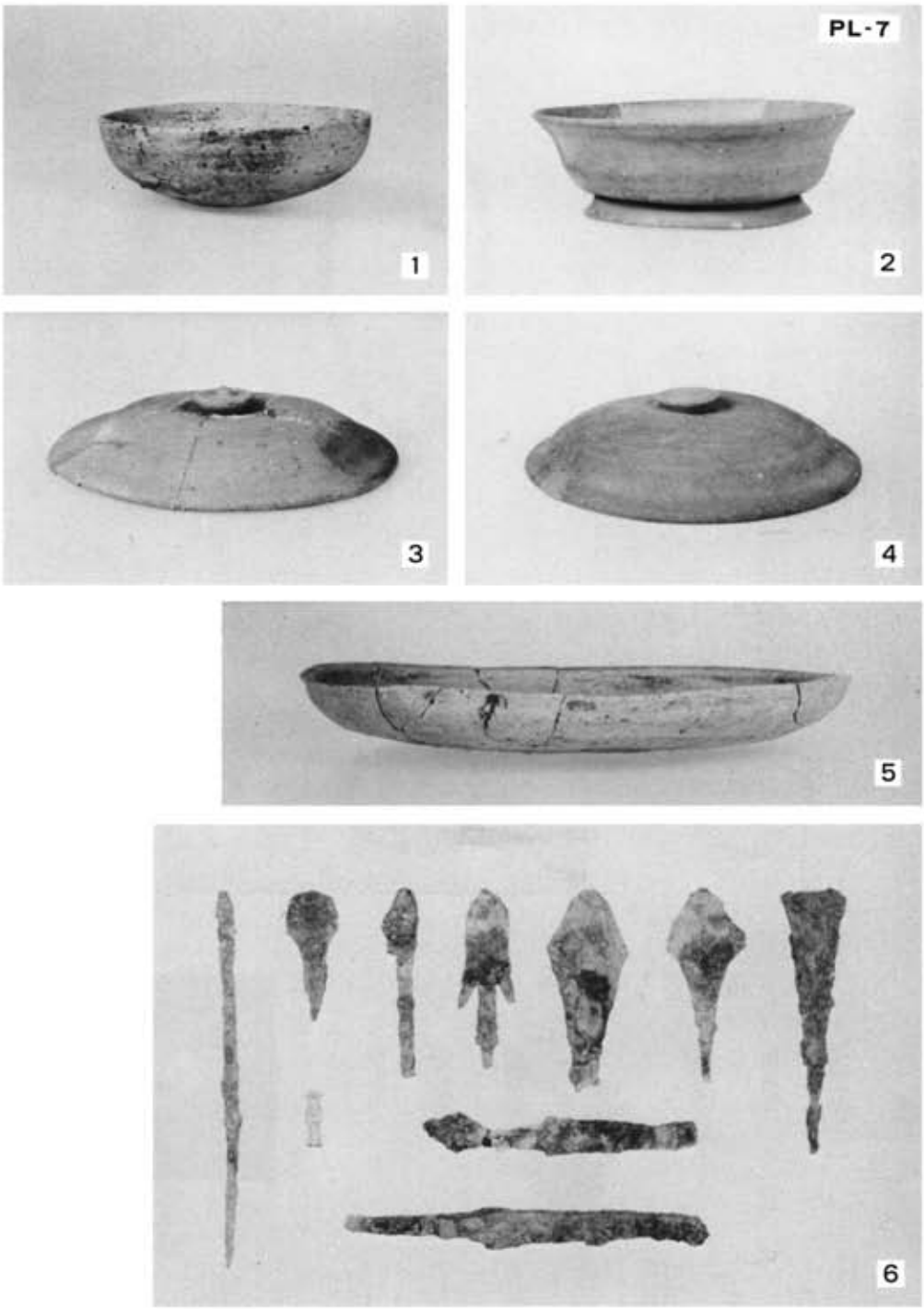
1. 山の上ST009古墳〈南から〉　2. 山の上ST009古墳遺物出土状況

1. 山の上ST010古墳〈南から〉　2. 山の上ST011古墳〈南から〉

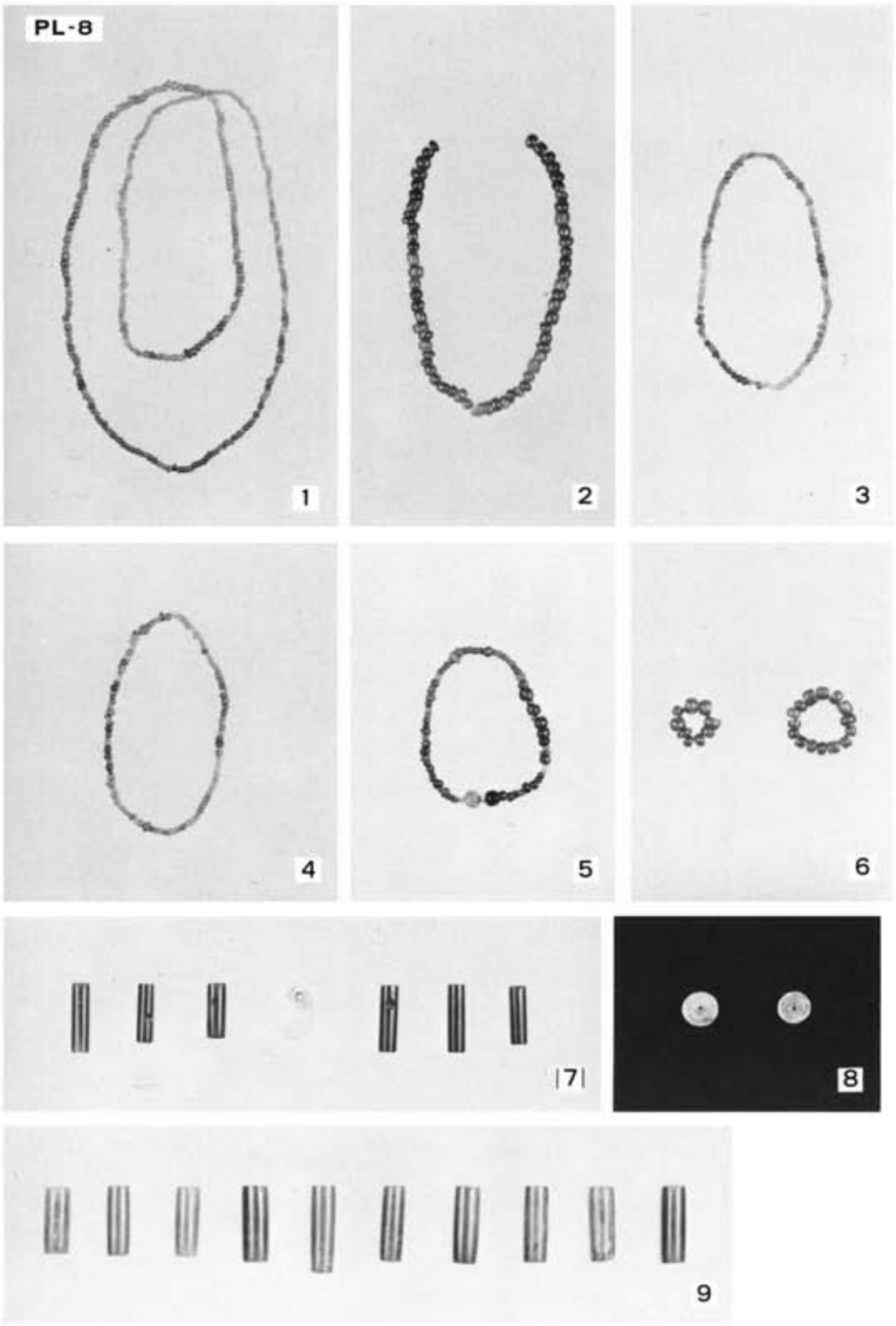
1．山の上ST012古墳〈南から〉　2．山の上ST013古墳〈西から〉

1. 山の上ST014古墳〈南から〉　2. 山の上ST014古墳奥壁

1. 山の上ST014古墳奥壁・線刻文様
2. 同　鉄器出土状況
3. 同　玉類出土状況



1.　山の上ST009古墳出土土師器
2～5.　　同　　須恵器
6.　山の上　ST014古墳出土 鉄器



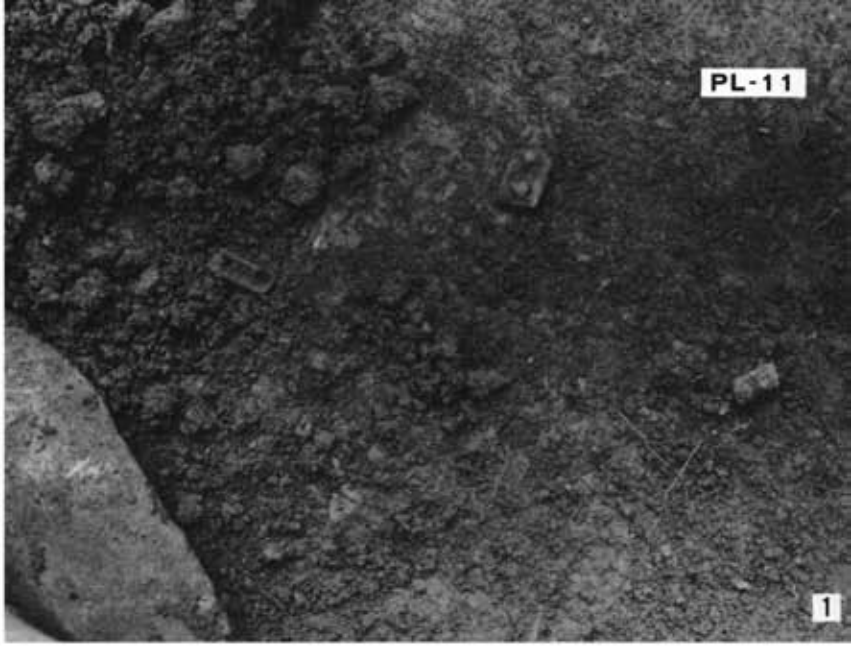
1.　山の上ST013古墳出土玉類

2～9.　同　ST014古墳出土玉類

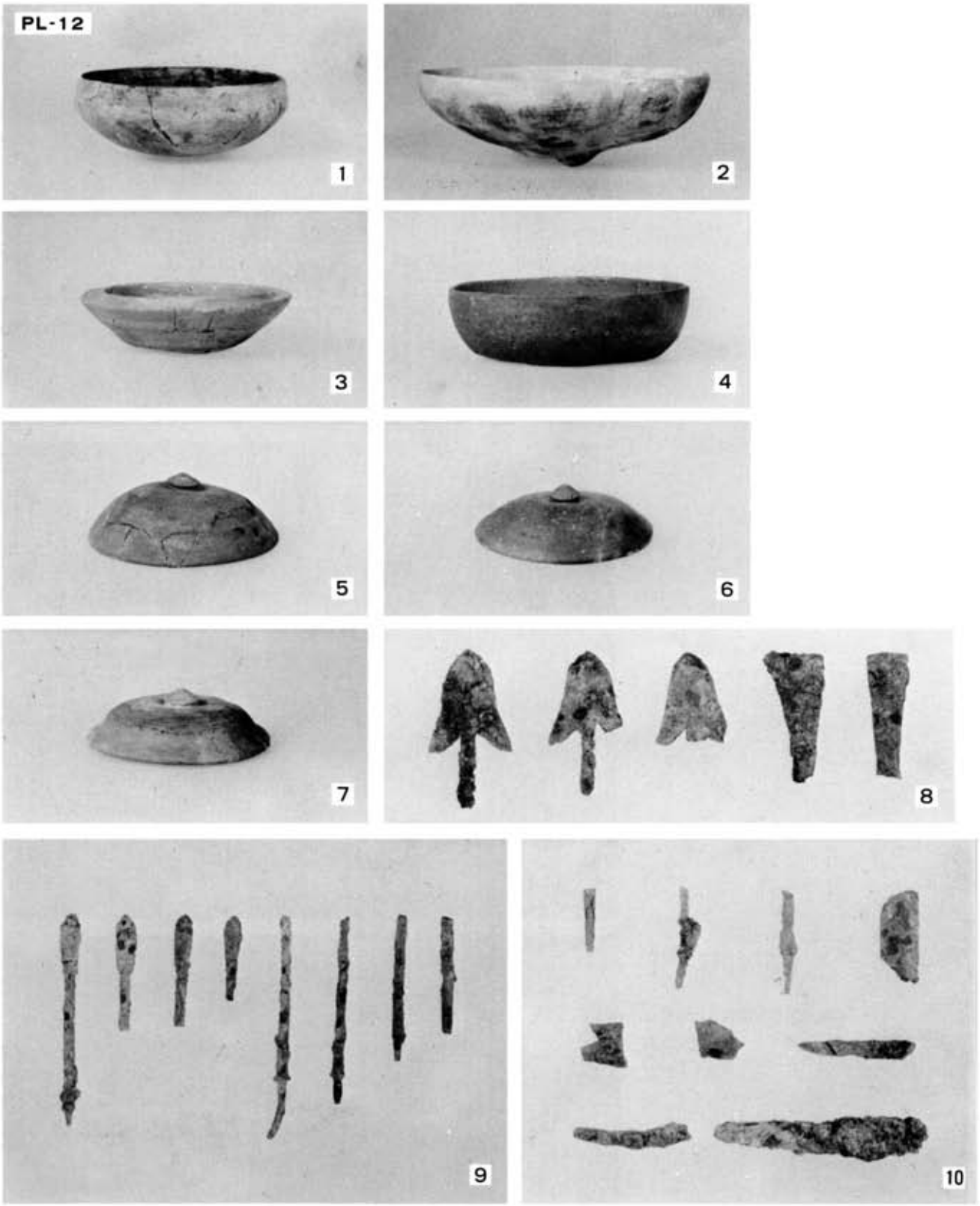
小 城 炭 坑 跡 古 墳

1．小城炭坑跡古墳遠景〈南から〉　2．小城炭坑跡古墳発掘前〈東から〉

1. 小城炭坑跡古墳〈北から〉
2. 　　同　　〈東から〉



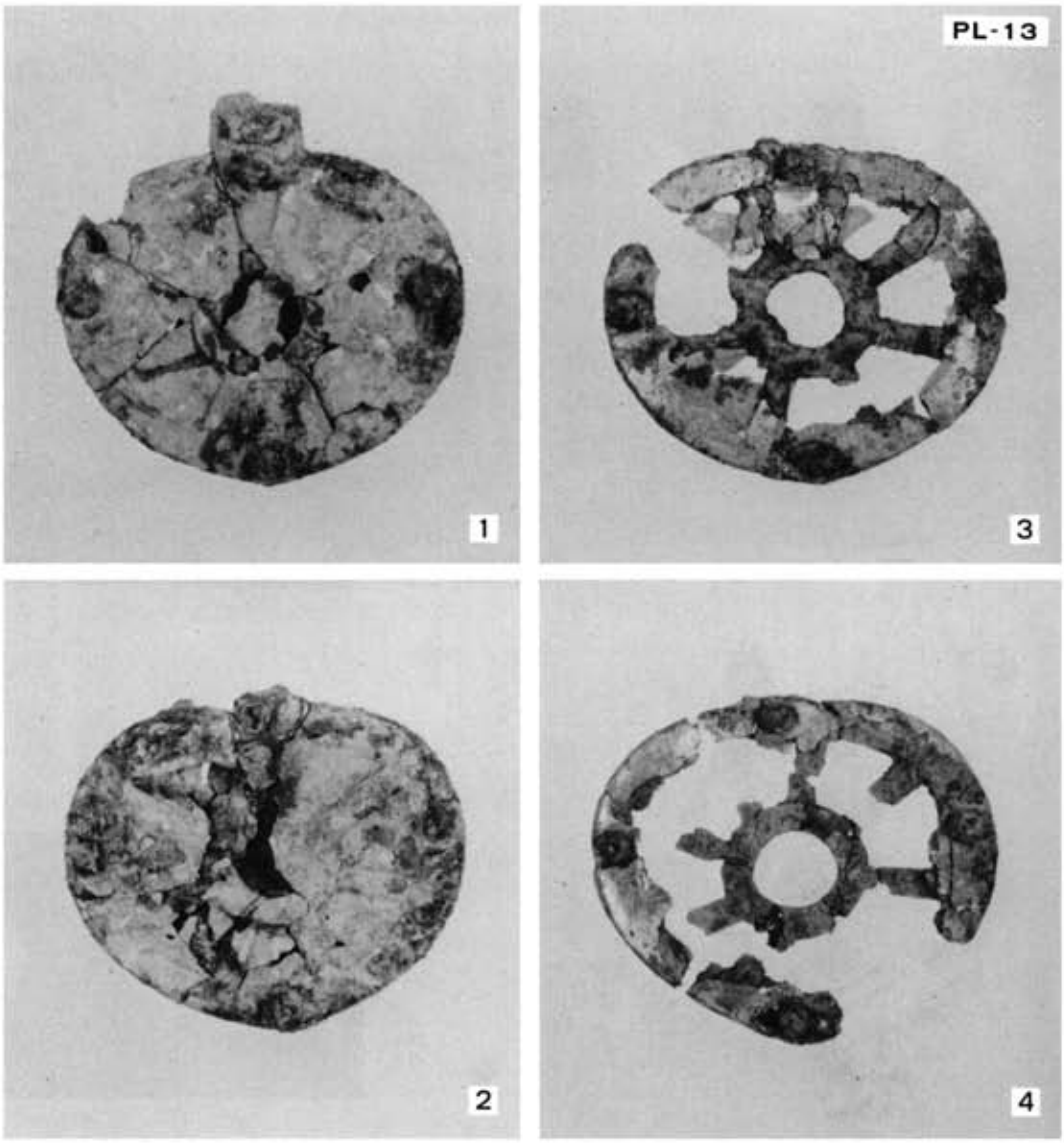
1. 小城炭坑跡古墳馬具出土状況
2. 　　同　　耳環出土状況
3. 　　同　　耳環出土状況



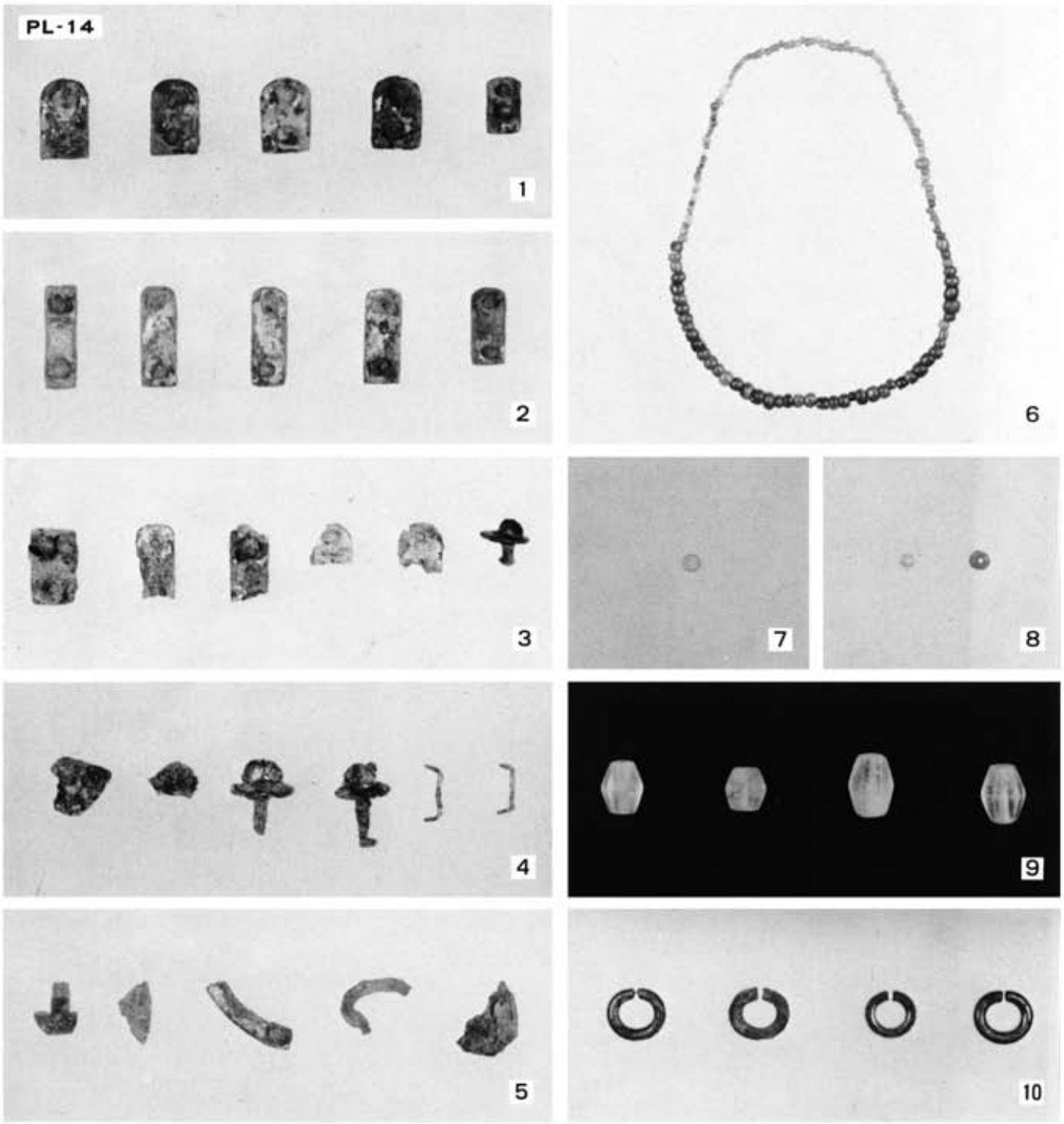
1.2. 小城炭坑跡古墳出土土師器

3～7.　　同　　出土須恵器

8～10.　　同　　出土鉄器（武器）



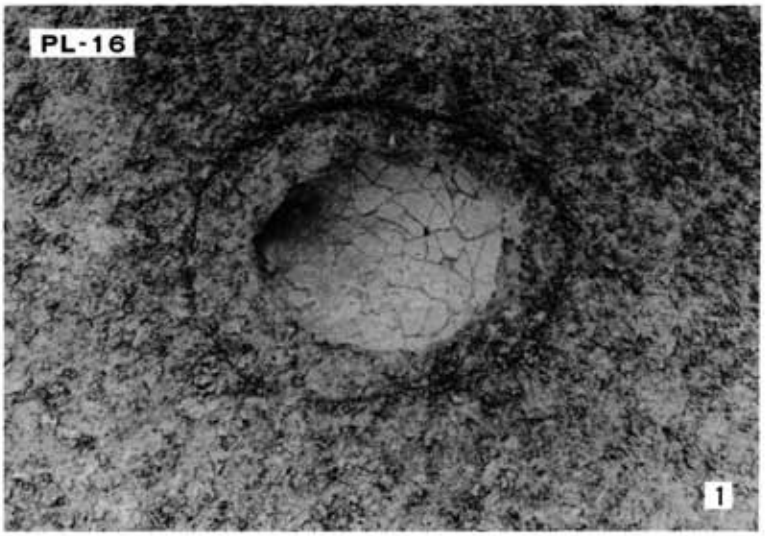
1～4．小城炭坑跡古墳出土鉄器（馬具杏葉）

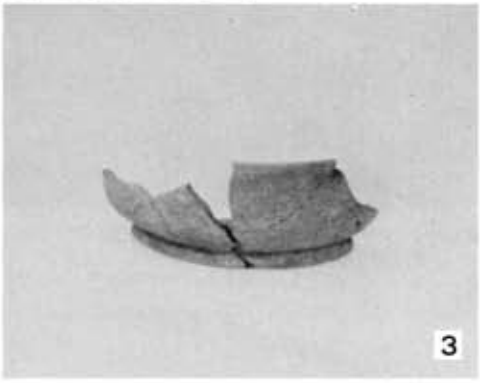


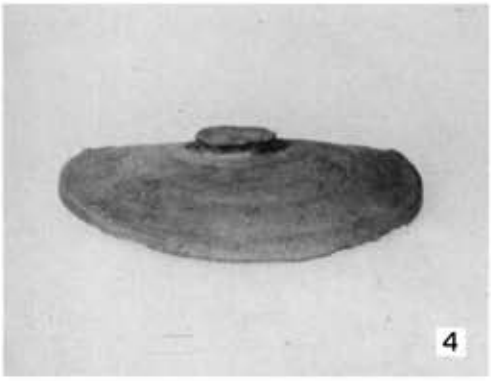
1～5. 小城炭坑跡古墳出土鉄器（馬具）
6～10. 同 出土装身具

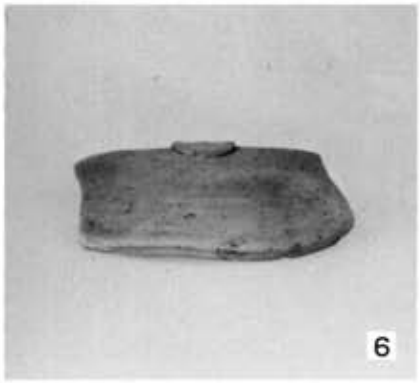
出　口　A　遺　跡

1. 出口A〈航空写真・北東から〉　2. 出口A　SX003土器溜〈東から〉





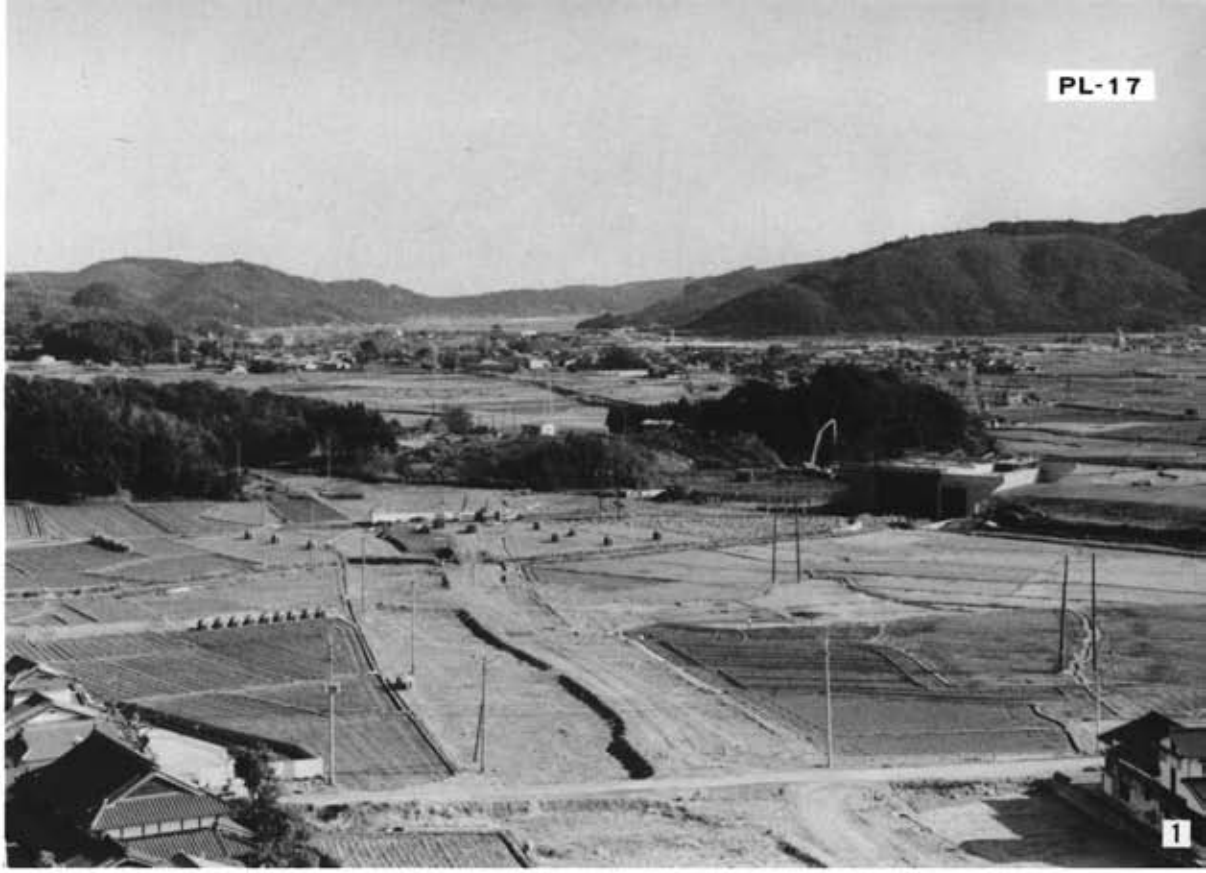




1. 出口A　SJ004甕棺墓

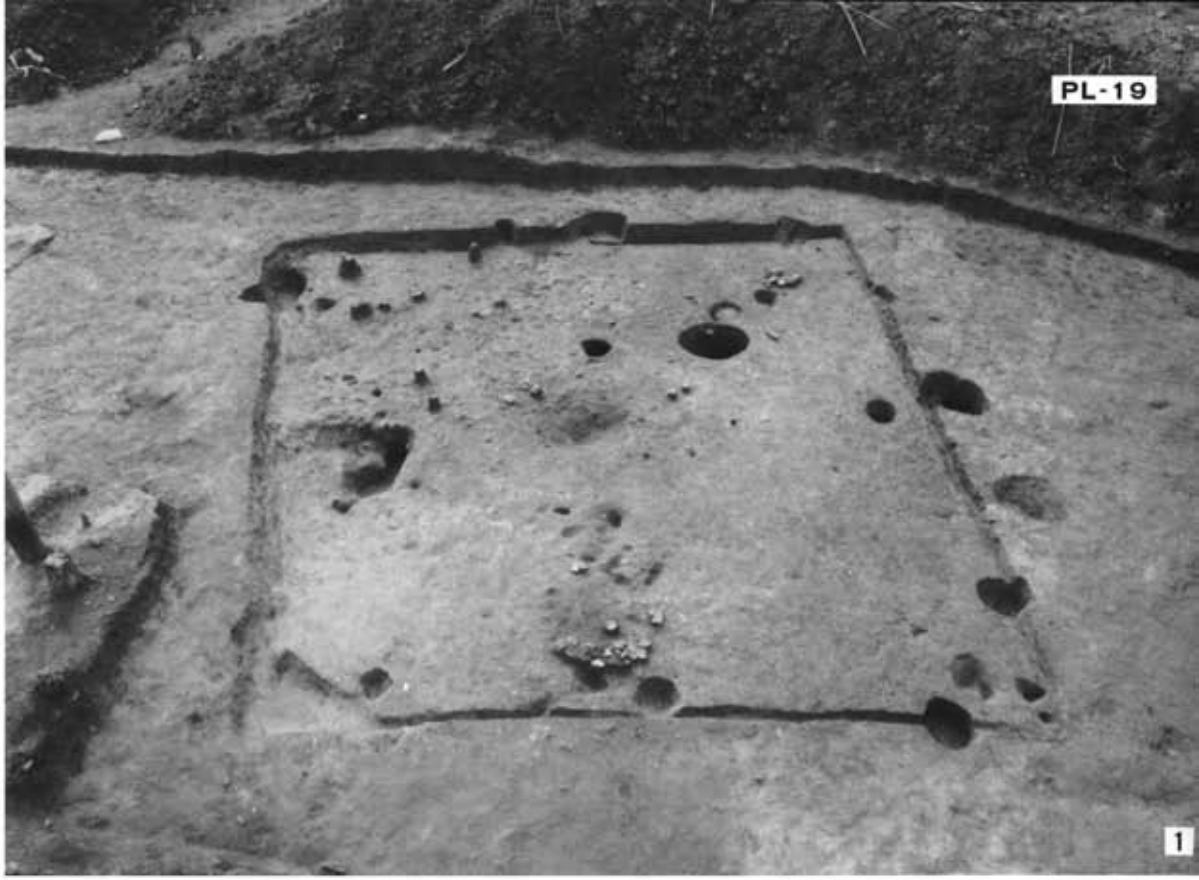
2～7　同　出土須恵器

鴻　ノ　巣　遺　跡



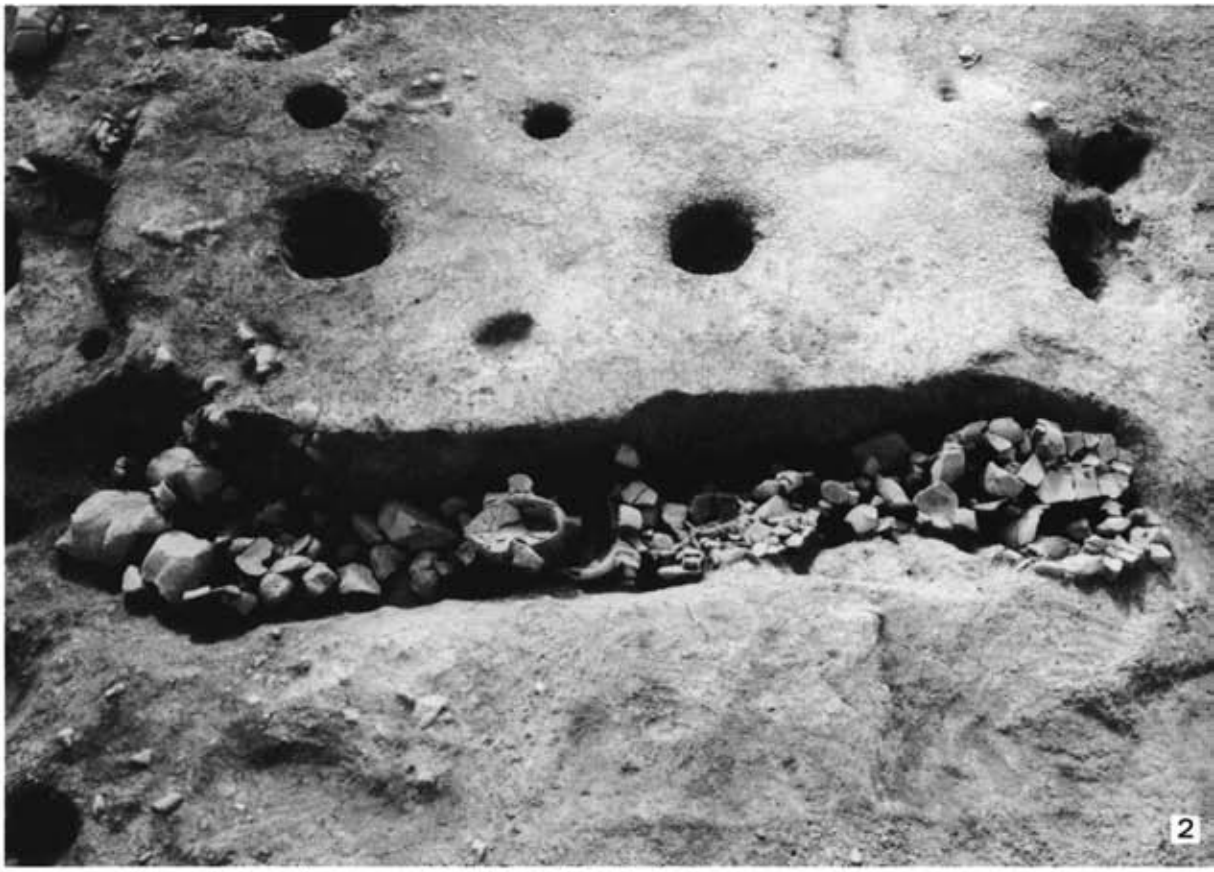
1. 鴻ノ巣 遠景〈北西から〉　2. 鴻ノ巣 遠景〈南西から〉

1．鴻ノ巣SB001住居跡〈南東から〉　2．鴻ノ巣SB002住居跡〈南東から〉

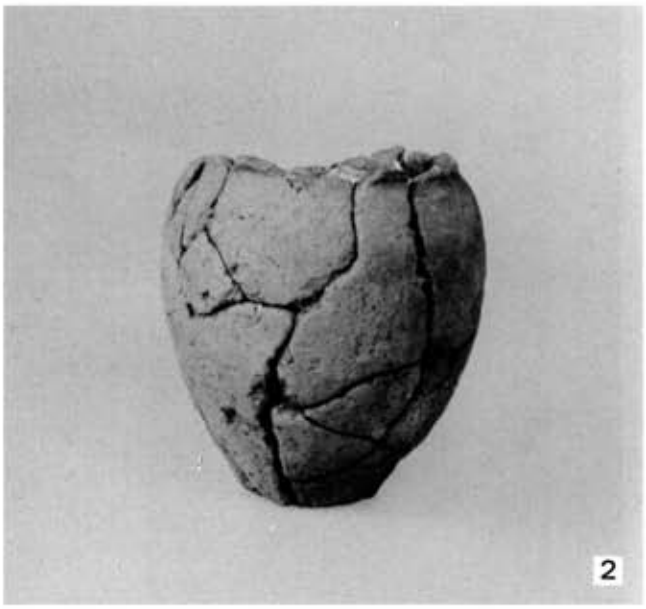


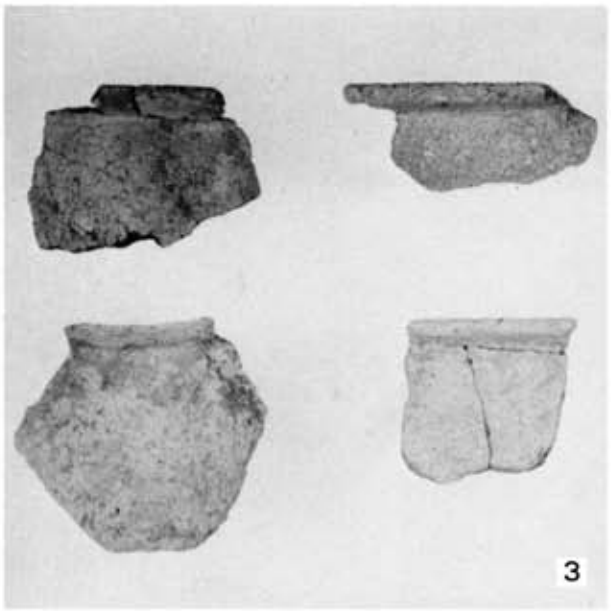
1．鴻ノ巣SB003住居跡〈東から〉　2．鴻ノ巣SB004～007住居跡全景〈北から〉

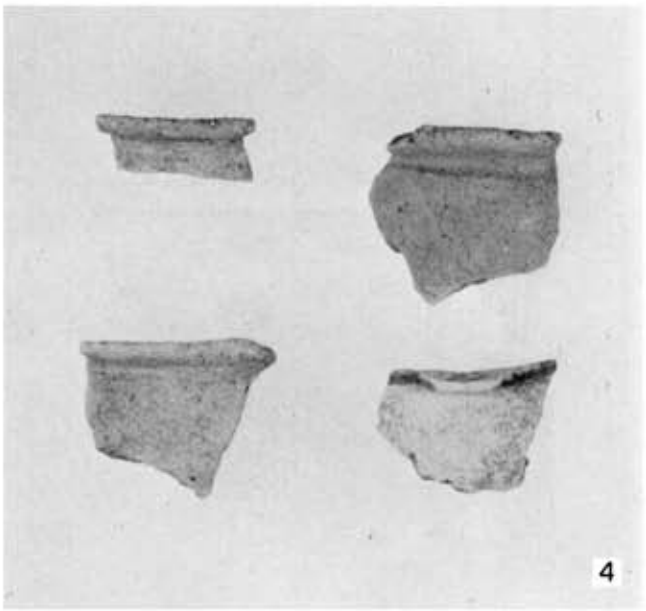
1．鴻ノ巣SB004・SB005住居跡〈東から〉　2．鴻ノ巣SB006住居跡〈北から〉



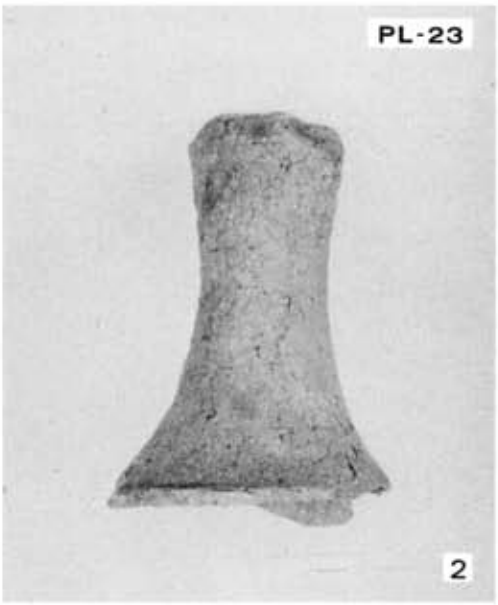
1．鴻ノ巣SB007住居跡〈北から〉　2．鴻ノ巣SX008土器溜〈東から〉

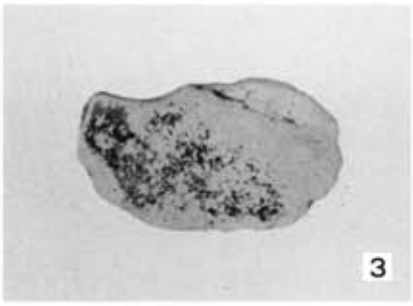


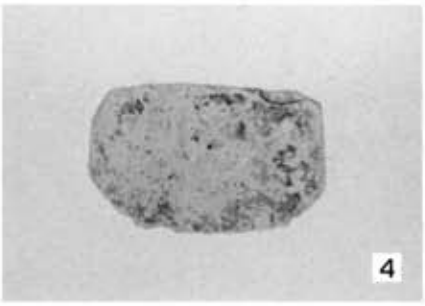


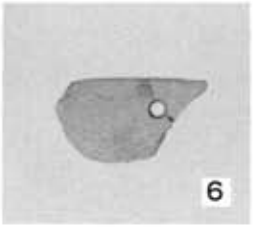


1．鴻ノ巣SX008土器溜出土弥生土器
2･3．同　SB002住居跡出土弥生土器
4．　同　SB001　　〃
5．鴻ノ巣SB005住居跡出土弥生土器
6．　同　SX008土器溜出土弥生土器

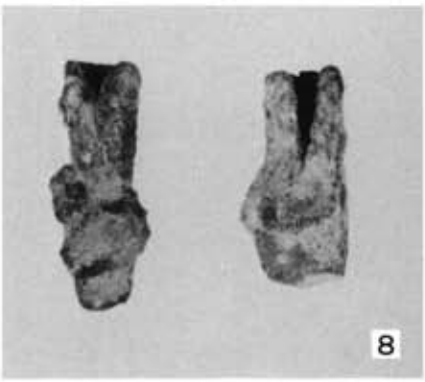








1. 鴻ノ巣SB005住居跡出土弥生土器
2.　同　SB001住居跡出土弥生土器
3～5. 同　SB006住居跡出土石器
6.　同　SB002住居跡出土石庖丁
7.　同　SB006住居跡出土砥石
8.　同　SB002住居跡出土鉄斧



佐賀県文化財調査報告書第76集

東 多久バイパス関係
文化財発掘調査報告書

昭和59年 3 月30日 印刷
昭和59年 3 月31日 発行

編集 佐賀県教育庁文化課
発行 佐賀市城内 1 丁目

印刷 日之出印刷株式会社
佐賀市高木瀬町大和工業団地